

神川町まちづくりアンケート調査
報 告 書

令和6年11月
神 川 町

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査の概要	1
	(3) 本調査結果報告書の留意点	1
2	回答者の属性	2
	(1) 性別	2
	(2) 年齢	2
	(3) 居住年数	5
	(4) 世帯	6
	(5) 居住地区	7
	(6) 職業	8
	(7) 就学先・勤務先	10
	(8) 家族構成	12
	(9) 隣近所との関わり方	13
II	調査結果	14
1	神川町について	14
	(1) 神川町の住みやすさ	14
	(2) 住みやすいと感じる理由	16
	(3) 住みにくいと感じる理由	18
	(4) 今後も住み続けたいか	20
	(5) 住み続けたいと感じる理由	22
	(6) 転出したいと感じる理由	24
	(7) 自慢できるもの	26
	(8) これからの神川町について	29
2	現在の施策（取り組み）・生活環境について	31
	(1) 生活環境やまちづくりの現状についての満足度及び重要度	31
	(2) 満足度と重要度の相関関係	40
3	属性にみる満足度と重要度	46
	(1) 保健・医療・福祉・介護	46
	(2) 生活環境	52
	(3) 産業振興	63
	(4) 教育・文化	68
	(5) 行財政・まちづくり	73
4	これからのまちづくりについて	77
4-1	農林業・商工業に対する支援として力を入れるべきこと	77
	(1) 農林業の活性化のために	77
	(2) 商工業の活性化のために	79
4-2	交流人口や移住・定住者の増加につなげるために、力を入れるべきこと	81

(1) 交流人口を増やすための取り組みについて.....	81
(2) 移住者に選ばれるまち、町民が住み続けたいと思えるまち.....	83
4-3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、力をいれるべきこと	85
(1) 町が行う結婚支援について	85
(2) 町が行う妊娠から出産への支援について	87
(3) 町が行う子育て支援について.....	89
(4) 未来を担う子どもたちに対する教育のあり方について	91
4-4 安心・安全で住みやすい地域づくりのために、力をいれるべきこと	93
(1) 高齢者が安心して暮らせるためには.....	93
(2) 防災に対する取り組みについて.....	95
(3) 地域コミュニティの活性化のためには.....	97
4-4 デジタルを活用したまちづくりについて.....	99
(1) インターネット接続方法について.....	99
(2) 所有している通信機器について.....	101
(3) デジタル行政サービスについて.....	103
(4) デジタル化促進の取り組みについて	105
(5) デジタル化の恩恵を受けるために.....	107
(6) デジタル化推進施策について.....	109
(7) 消滅可能性自治体から脱却するために	111
5 自由回答	113

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

地域の特性を活かした人口減少対策をさらに深化させていくため「第3期神川町総合戦略」を策定いたします。この計画は、これからの人口減少対策やまちづくりを進めていくうえでの基本的な計画となるものです。計画の策定にあたりアンケート調査を実施し、町民の皆さまのご意見を広く取り入れ計画に反映することを目的に実施いたしました。

(2) 調査の概要

調査地域	神川町全域
調査対象	神川町在住の満18歳以上の町民（令和6年7月1日現在）
調査方法	郵送による配布、郵送・WEBによる回収
対象者数(配布数)	2,000人
抽出方法	住民基本台帳から等間隔無作為抽出
有効回収数	574人
有効回収率	28.7%
実施期間	令和6年7月中旬～8月中旬

(3) 本調査結果報告書の留意点

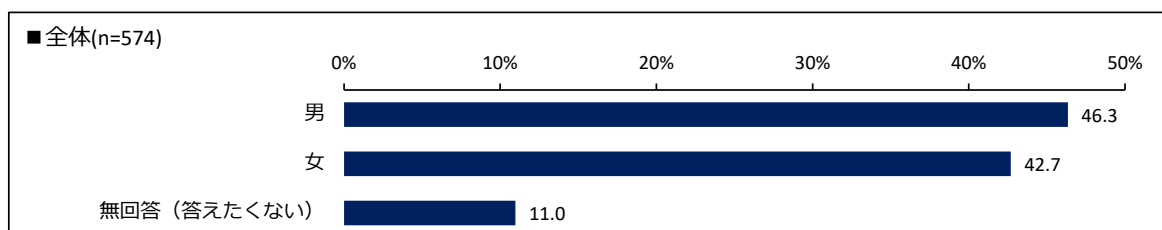
- ・比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ・各設問の回答数は、“n”（number of case）として掲載し、各比率は全体の“n”を100%として算出しました。
- ・複数回答の問（「3つまで○」等複数の選択肢から1つ以上の選択肢を選んで回答する形式）は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・今回の調査は、神川町全人口に対して回答数が少数ですが、総務省統計局の標本調査の考えに基づき、回答比率0.5、標本誤差は5%、信頼水準95%（ $\lambda=1.96$ ）として、統計学的に必要な回答数を満たしているため、有意性は確保されています。
- ・問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。
- ・選択肢の文言が長い場合、本文や表・グラフでは省略した表現を用いています。
- ・本調査結果報告書の構成上、問の順番が前後する場合があります。
- ・属性を回答していない方がいるため、属性の回答数合計と全体の回答数は異なります。
- ・年齢別のクロス集計における「18歳～19歳」については回答者数が少ないため、有意性は低くなります。
- ・調査結果の表の網掛けは、最も高い項目を表しています。

2 回答者の属性

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が46.3%、「女性」が42.7%、「無回答（答えたくない）」が11.0%となっています。

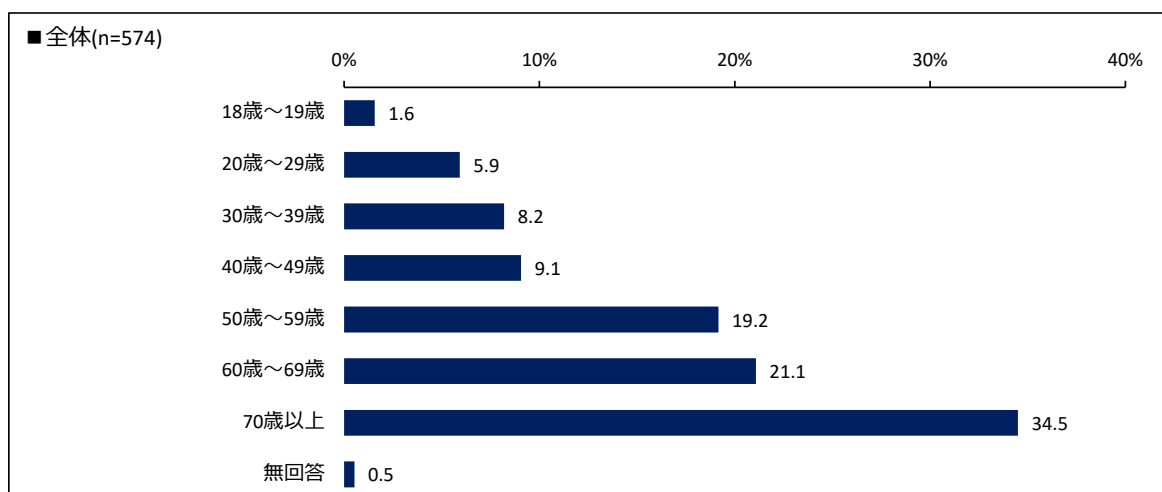
性別／全体



(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が34.5%で最も多く、次いで「60歳～69歳」(21.1%)、「50歳～59歳」(19.2%)、「40歳～49歳」(9.1%)、「30歳～39歳」(8.2%)、「20歳～29歳」(5.9%)、「18歳～19歳」(1.6%)の順となっています。

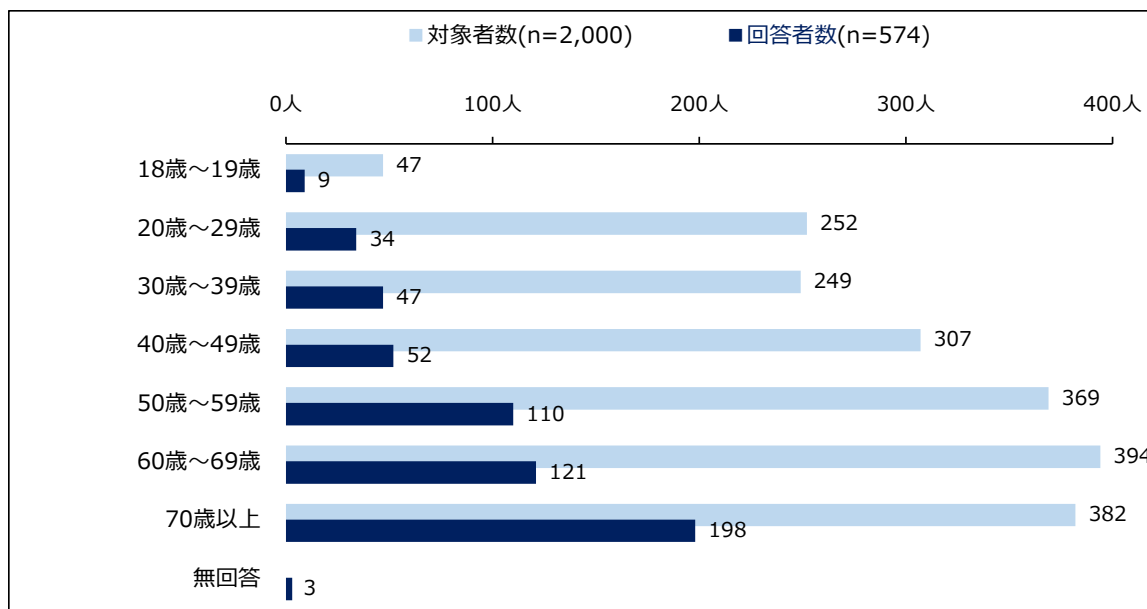
年齢／全体



調査票は神川町在住の満 18 歳以上の町民から無作為抽出で選出し、2,000 人の対象者に発送されており、それに対する回答者数は 574 人となっています。

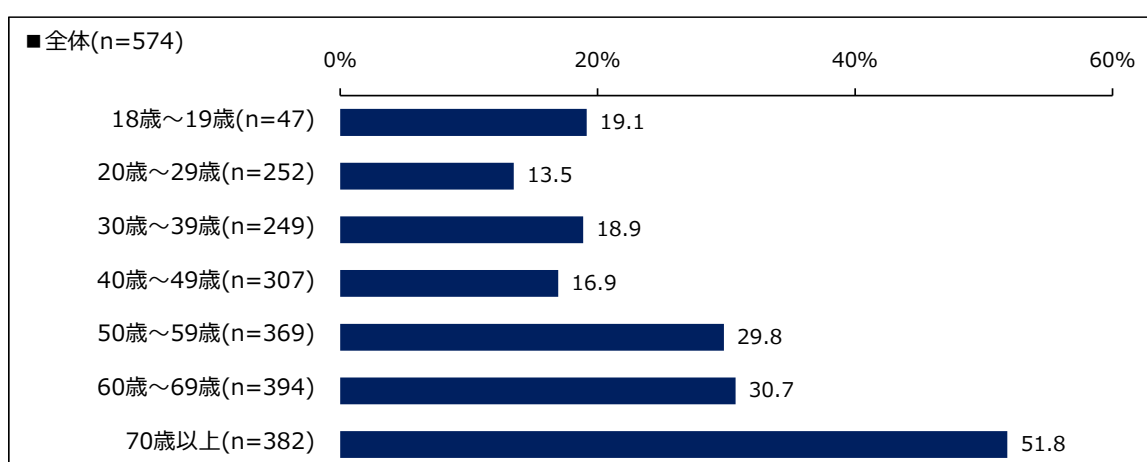
対象者数と回答者数を年齢別にみると、対象者数及び回答者数が最も少ないのは「18 歳～19 歳」で、対象者数 47 人に対して回答者数は 9 人となっています。

年齢／対象者数と回答者数の比較



対象者数に対する回答者数の割合を年齢別にみると、「70 歳以上」が 51.8%で最も多く、次いで「60 歳～69 歳」(30.7%)、「50 歳～59 歳」(29.8%)、「18 歳～19 歳」(19.1%)、「30 歳～39 歳」(18.9%)、「40 歳～49 歳」(16.9%)、「20 歳～29 歳」(13.5%) の順となっています。

年齢／対象者数に対する回答者数の割合



※ n = 対象者数

年齢別回答者数を居住地区別でみると、各小学校区では「70 歳以上」と回答した人数が最も多くなっています。（神泉小学校区では、50 歳～59 歳も 13 人で最も多い。）

年齢／全体、居住地区別の回答者数

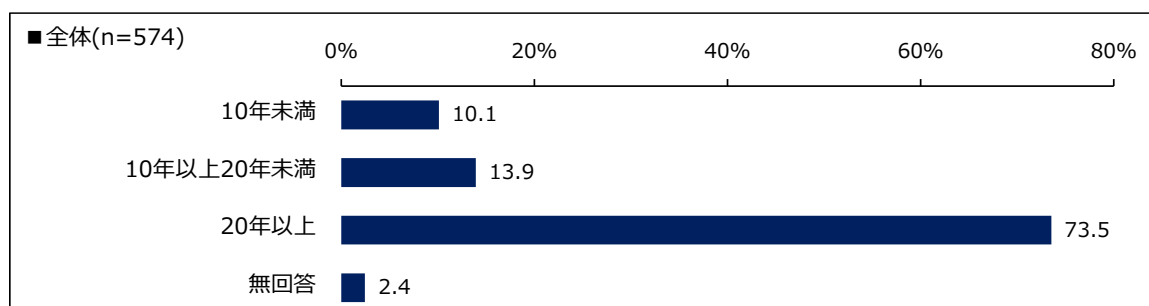
（単位：人）

		標 本 数	1 8 歳 ～ 1 9 歳	2 0 歳 ～ 2 9 歳	3 0 歳 ～ 3 9 歳	4 0 歳 ～ 4 9 歳	5 0 歳 ～ 5 9 歳	6 0 歳 ～ 6 9 歳	7 0 歳 以 上	無 回 答
全 体		574	9	34	47	52	110	121	198	3
居 住 地 区 別	丹 荘 小 学 校 区	293	5	18	27	36	50	59	95	3
	青 柳 小 学 校 区	175	2	13	15	10	35	38	62	0
	渡 瀬 小 学 校 区	60	2	2	1	4	12	17	22	0
	神 泉 小 学 校 区	37	0	0	4	2	13	5	13	0

(3) 居住年数

回答者の居住年数は、「20 年以上」が 73.5%で最も多く、次いで「10 年以上 20 年未満」(13.9%)、「10 年未満」(10.1%) の順となっています。

居住年数／全体



年齢別でみると、18 歳～19 歳を除くすべての年齢層で、「20 年以上」が最も多くなっています。居住地区別でみると、各地区とも「20 年以上」の割合が多いが、丹荘小学校区の「20 年以上」(66.9%) は、他の地区に比べて比較的少なくなっています。

居住年数／全体、年齢別、居住地区別

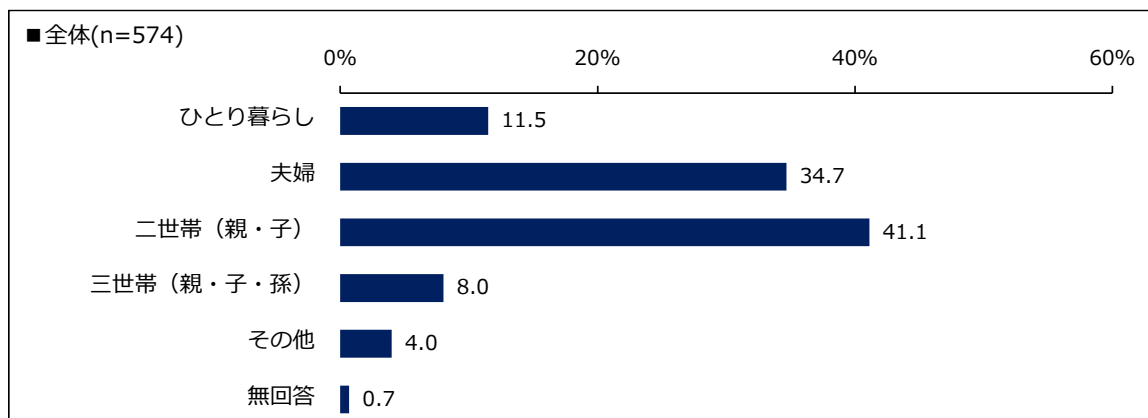
(単位：%)

		標 本 数	1 0 年 未 満	2 0 年 未 満 1 0 年 以 上	2 0 年 以 上	無 回 答
全 体		574	10.1	13.9	73.5	2.4
年 齢 別	18歳～19歳	9	22.2	77.8	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	32.4	8.8	58.8	0.0
	30歳～39歳	47	38.3	19.1	42.6	0.0
	40歳～49歳	52	11.5	40.4	46.2	1.9
	50歳～59歳	110	9.1	18.2	70.0	2.7
	60歳～69歳	121	6.6	4.1	86.8	2.5
	70歳以上	198	1.5	7.6	87.4	3.5
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	13.0	17.4	66.9	2.7
	青柳小学校区	175	7.4	8.0	82.3	2.3
	渡瀬小学校区	60	5.0	10.0	83.3	1.7
	神泉小学校区	37	8.1	18.9	73.0	0.0

(4) 世帯

回答者の世帯は、「二世帯（親・子）」が41.1%で最も多く、次いで「夫婦」（34.7%）、「ひとり暮らし」（11.5%）、「三世帯（親・子・孫）」（8.0%）、「その他」（4.0%）の順となっています。

世帯／全体



年齢別でみると、60歳～69歳、70歳以上では「夫婦」（44.6%、49.0%）が最も多く、その他の年齢では、「二世帯」が最も多くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区、神泉小学校区では「夫婦」（38.3%、40.5%）が多くなっています。（神泉小学校は「二世帯親子」も同順位）

世帯／全体、年齢別、居住地区別

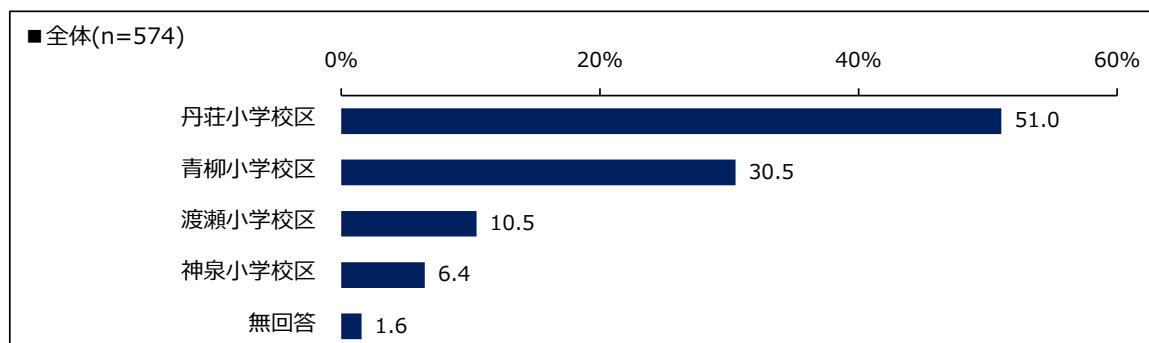
(単位：%)

		標 本 数	ひ と り 暮 ら し	夫 婦	(親 ・ 二 子 ・ 世 帯)	(親 ・ 三 子 ・ 世 帯 ・ 孫)	そ の 他	無 回 答
全 体		574	11.5	34.7	41.1	8.0	4.0	0.7
年 齢 別	18歳～19歳	9	11.1	0.0	66.7	22.2	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	5.9	8.8	67.6	11.8	5.9	0.0
	30歳～39歳	47	10.6	8.5	70.2	8.5	0.0	2.1
	40歳～49歳	52	3.8	11.5	73.1	5.8	3.8	1.9
	50歳～59歳	110	10.9	30.0	53.6	3.6	1.8	0.0
	60歳～69歳	121	16.5	44.6	29.8	5.8	2.5	0.8
	70歳以上	198	12.1	49.0	20.2	11.1	7.1	0.5
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	9.2	33.1	45.1	8.9	3.1	0.7
	青柳小学校区	175	12.0	33.7	39.4	10.3	4.0	0.6
	渡瀬小学校区	60	16.7	38.3	31.7	3.3	8.3	1.7
	神泉小学校区	37	13.5	40.5	40.5	0.0	5.4	0.0

(5) 居住地区

回答者の居住地区は、「丹荘小学校区」が51.0%で最も多く、次いで「青柳小学校区」(30.5%)、「渡瀬小学校区」(10.5%)、「神泉小学校区」(6.4%)の順となっています。

居住地区／全体



年齢別でみると、各年齢とも「丹荘小学校」の割合が最も多く、特に40歳～49歳(69.2%)では、7割近くを占めます。

居住地区／全体、年齢別

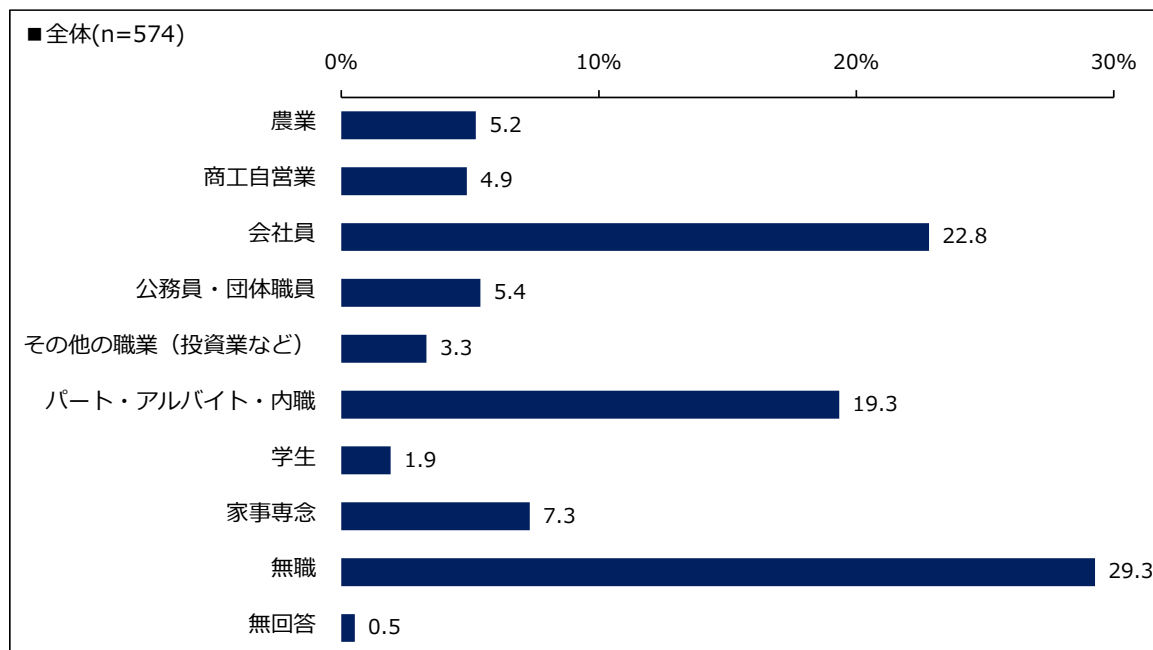
(単位：%)

		標 本 数	丹 荘 小 学 校 区	青 柳 小 学 校 区	渡 瀬 小 学 校 区	神 泉 小 学 校 区	無 回 答
全 体		574	51.0	30.5	10.5	6.4	1.6
年 齢 別	18歳～19歳	9	55.6	22.2	22.2	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	52.9	38.2	5.9	0.0	2.9
	30歳～39歳	47	57.4	31.9	2.1	8.5	0.0
	40歳～49歳	52	69.2	19.2	7.7	3.8	0.0
	50歳～59歳	110	45.5	31.8	10.9	11.8	0.0
	60歳～69歳	121	48.8	31.4	14.0	4.1	1.7
	70歳以上	198	48.0	31.3	11.1	6.6	3.0

(6) 職業

回答者の職業は、「無職」が29.3%で最も多く、次いで「会社員」(22.8%)、「パート・アルバイト・内職」(19.3%)、「家事専念」(7.3%)等の順となっています。

職業／全体



性別でみると、男性では「無職」(31.6%)、女性では「パート・アルバイト・内職」(27.3%)が最も多くなっています。

年齢別でみると、60歳～69歳では「パート・アルバイト・内職」(32.2%)、70歳以上では「無職」(64.1%)が最も多くなっています。

住居地区別では、神泉小学校区では「会社員」(29.7%)が最も多くなっています。

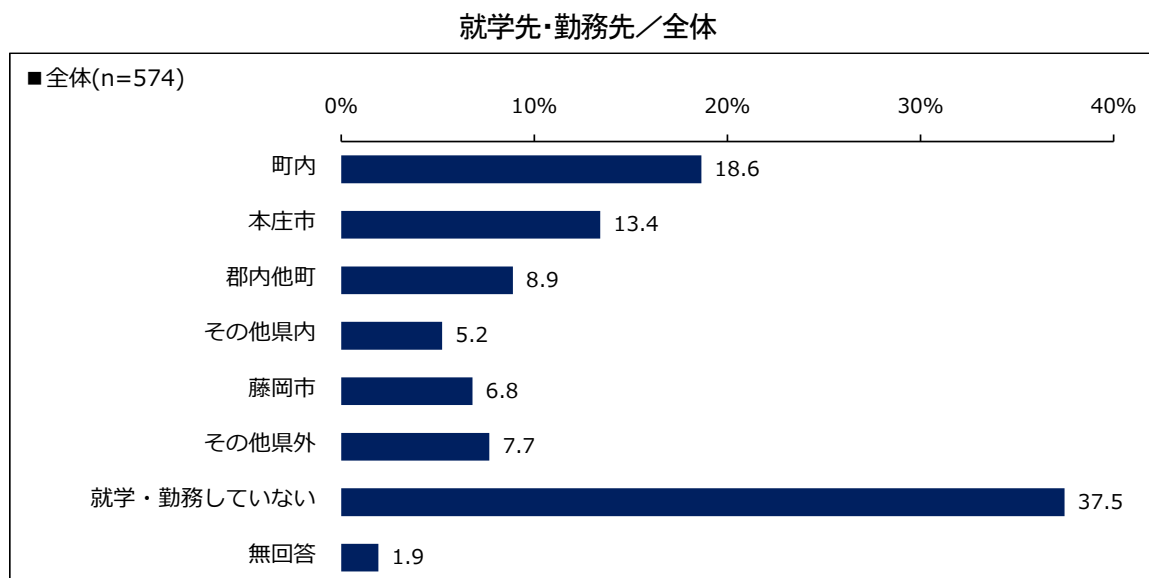
職業／全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位：%)

		標 本 数	農 業	商 工 自 営 業	会 社 員	公 務 員 ・ 団 体 職 員	そ の 他 の 職 業 (投 資 業 な ど)	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト ・ 内 職	学 生	家 事 専 念	無 職	無 回 答
全 体		574	5.2	4.9	22.8	5.4	3.3	19.3	1.9	7.3	29.3	0.5
性 別	男	266	7.1	6.0	30.8	6.0	4.1	10.9	1.5	1.1	31.6	0.8
	女	245	3.7	3.7	15.1	5.7	1.6	27.3	2.9	14.7	24.9	0.4
年 齢 別	18歳～19歳	9	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	55.6	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	0.0	2.9	38.2	8.8	5.9	17.6	17.6	5.9	2.9	0.0
	30歳～39歳	47	2.1	2.1	40.4	19.1	6.4	25.5	0.0	0.0	4.3	0.0
	40歳～49歳	52	5.8	1.9	42.3	3.8	1.9	38.5	0.0	1.9	3.8	0.0
	50歳～59歳	110	0.9	5.5	48.2	10.9	3.6	19.1	0.0	7.3	4.5	0.0
	60歳～69歳	121	5.8	7.4	14.9	2.5	2.5	32.2	0.0	7.4	25.6	1.7
	70歳以上	198	8.1	5.1	1.5	0.5	3.0	6.1	0.0	11.1	64.1	0.5
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	2.7	5.1	25.6	5.1	3.1	20.1	2.4	6.8	29.0	0.0
	青柳小学校区	175	11.4	4.0	22.3	5.7	2.3	18.3	0.6	6.9	28.6	0.0
	渡瀬小学校区	60	3.3	5.0	10.0	3.3	5.0	23.3	5.0	6.7	33.3	5.0
	神泉小学校区	37	0.0	5.4	29.7	10.8	5.4	13.5	0.0	13.5	21.6	0.0

(7) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先は、「就学・勤務していない」(37.5%)を除くと、「町内」が18.6%で最も多く、次いで「本庄市」(13.4%)、「郡内他町」(8.9%)、「その他県外」(7.7%)、「藤岡市」(6.8%)等の順となっています。



性別でみると、男性は「町内」(20.3%)、女性は「本庄市」(17.6%) が最も多くなっています。

年齢別でみると、比較的若い年齢層は「本庄市」、年齢層が上がってくると「町内」の割合が多くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では「藤岡市」(16.7%) が最も多くなっています。他の地区は、『町内』が最も多くなっています。(いずれも「就学・勤務していない」を除く)

就学先・勤務先／全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位：%)

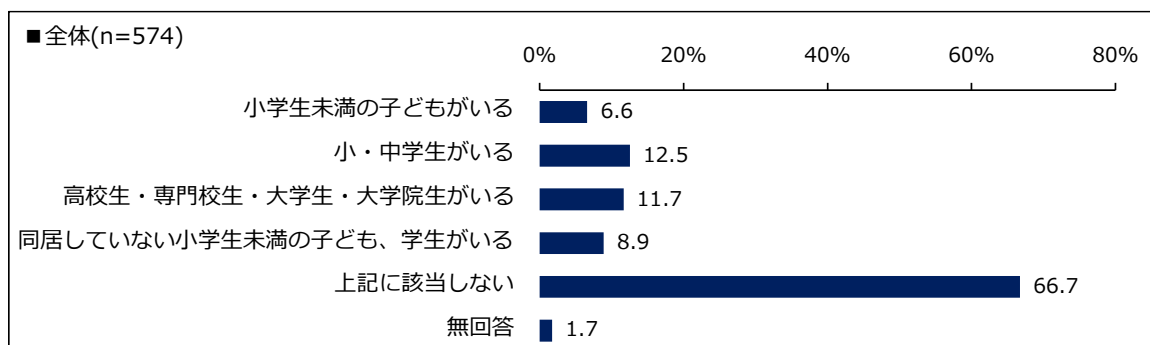
		標 本 数	町 内	本 庄 市	郡 内 他 町	そ の 他 県 内	藤 岡 市	そ の 他 県 外	就 学 ・ 勤 務 し て い な い	無 回 答
全 体		574	18.6	13.4	8.9	5.2	6.8	7.7	37.5	1.9
性 別	男	266	20.3	9.0	7.9	8.6	7.1	10.9	33.5	2.6
	女	245	17.1	17.6	10.6	1.6	6.1	4.9	40.8	1.2
年 齢 別	18歳～19歳	9	11.1	22.2	0.0	22.2	0.0	44.4	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	14.7	20.6	17.6	11.8	5.9	20.6	8.8	0.0
	30歳～39歳	47	27.7	27.7	12.8	6.4	10.6	10.6	4.3	0.0
	40歳～49歳	52	23.1	23.1	7.7	9.6	21.2	9.6	5.8	0.0
	50歳～59歳	110	22.7	18.2	16.4	10.0	10.0	10.0	11.8	0.9
	60歳～69歳	121	22.3	14.9	9.9	1.7	5.8	8.3	34.7	2.5
	70歳以上	198	12.1	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	76.8	3.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	17.4	15.4	9.2	6.5	4.8	8.9	36.2	1.7
	青柳小学校区	175	22.9	15.4	7.4	4.6	4.6	5.7	37.7	1.7
	渡瀬小学校区	60	13.3	3.3	10.0	3.3	16.7	8.3	40.0	5.0
	神泉小学校区	37	18.9	8.1	10.8	2.7	16.2	8.1	35.1	0.0

※網がけは最も高い項目(「就学・勤務していない」を除く)

(8) 家族構成

回答者の家族構成は、「小・中学生がいる」が12.5%で最も多く、次いで「高校生・専門校生・大学生・大学院生がいる」(11.7%)、「同居していない小学生未満の子ども・学生がいる」(8.9%)、「小学生未満の子どもがいる」(6.6%)の順となっています。なお、「上記に該当しない」は66.7%となっています。

家族構成／全体



年齢別でみると、40歳～49歳では「小・中学生の子どもがいる」(50.0%)、それ以外の年齢層では「上記に該当しない」が最も多くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区、神泉小学校区では「小・中学生の子どもがいる」(17.1%、13.5%)が他の地区に比べて比較的多くなっています。

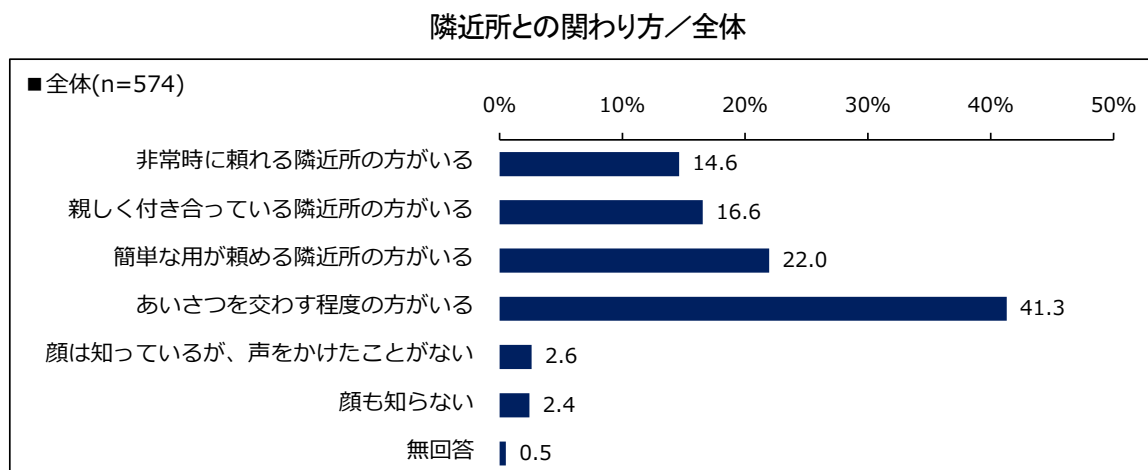
家族構成／全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位：%)

		標 本 数	小 学 生 未 満 の 子 ど も が い る	小 ・ 中 学 生 が い る	高 校 生 ・ 専 門 校 生 ・ 大 学 生 ・ 大 学 院 生 が い る	小 学 生 未 満 の 子 ど も 、 同 居 し て い な い 学 生 が い る	上 記 に 該 当 し な い	無 回 答
全 体		574	6.6	12.5	11.7	8.9	66.7	1.7
年 齢 別	18歳～19歳	9	11.1	22.2	33.3	0.0	44.4	0.0
	20歳～29歳	34	32.4	14.7	14.7	5.9	47.1	0.0
	30歳～39歳	47	29.8	34.0	6.4	0.0	44.7	0.0
	40歳～49歳	52	11.5	50.0	42.3	9.6	25.0	0.0
	50歳～59歳	110	1.8	10.9	19.1	7.3	67.3	0.0
	60歳～69歳	121	1.7	1.7	2.5	6.6	87.6	2.5
	70歳以上	198	1.0	4.5	5.1	14.1	73.7	3.5
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	8.9	17.1	13.3	8.9	61.8	1.7
	青柳小学校区	175	6.3	9.1	12.6	9.1	68.6	0.6
	渡瀬小学校区	60	0.0	1.7	6.7	11.7	81.7	1.7
	神泉小学校区	37	0.0	13.5	5.4	2.7	73.0	5.4

(9) 隣近所との関わり方

回答者の隣近所との関わり方は、「あいさつを交わす程度の方がいる」が41.3%で最も多く、次いで「簡単な用が頼める隣近所の方がいる」(22.0%)、「親しく付き合っている隣近所の方がいる」(16.6%)、「非常時に頼れる隣近所の方がいる」(14.6%)等の順となっています。



年齢別でみると、「非常時に頼れる隣近所の方がいる」「親しく付き合っている隣近所の方がいる」「簡単な用が頼める隣近所の方がいる」は、おおむね年齢層が上がるにつれて増加する傾向がみられます。

居住地区別でみると、神泉小学校区では「非常時に頼れる隣近所の方がいる」(32.4%)が他の地区に比べて多くなっています。

隣近所との関わり方／全体、性別、年齢別、居住地区別

(単位：%)

	標本数	非常時に頼れる隣近所の方がいる	親しく付き合っている隣近所の方がいる	簡単な用が頼める隣近所の方がいる	あいさつを交わす程度の方がいる	声をかけたことがないが、顔は知っているが、	顔も知らない	無回答
全 体	574	14.6	16.6	22.0	41.3	2.6	2.4	0.5
年 齢 別	18歳～19歳	9	11.1	33.3	11.1	11.1	22.2	0.0
	20歳～29歳	34	14.7	2.9	8.8	61.8	8.8	0.0
	30歳～39歳	47	4.3	12.8	19.1	51.1	4.3	0.0
	40歳～49歳	52	9.6	3.8	13.5	65.4	3.8	1.9
	50歳～59歳	110	18.2	10.9	26.4	40.0	1.8	0.0
	60歳～69歳	121	9.1	19.8	24.0	43.0	0.8	0.8
	70歳以上	198	20.2	23.2	23.7	30.8	1.0	0.5
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	13.0	13.3	20.8	46.1	4.1	0.3
	青柳小学校区	175	13.1	21.1	23.4	38.9	1.1	0.0
	渡瀬小学校区	60	16.7	15.0	21.7	38.3	0.0	1.7
	神泉小学校区	37	32.4	24.3	21.6	18.9	0.0	2.7

Ⅱ 調査結果

1 神川町について

(1) 神川町の住みやすさ

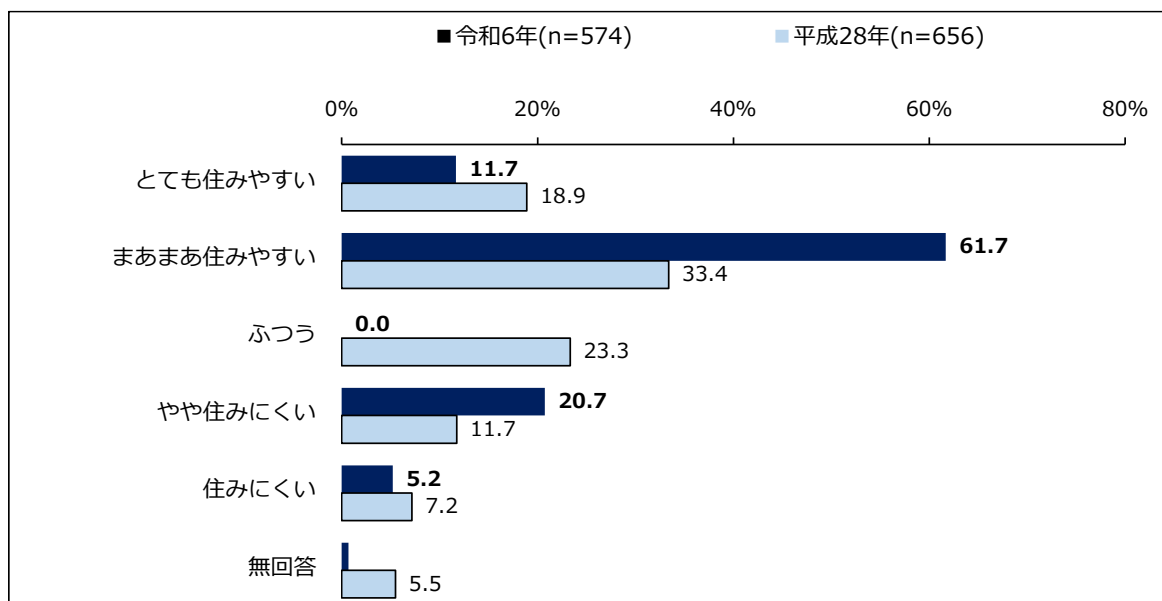
問2. 神川町は住みやすいまちだと思いますか。(1つに○)

◆『とても住みやすい』『まあまあ住みやすい』の合計が7割超(73.4%)。

神川町の住みやすさについて尋ねたところ、「まあまあ住みやすい」が61.7%で最も多く、これに「とても住みやすい」(11.7%)を合わせた『住みやすい』は73.4%となっています。一方、「やや住みにくい」(20.7%)及び「住みにくい」(5.2%)の合計は25.9%となっています。

経年比較については、選択肢が前回調査と一部相違しているので、比較は難しいですが、「とても住みやすい」(11.7%)が7.2ポイント減少、「住みにくい」(5.2%)が2.0ポイント減少しています。

神川町の住みやすさ／全体(経年比較)



※今回の設問の選択肢は、「ふつう」を設けておらず、4択としました。

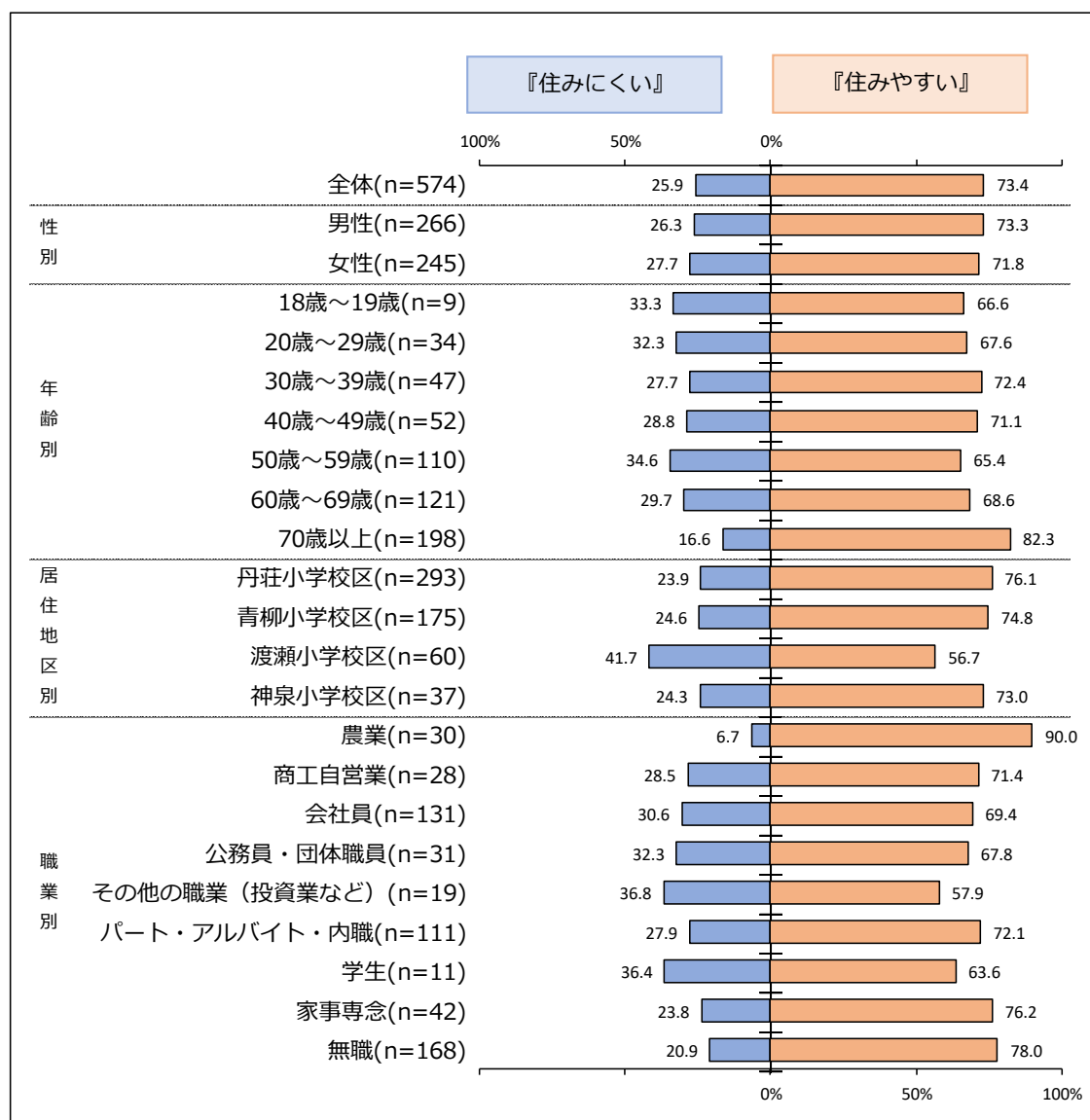
性別でみると、『住みやすい』『住みにくい』をみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別で『住みにくい』をみると、30歳未満と50歳～59歳が30%を超えています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区の『住みにくい』(41.7%)は、他の地区に比べ高くなっており、逆に『住みやすい』(56.7%)は大きく下回っています。

職業別で『住みやすい』をみると、農業(90.0%)が他の職業に比べて非常に高くなっています。一方、『住みにくい』は、その他の職業(36.8%)、学生(36.4%)、公務員・団体職員(32.3%)、会社員(30.6%)が3割を超えています。

神川町の住みやすさ／全体、性別、年齢別、居住地区別、職業別
(『住みやすい』と『住みにくい』の比較)



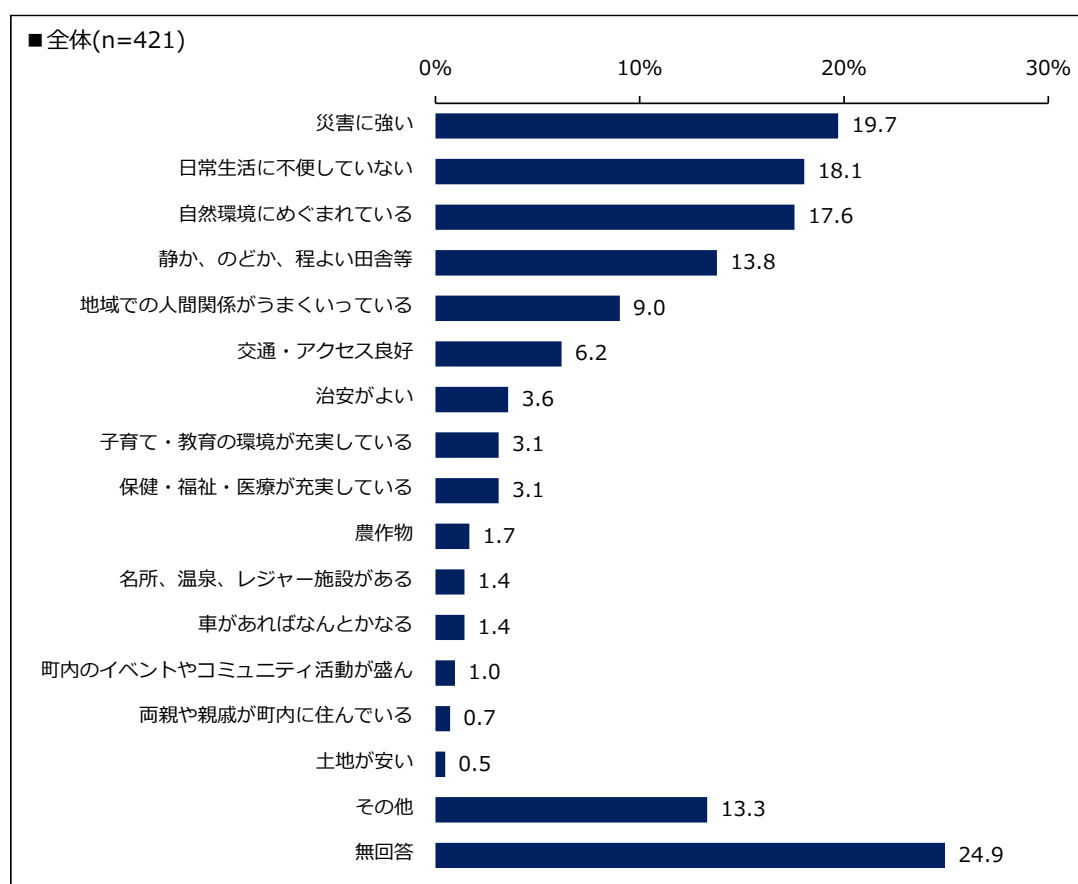
(2) 住みやすいと感じる理由

問3-(1)．神川町が住みやすいと感じる理由をご記入ください。（自由記述）

◆「災害に強い」が19.7%で最も高い。

問2で『1. とても住みやすい』(11.7%・67人)、『2. まあまあ住みやすい』(61.7%・354人)と回答した人に、住みやすいと感じる理由を尋ねたところ、「災害に強い」が19.7%で最も高く、次いで「日常生活に不便していない」(18.1%)、「自然環境にめぐまれている」(17.6%)、「静か、のどか、程よい田舎等」(13.8%)となっています。

住みやすいと感じる理由／全体



性別でみると、男性は「災害に強い」が19.0%、女性は「自然環境にめぐまれている」が23.9%でそれぞれ最も高くなっています。（無回答を除く）

年齢別では、60歳以上が「災害に強い」、20歳～29歳、30歳～39歳、50歳～59歳では「静か、のどか、程よい田舎」、40歳～49歳では「日常生活に不便していない」、18～19歳では「自然環境にめぐまれている」がそれぞれ最も高くなっています。

世帯別でみると、夫婦、その他の世帯が「災害に強い」となっています。

居住地区別では、丹荘小学校区、青柳小学校区では「災害に強い」、神泉小学校区では「自然環境にめぐまれている」が最も多くなっています。

住みやすいと感じる理由／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標 本 数	災 害 に 強 い	日 常 生 活 に 不 便 し て い な い	自 然 環 境 に め ぐ ま れ て い る	静 か 、 の ど か 、 程 よ い 田 舎 等	地 域 で の 人 間 関 係 が う ま く い っ て い る	交 通 ・ ア ク セ ス 良 好	治 安 が よ い	子 育 て ・ 教 育 の 環 境 が 充 実 し て い る	保 健 ・ 福 祉 ・ 医 療 が 充 実 し て い る	農 作 物	名 所 、 温 泉 、 レ ジ ャ ー 施 設	車 が あ れ ば な ん と か な る	町 内 の イ ベ ン ト や コ ミ ュ ニ テ ィ 活 動 が 盛 ん	両 親 や 親 戚 が 町 内 に 住 ん で い る	土 地 が 安 い	そ の 他	無 回 答
全 体		421	19.7	18.1	17.6	13.8	9.0	6.2	3.6	3.1	3.1	1.7	1.4	1.4	1.0	0.7	0.5	13.3	24.9
性 別	男	195	19.0	16.9	12.8	12.3	7.7	5.6	4.1	0.5	2.1	2.1	1.5	1.5	2.1	0.0	1.0	14.9	27.7
	女	176	21.6	18.8	23.9	13.6	10.2	7.4	4.0	5.1	4.0	1.7	1.7	1.1	0.0	1.7	0.0	14.2	21.0
年 齢 別	18歳～19歳	6	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3
	20歳～29歳	23	13.0	13.0	26.1	39.1	4.3	4.3	13.0	8.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	17.4
	30歳～39歳	34	2.9	14.7	14.7	20.6	8.8	8.8	5.9	14.7	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	29.4
	40歳～49歳	37	16.2	18.9	16.2	5.4	5.4	10.8	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	2.7	0.0	8.1	32.4
	50歳～59歳	72	20.8	19.4	16.7	23.6	8.3	11.1	5.6	4.2	2.8	2.8	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	13.9	19.4
	60歳～69歳	83	22.9	21.7	21.7	12.0	10.8	6.0	1.2	0.0	3.6	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	20.5
	70歳以上	163	22.7	17.2	15.3	7.4	9.8	2.5	2.5	0.6	3.1	3.1	1.2	3.1	1.2	1.2	0.6	16.6	28.2
世 帯 別	ひとり暮らし	52	17.3	15.4	13.5	13.5	9.6	9.6	1.9	3.8	7.7	3.8	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	23.1	17.3
	夫婦	150	24.0	18.7	18.7	11.3	8.7	6.0	2.7	0.0	3.3	2.7	2.0	2.0	1.3	0.7	0.0	14.0	23.3
	二世帯（親・子）	163	19.0	21.5	19.0	16.6	8.6	5.5	6.1	4.9	1.8	0.6	1.8	0.6	1.2	1.2	0.6	10.4	23.9
	三世帯（親・子・孫）	32	3.1	12.5	12.5	12.5	9.4	3.1	0.0	6.3	3.1	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	9.4	46.9
	その他	20	25.0	5.0	20.0	15.0	15.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	25.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	223	21.1	20.2	16.1	13.9	10.3	5.8	4.5	3.6	3.1	1.3	0.9	1.8	0.9	1.3	0.4	11.7	23.8
	青柳小学校区	131	18.3	14.5	16.0	16.8	3.8	7.6	3.1	3.1	2.3	0.8	2.3	0.0	0.8	0.0	0.8	12.2	27.5
	渡瀬小学校区	34	20.6	20.6	17.6	8.8	11.8	2.9	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.4	17.6
	神泉小学校区	27	18.5	18.5	37.0	7.4	14.8	7.4	3.7	3.7	3.7	7.4	3.7	7.4	3.7	0.0	0.0	14.8	25.9

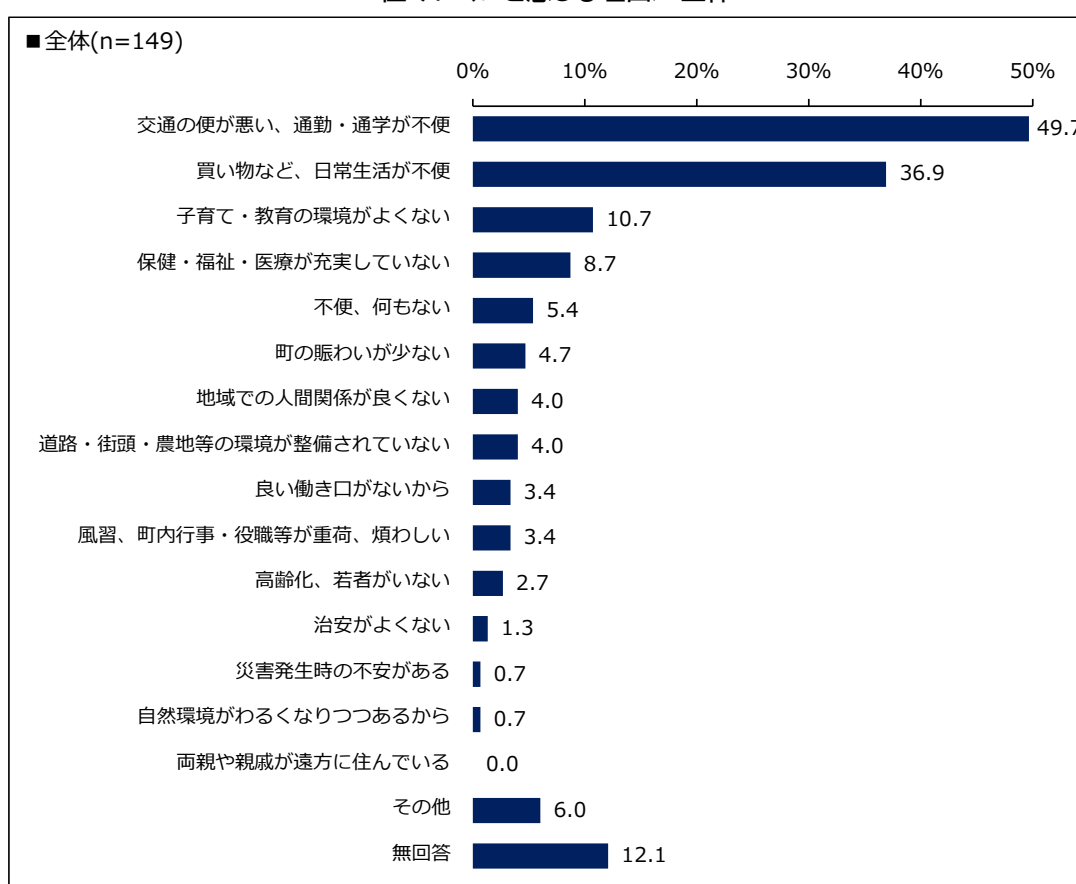
(3) 住みにくいと感ずる理由

問3-(2)．神川町が住みにくいと感ずる理由をご記入ください。（自由記述）

◆「交通の便が悪い、通勤・通学が不便」が約5割と最も高い。

問2で『住みにくい』(5.2%・30人)、『やや住みにくい』(20.7%・119人)と回答した人に、住みにくいと感ずる理由を尋ねたところ、「交通の便が悪い、通勤・通学が不便」が49.7%、「買い物など、日常生活が不便」(36.9%)となっており、ほかの理由に比べて非常に高い割合になっています。

住みにくいと感ずる理由／全体



各階層別にみても、全体同様「交通の便が悪い、通勤・通学が不便」、「買い物など、日常生活が不便」が、他を大きく引き離しています。

性別でみると、女性の「子育て・教育の環境がよくない」が 19.1%とやや高くなっています。

年齢別でみると、30 歳～39 歳、40 歳～49 歳で「子育て・教育の環境がよくない」(23.1%、26.1%)、「保健・福祉・医療が充実していない」(23.1%、13.3%) と他の世代より高くなっています。

世帯別でみると、二世帯(親・子)、三世帯(親・子・孫)、では「子育て・教育の環境がよくない」(15.3%、15.4%) がやや高くなっています。

住みにくと感じる理由／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別①

(単位：％)

		標 本 数	交通 の 便 が 悪 い 、 通 勤 ・ 通 学 が 不 便	買 い 物 な ど 、 日 常 生 活 が 不 便	子 育 て ・ 教 育 の 環 境 が よ く な い	保 健 ・ 福 祉 ・ 医 療 が 充 実 し て い な い	不 便 、 何 も な い	町 の 賑 わ い が 少 な い	地 域 で の 人 間 関 係 が 良 く な い	道 路 ・ 街 頭 ・ 農 地 等 の 環 境 が 整 備 さ れ て い な い	良 い 働 き 口 が な い か ら	風 習 、 町 内 行 事 ・ 役 職 等 が 重 荷 、 煩 わ し い	高 齢 化 、 若 者 が い な い	治 安 が よ く な い	災 害 発 生 時 の 不 安 が あ る	自 然 環 境 が わ る く な り つ つ あ る か ら	両 親 や 親 戚 が 遠 方 に 住 ん で い る	そ の 他	無 回 答
全 体		149	49.7	36.9	10.7	8.7	5.4	4.7	4.0	4.0	3.4	3.4	2.7	1.3	0.7	0.7	0.0	6.0	12.1
性 別	男	70	42.9	42.9	4.3	8.6	2.9	5.7	4.3	2.9	1.4	4.3	4.3	1.4	1.4	1.4	0.0	7.1	12.9
	女	68	61.8	30.9	19.1	8.8	7.4	4.4	1.5	5.9	4.4	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	10.3
年 齢 別	18歳～19歳	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	20歳～29歳	11	54.5	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1
	30歳～39歳	13	46.2	38.5	23.1	23.1	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	30.8
	40歳～49歳	15	33.3	33.3	26.7	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
	50歳～59歳	38	57.9	39.5	13.2	5.3	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	7.9	7.9
	60歳～69歳	36	41.7	44.4	5.6	8.3	2.8	11.1	2.8	2.8	11.1	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1
	70歳以上	33	54.5	30.3	3.0	6.1	9.1	0.0	6.1	9.1	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	15.2
世 帯 別	ひとり暮らし	14	50.0	42.9	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	21.4
	夫婦	47	51.1	40.4	4.3	12.8	4.3	6.4	2.1	6.4	2.1	4.3	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	8.5
	二世帯(親・子)	72	52.8	37.5	15.3	8.3	5.6	2.8	6.9	2.8	5.6	4.2	2.8	1.4	1.4	0.0	0.0	2.8	11.1
	三世帯(親・子・孫)	13	38.5	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	23.1	23.1
	その他	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	70	51.4	31.4	14.3	8.6	4.3	5.7	5.7	4.3	7.1	2.9	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	11.4
	青柳小学校区	43	58.1	44.2	7.0	7.0	4.7	2.3	2.3	2.3	0.0	7.0	4.7	4.7	0.0	2.3	0.0	7.0	7.0
	渡瀬小学校区	25	36.0	40.0	0.0	12.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	28.0
	神泉小学校区	9	44.4	44.4	33.3	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0

(4) 今後も住み続けたいか

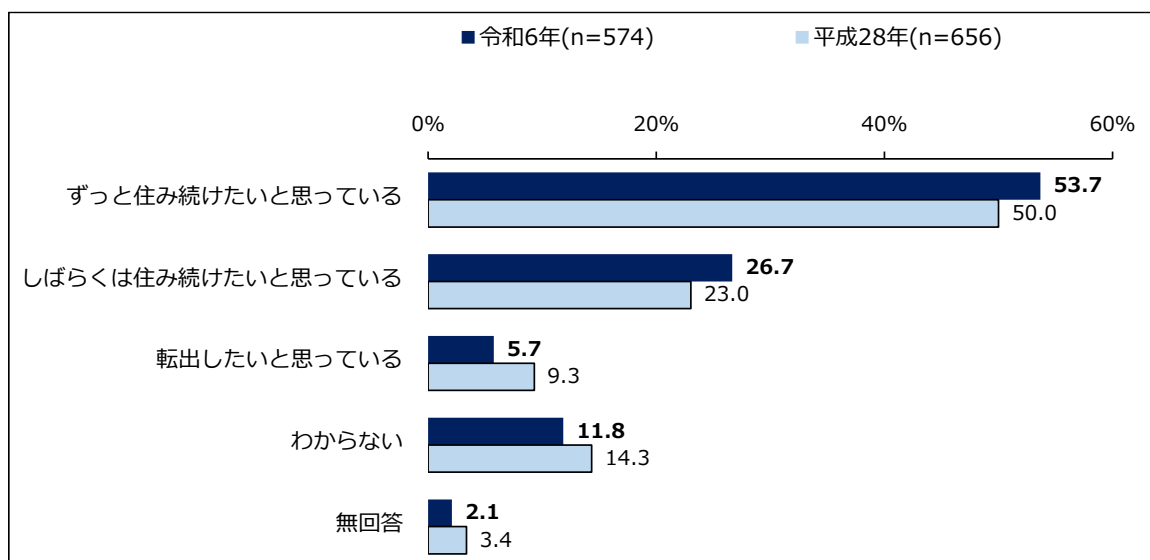
問4. 今後も神川町に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

◆『住み続けたい』が80.4%。一方、『転出したい』は5.7%にとどまる。

今後も神川町に住み続けたいか尋ねたところ、「ずっと住み続けたい」が53.7%で最も多く、次いで「しばらくは住み続けたい」(26.7%)が続き、これらを合わせた『住み続けたい』は80.4%となっており、8割以上の人が住み続けたいと思えるまちという結果になっています。一方、『転出したい』は5.7%にとどまります。なお、「わからない」は11.8%でした。

経年比較で『住み続けたい』をみると、平成28年(73.0%)に対し7.4ポイント増加しており、『住み続けたいまち』になっているといえます。

住み続けたいか／全体(経年比較)



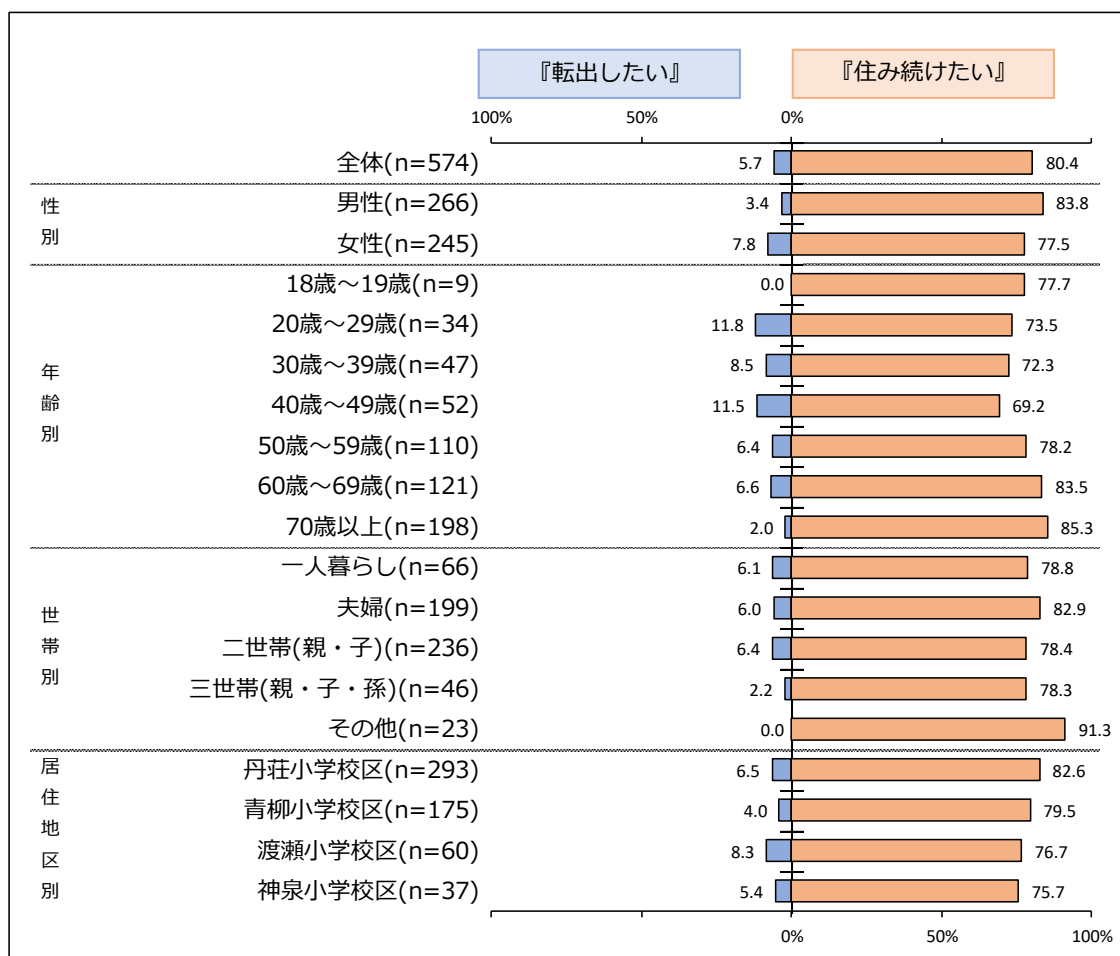
性別でみると、全体と同様の傾向となっていますが、『住み続けたい』とする割合は、男性(83.8%)が女性(77.5%)を6.3ポイント上回っています。

年齢別で『住み続けたい』をみると、70歳以上(85.3%)が最も高く、40歳～49歳(69.2%)が最も低くなっており、その差は16.1ポイントとなっています。

世帯別で『住み続けたい』をみると、夫婦(82.9%)が他の世帯と比べて最も高くなっています。

居住地区別で『住み続けたい』をみると、丹荘小学校区(82.6%)が他の地区に比べて最も高くなっています。

住み続けたいか／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別
(『住み続けたい』と『転出したい』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) 住み続けたいと感じる理由

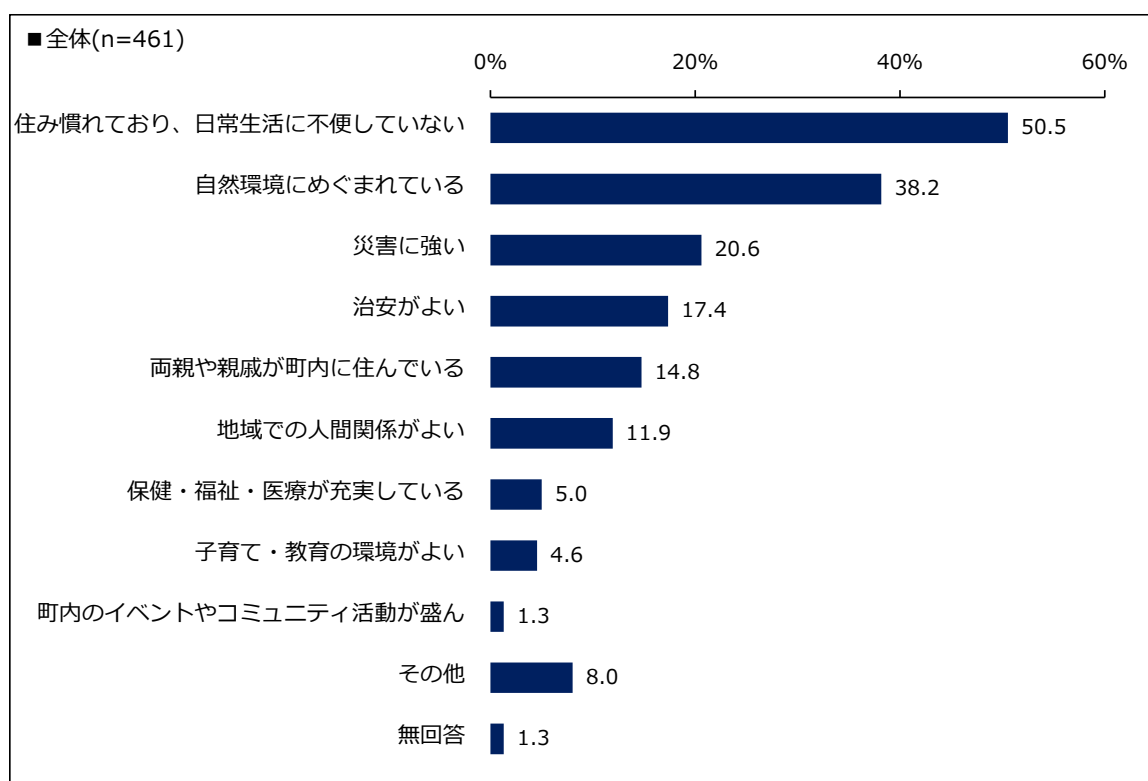
問5-(1)．住み続けたいと感じる理由を教えてください。(2つまでに○)

※問4で「1. ずっと住み続けたいと思っている」「2. しばらくは住み続けたいと思っている」と回答した方が対象

◆「住み慣れており、日常生活に不便していない」が50.5%と5割を超える。

『住み続けたい』と回答した方に理由をたずねたところ、「住み慣れており、日常生活に不便していない」が50.5%で最も高く、次いで「自然環境にめぐまれている」(38.2%)、「災害に強い」(20.6%)「治安がよい」(17.4%)が続いている。一方、「保健・福祉・医療が充実している」(5.0%)、「子育て・教育の環境がよい」(4.6%)、「町内のイベントやコミュニティ活動が盛ん」(1.3%)は1割を下回っています。

住み続けたいと感じる理由／全体



ほとんどの層で「住み慣れており、日常生活に不便していない」が最も多くなっていますが、年齢別では、20歳～29歳が「自然環境にめぐまれている」「両親や親戚が町内に住んでいる」がともに36.0%で最も多くなっています。

世帯別でその他と回答した層は、「自然環境にめぐまれている」が57.1%で最も多くなっています。

住み続けたい理由／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標本数	住み慣れており、日常生活に不便していない	自然環境にめぐまれている	災害に強い	治安がよい	両親や親戚が町内に住んでいる	地域での人間関係がよい	保健・福祉・医療が充実している	子育て・教育の環境がよい	町内のイベントやコミュニティ活動が盛ん	その他	無回答
全体		461	50.5	38.2	20.6	17.4	14.8	11.9	5.0	4.6	1.3	8.0	1.3
性別	男	223	50.7	40.4	21.1	17.9	12.1	10.3	3.6	2.7	1.8	9.0	1.3
	女	190	51.1	37.9	19.5	17.9	18.4	11.6	6.8	6.3	0.5	6.3	1.1
年齢別	18歳～19歳	7	57.1	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	25	20.0	36.0	16.0	24.0	36.0	4.0	0.0	16.0	4.0	16.0	0.0
	30歳～39歳	34	50.0	44.1	17.6	11.8	26.5	14.7	2.9	20.6	0.0	0.0	0.0
	40歳～49歳	36	55.6	16.7	19.4	25.0	27.8	11.1	2.8	11.1	2.8	5.6	0.0
	50歳～59歳	86	58.1	32.6	19.8	16.3	19.8	7.0	2.3	3.5	0.0	9.3	1.2
	60歳～69歳	101	47.5	37.6	29.7	14.9	9.9	11.9	0.0	1.0	0.0	8.9	3.0
	70歳以上	169	52.7	44.4	17.2	17.2	6.5	15.4	11.2	1.2	2.4	8.3	1.2
世帯別	ひとり暮らし	52	57.7	40.4	17.3	21.2	13.5	13.5	3.8	0.0	1.9	5.8	0.0
	夫婦	165	51.5	39.4	21.8	17.6	10.9	9.7	5.5	1.2	2.4	7.9	1.2
	二世帯（親・子）	185	47.0	33.5	19.5	15.7	21.6	13.0	3.2	7.6	0.5	9.7	1.1
	三世帯（親・子・孫）	36	55.6	41.7	19.4	22.2	8.3	13.9	8.3	11.1	0.0	5.6	2.8
	その他	21	47.6	57.1	33.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	4.8	4.8
居住地区別	丹荘小学校区	242	52.5	36.4	23.6	19.8	14.5	9.1	5.0	6.6	1.7	7.4	1.2
	青柳小学校区	139	48.2	38.8	18.7	15.8	15.8	14.4	6.5	2.9	1.4	8.6	0.7
	渡瀬小学校区	46	50.0	45.7	21.7	10.9	13.0	15.2	2.2	0.0	0.0	4.3	2.2
	神泉小学校区	28	57.1	42.9	7.1	10.7	17.9	17.9	0.0	3.6	0.0	10.7	0.0

(6) 転出したいと感じる理由

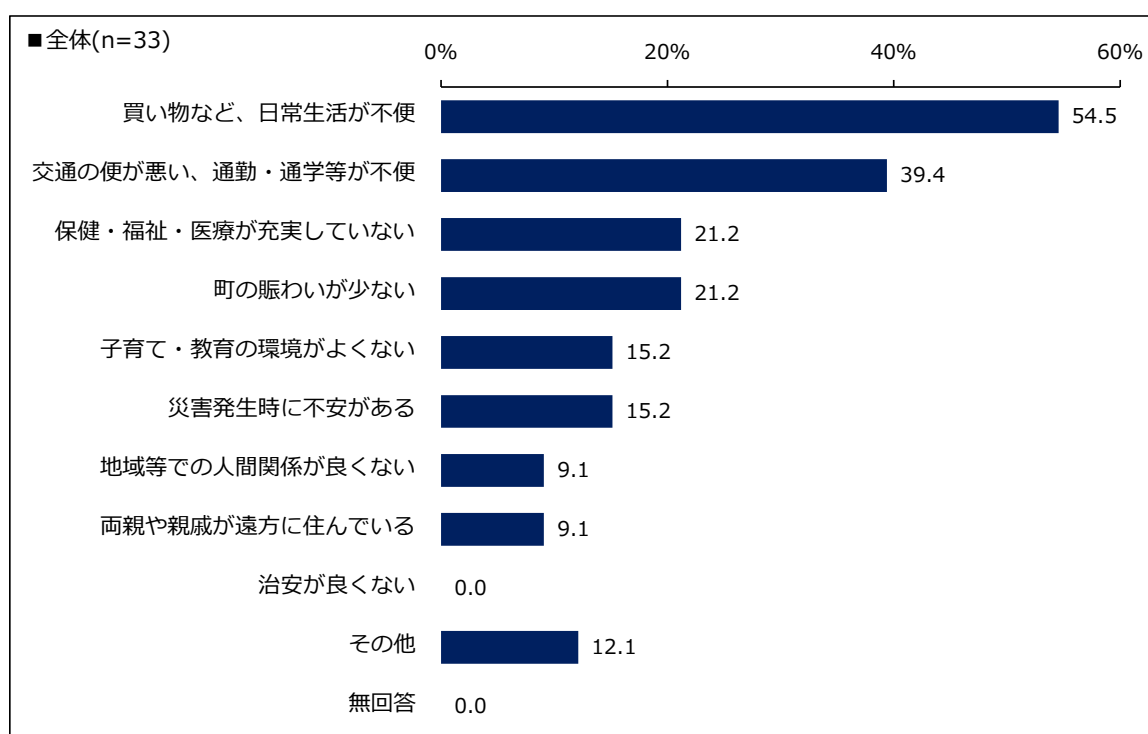
問5-(2)．転出したいと感じる理由を教えてください。(2つまでに○)

※問4で「3. 転出したいと思っている」と回答した方が対象

◆「買い物など、日常生活が不便」が54.5%で最も高い。

『転出したい』と回答した方に理由をたずねたところ、「買い物など、日常生活が不便」が54.5%で最も高く、次いで「交通の便が悪い、通勤・通学等が不便」(39.4%)、「保健・福祉・医療が充実していない」、「町の賑わいが少ない」(ともに21.2%)となっています。

転出したいと感じる理由／全体



回答数が 33 件と少数のため、有効性は低いものの、「買い物など、日常生活が不便」、「交通の便が悪い、通勤・通学等が不便」、「保健・福祉・医療が充実していない」、「町の賑わいが少ない」が高くなっています。

転出したい理由／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

				買 い 物 な ど、 日 常 生 活 が 不 便	通 勤 ・ 通 学 等 が 不 便 交 通 の 便 が 悪 い、	保 健 ・ 福 祉 ・ 医 療 が 充 実 し て い な い	町 の 賑 わ い が 少 な い	環 境 が よ く な い	子 育 て ・ 教 育 の	災 害 発 生 時 に 不 安 が あ る	地 域 等 で の 人 間 関 係 が 良 く な い	両 親 や 親 戚 が 遠 方 に 住 ん で い る	治 安 が 良 く な い	そ の 他	無 回 答
全 体		33	54.5	39.4	21.2	21.2	15.2	15.2	9.1	9.1	0.0	12.1	0.0		
性 別	男	9	44.4	22.2	33.3	44.4	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0		
	女	19	63.2	36.8	15.8	15.8	21.1	21.1	0.0	15.8	0.0	10.5	0.0		
年 齢 別	18歳～19歳	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	20歳～29歳	4	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0		
	30歳～39歳	4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	40歳～49歳	6	50.0	33.3	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0		
	50歳～59歳	7	85.7	42.9	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0		
	60歳～69歳	8	62.5	50.0	12.5	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0		
	70歳以上	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
世 帯 別	ひとり暮らし	4	75.0	75.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	夫婦	12	66.7	16.7	33.3	16.7	16.7	25.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
	二世帯（親・子）	15	46.7	53.3	13.3	20.0	13.3	6.7	13.3	6.7	0.0	20.0	0.0		
	三世帯（親・子・孫）	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	その他	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	19	47.4	47.4	21.1	15.8	21.1	15.8	10.5	5.3	0.0	10.5	0.0		
	青柳小学校区	7	71.4	42.9	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0		
	渡瀬小学校区	5	40.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0		
	神泉小学校区	2	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

(7) 自慢できるもの

問6. 神川町の強み・自慢できるものは何だと思いますか。(3つまでに○)

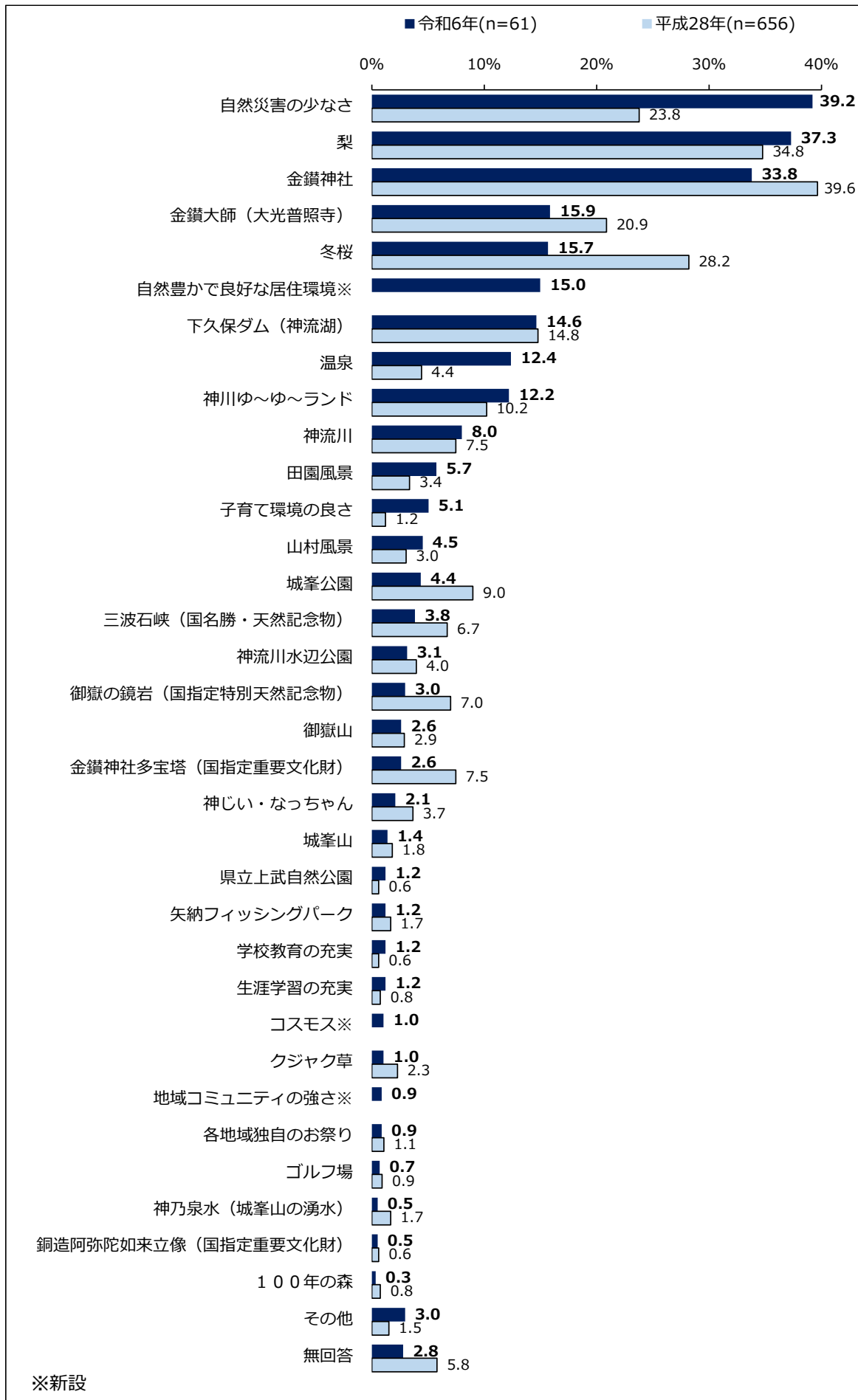
◆「自然災害の少なさ」が第1位。次いで「梨」、「金鑽神社」が続く。

神川町で自慢できるものについて尋ねたところ、「自然災害の少なさ」が39.2%で最も多く、次いで「梨」(37.3%)、「金鑽神社」(33.8%)、「金鑽大師(大光普照寺)」(15.9%)、「冬桜」(15.7%)等の順となっています。

経年比較でみると、「自然災害の少なさ」(39.2%)は、平成28年調査の23.8%に対し15.4ポイントの大幅増加となっています。全国的に増えつつある自然災害に敏感に反応した結果と思われます。また、2番目に高い「梨」を除くほとんどすべての項目で平成28年より減少しています。

今回新たに追加した項目は、「自然豊かで良好な居住環境」が15.0%、「コスモス」が1.0%、「地域コミュニティの強さ」が0.9%となっています。

自慢できるもの／全体(経年比較)



性別で上位5項目をみると、女性では「梨」(41.6%)が男性(32.3%)に比べて9.3ポイント上回っています。

年齢別で上位5項目をみると、「梨」が70歳以上を除くすべての年齢層で1位になっています。その他、全体では6位以下となっていますが、「神川ゆ〜ゆ〜ランド」、「下久保ダム」、「温泉」等が上位になっています。

居住地区別で上位5項目をみると、「自然豊かな良好な居住環境」が渡瀬小学校区、神泉小学校区で上位になっています。

自慢できるもの／全体、性別、年齢別、居住地区別(上位5位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=574)		自然災害の少なさ 39.2%	梨 37.3%	金鑽神社 33.8%	金鑽大師 15.9%	冬桜 15.7%
性別	男 (n=266)	自然災害の少なさ 38.7%	金鑽神社 35.3%	梨 32.3%	下久保ダム 18.8%	金鑽大師 14.7%
	女 (n=245)	梨 41.6%	自然災害の少なさ 38.8%	金鑽神社 33.1%	冬桜 19.6%	金鑽大師 17.6%
年齢	18歳〜19歳 (n=9)	梨 55.6%	温泉 44.4%	金鑽神社／自然災害の少なさ 33.3%		神流川／ 下久保ダム 22.2%
	20歳〜29歳 (n=34)	梨 52.9%	金鑽神社 38.2%	金鑽神社／自然災害の少なさ 26.5%		温泉 23.5%
	30歳〜39歳 (n=47)	梨 42.6%	自然災害の少なさ 27.7%	金鑽神社 23.4%	神川ゆ〜ゆ〜ランド 19.1%	温泉 19.1%
	40歳〜49歳 (n=52)	金鑽神社／梨 42.3%		自然災害の少なさ 36.5%	神川ゆ〜ゆ〜ランド 17.3%	下久保ダム／温泉 15.4%
	50歳〜59歳 (n=110)	梨 41.8%	金鑽神社 40.9%	自然災害の少なさ 33.6%	金鑽大師／冬桜／神川ゆ〜ゆ〜ランド 17.3%	
	60歳〜69歳 (n=121)	梨 44.6%	自然災害の少なさ 41.3%	金鑽神社 38.8%	金鑽大師 19.0%	冬桜 17.4%
	70歳以上 (n=198)	自然災害の少なさ 47.0%	金鑽神社 26.3%	自然豊かで良好な 居住環境 24.7%	梨 24.2%	下久保ダム 20.2%
居住地区	丹荘小学校区 (n=293)	梨 42.7%	自然災害の少なさ 41.3%	金鑽神社 33.8%	下久保ダム 15.7%	冬桜 14.7%
	青柳小学校区 (n=175)	自然災害の少なさ 38.3%	金鑽神社 35.4%	梨 34.9%	金鑽大師 24.6%	温泉 14.9%
	渡瀬小学校区 (n=60)	自然災害の少なさ 38.3%	梨 35.0%	金鑽神社 33.3%	温泉 23.3%	自然豊かで良好な 居住環境 20.0%
	神泉小学校区 (n=37)	冬桜 37.8%	自然豊かで良好な居住環境／金鑽神社 32.4%		自然災害の少なさ 27.0%	下久保ダム／梨 16.2%

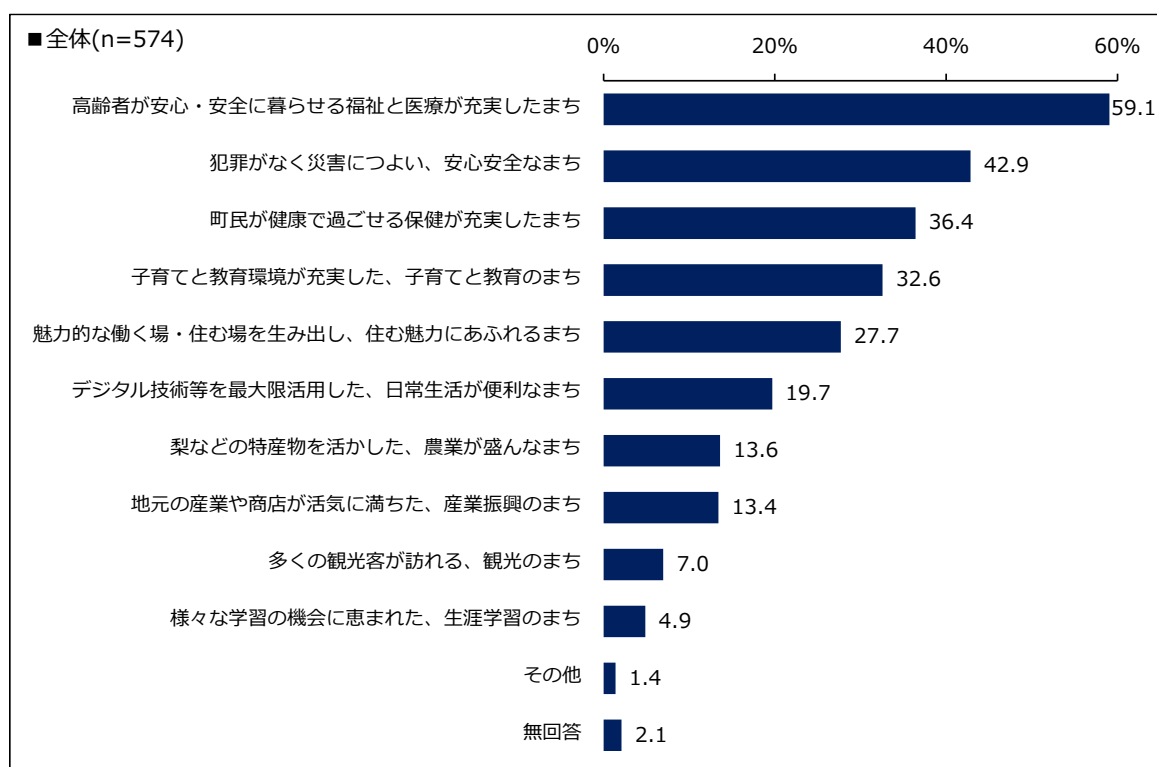
※18歳〜19歳は回答者数が少ないため、有効性は低い

（８）これからの神川町について

問 7. これからの神川町は、どのようなまちになってほしいと思いますか。（3つまでに○）

◆「高齢者が安心・安全に暮らせる福祉と医療が充実したまち」に約6割の方が希望。

これからの神川町について尋ねたところ、約6割の方が「高齢者が安心・安全に暮らせる福祉と医療が充実したまち」(59.1%)を希望しています。次いで「犯罪がなく災害につよい、安心安全なまち」(42.9%)、「町民が健康で過ごせる保健が充実したまち」(36.4%)、「子育てと教育環境が充実した、子育てと教育のまち」(32.6%)となっています。



年齢別にみると、50 歳以上の層は「高齢者が安心・安全に暮らせる福祉と医療が充実したまち」が最も多くなっています。18 歳～19 歳では「犯罪がなく災害につよい安心安全なまち」、「デジタル技術等を最大限活用した、日常生活が便利なまち」(55.6%)、20 歳～29 歳、30 歳～39 歳が「子育てと教育環境が充実した、子育てと教育のまち」(61.8%、57.4%)、40 歳～49 歳が「犯罪がなく災害につよい安心安全なまち」(46.2%) がそれぞれ最も多くなっています。

世帯別、居住地区別では、いずれの層でも「高齢者が安心・安全に暮らせる福祉と医療が充実したまち」が最も多くなっています。

これからの神川町について／性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：%)

		標本数	高齢者が安心・安全に暮らせる福祉と医療が充実したまち	犯罪がなく災害につよい、安心安全なまち	町民が健康で過ごせる保健が充実したまち	子育てと教育環境が充実した、子育てと教育のまち	魅力的な働く場・住む場を生み出し、住む魅力にあふれるまち	デジタル技術等を最大限活用した、日常生活が便利なまち	梨などの特産物を活かした、農業が盛んなまち	地元の産業や商店が活気に満ちた、産業振興のまち	多くの観光客が訪れる、観光のまち	様々な学習の機会に恵まれた、生涯学習のまち	その他	無回答
全 体		574	59.1	42.9	36.4	32.6	27.7	19.7	13.6	13.4	7.0	4.9	1.4	2.1
性別	男	266	57.1	39.8	39.1	33.8	23.3	21.8	12.0	11.7	8.3	3.0	1.9	2.3
	女	245	62.0	45.7	34.3	31.4	31.4	18.8	13.9	16.7	5.7	6.5	0.4	1.6
年齢別	18歳～19歳	9	22.2	55.6	22.2	22.2	22.2	55.6	22.2	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	23.5	32.4	32.4	61.8	35.3	32.4	11.8	8.8	11.8	2.9	0.0	2.9
	30歳～39歳	47	29.8	34.0	42.6	57.4	21.3	40.4	12.8	17.0	4.3	10.6	2.1	2.1
	40歳～49歳	52	42.3	46.2	32.7	36.5	26.9	19.2	19.2	15.4	11.5	1.9	0.0	0.0
	50歳～59歳	110	61.8	40.9	29.1	27.3	31.8	20.0	16.4	17.3	7.3	4.5	3.6	0.9
	60歳～69歳	121	66.9	46.3	38.0	27.3	27.3	18.2	8.3	14.0	7.4	5.0	2.5	0.8
	70歳以上	198	71.2	44.4	40.9	26.8	26.8	12.1	13.6	10.1	4.5	5.1	0.0	4.0
世帯別	ひとり暮らし	66	56.1	42.4	37.9	27.3	28.8	16.7	15.2	12.1	4.5	10.6	0.0	4.5
	夫婦	199	68.8	45.7	37.7	28.1	25.1	17.6	12.6	13.6	7.5	3.5	0.5	1.5
	二世帯（親・子）	236	52.1	42.8	35.2	34.3	31.4	20.3	13.6	14.4	7.6	4.7	3.0	0.8
	三世帯（親・子・孫）	46	56.5	34.8	28.3	50.0	26.1	26.1	15.2	10.9	6.5	2.2	0.0	4.3
	その他	23	65.2	43.5	43.5	30.4	13.0	21.7	17.4	13.0	0.0	8.7	0.0	8.7
居住地区別	丹荘小学校区	293	56.0	44.7	37.9	35.5	27.0	23.2	16.0	10.9	6.5	4.4	1.0	1.4
	青柳小学校区	175	60.0	43.4	35.4	32.6	27.4	14.9	13.7	16.0	6.3	6.9	2.9	3.4
	渡瀬小学校区	60	65.0	40.0	30.0	18.3	33.3	21.7	6.7	18.3	8.3	5.0	0.0	1.7
	神泉小学校区	37	70.3	32.4	43.2	32.4	24.3	10.8	8.1	10.8	10.8	0.0	0.0	2.7

2 現在の施策（取り組み）・生活環境について

（１）生活環境やまちづくりの現状についての満足度及び重要度

問 8. 神川町の生活環境やまちづくりの現状について、①満足度、②重要度を分野ごとにおたずねします。

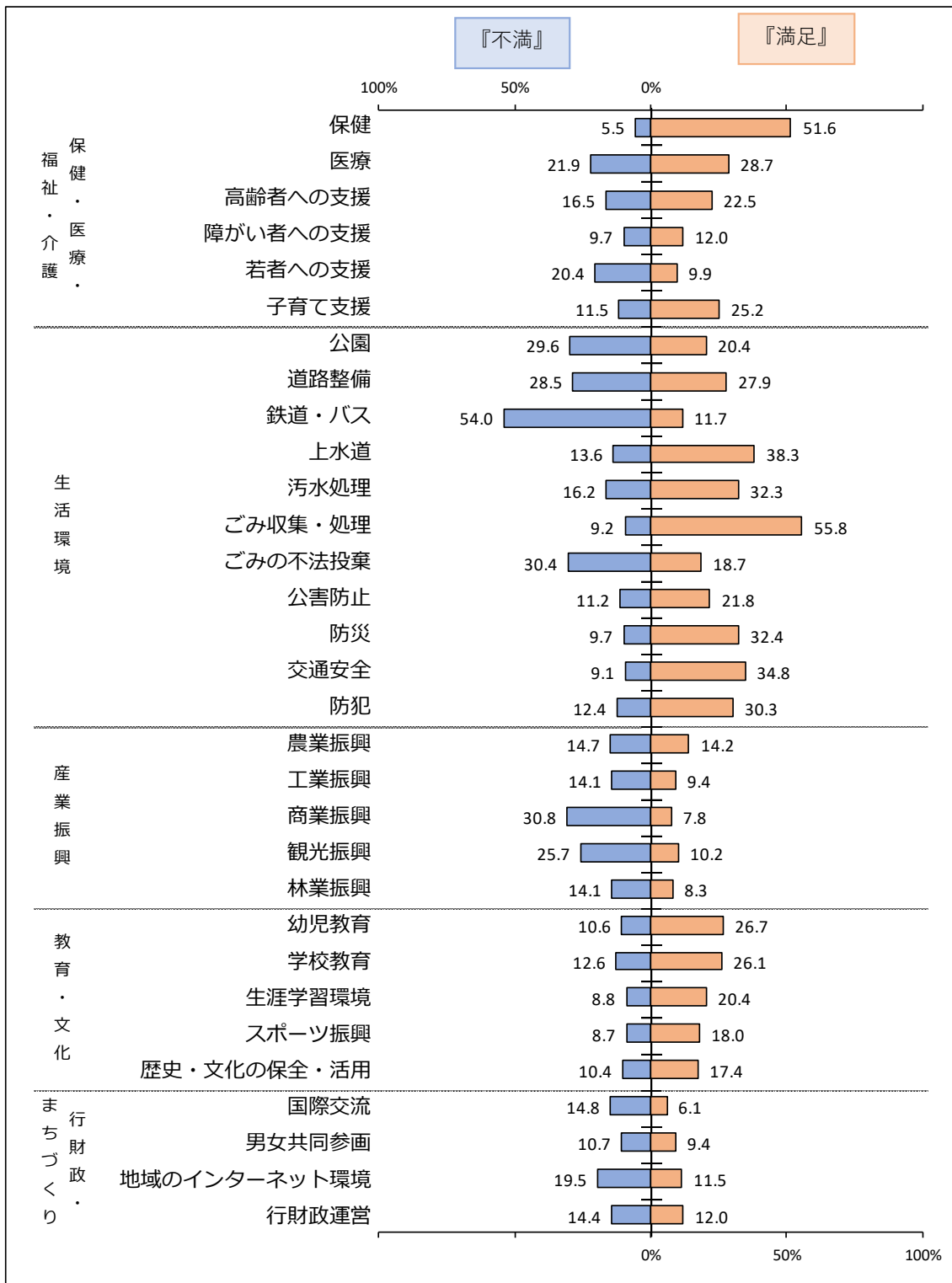
①満足度

- ◆『満足』の第１位は「ごみ収集・処理」、第２位は「保健」、第３位は「上水道」。
- ◆『不満』の第１位は「鉄道・バス」、第２位は「商業振興」、第３位は「ごみの不法投棄」。

神川町の生活環境やまちづくりの現状について、満足度を尋ねた 31 の設問項目の傾向を、『満足』（「満足している」及び「やや満足している」の合計）、「どちらともいえない」、『不満』（「やや不満である」及び「不満である」の合計）の３区分にまとめ、その比率でみていくと、『満足』と回答した率は、「ごみ収集・処理」（55.8％）で最も高く、次いで「保健」（51.6％）が続き、以下「上水道」（38.3％）、「交通安全」（34.8％）、「防災」（32.4％）、「汚水処理」（32.3％）、「防犯」（30.3％）等の順となっています。

一方、『不満』と回答した率は、「鉄道・バス」（54.0％）で最も高く、次いで「商業振興」（30.8％）が続き、以下「ごみの不法投棄」（30.4％）、「公園」（29.6％）、「道路整備」（28.5％）、「観光振興」（25.7％）等の順となっています。

生活環境やまちづくりの現状についての満足度／全体（『満足』と『不満』の比較）



経年比較で上位5項目の割合をみると、『満足』では、すべて項目が平成28年に比べて増加しています。一方、『不満』では「ごみの不法投棄」(30.4%)、「道路整備」(28.5%)が平成28年に比べ減少しましたが、「鉄道・バス」(54.0%)、「商業振興」(30.8%)、「公園」(29.6%)が平成28年に比べて増加しています。

生活環境やまちづくりの現状についての満足度／『満足』の上位5位(経年比較)

順位	令和6年	割合の変化	平成28年の割合	平成28年の順位
第1位	ごみ収集・処理 55.8%	→	52.1%	第1位
第2位	保健 51.6%	→	45.8%	第2位
第3位	上水道 38.3%	→	34.1%	第3位
第4位	交通安全 34.8%	→	32.5%	第4位
第5位	防災 32.4%	→	27.1%	第6位

生活環境やまちづくりの現状についての満足度／『不満』の上位5位(経年比較)

順位	令和6年	割合の変化	平成28年の割合	平成28年の順位
第1位	鉄道・バス 54.0%	→	43.9%	第1位
第2位	商業振興 30.8%	→	22.1%	第6位
第3位	ごみの不法投棄 30.4%	→	35.4%	第2位
第4位	公園 29.6%	→	28.4%	第4位
第5位	道路整備 28.5%	→	30.2%	第3位

『満足』の上位項目を分野ごとに経年(平成28年)比較してみると、保健・医療・福祉・介護では「保健」(51.6%)、「子育て支援」(21.5%)が増加しましたが、「医療」(28.7%)は減少しています。

生活環境では「ごみ収集・処理」(55.8%)、「上水道」(38.3%)、「交通安全」(34.8%)の上位3項目すべてが増加しています。

産業振興では「農業振興」(14.2%)、「観光振興」(10.2%)、「工業振興」(9.4%)の上位3項目すべてが増加しています。特に「農業振興」は5.1ポイント増加しています。

教育・文化では、「幼児教育」(26.7%)、「学校教育」(26.1%)は増加しています。

行財政・まちづくりでは「行財政運営」(12.0%)、「地域のインターネット環境」(11.5%)がともに増加しています。

『不満』をみると、保健・医療・福祉・介護では「医療」(21.9%)、「若者への支援」(20.4%)「高齢者への支援」(16.5%)の上位3項目は、いずれも増加しています。

生活環境では「鉄道・バス」(54.0%)が10.1ポイント、「公園」(29.6%)が1.2ポイント増加しましたが、「ごみの不法投棄」(30.4%)、「道路整備」(28.5%)、「污水处理」(16.2%)はそれぞれ5.0ポイント、1.7ポイント、7.4ポイント減少しています。

産業振興では「商業振興」(30.8%)、「観光振興」(25.7%)がともに増加しています。

教育・文化では「学校教育」(12.6%)が微増となりますが、「幼児教育」(10.6%)は減少しています。

行財政・まちづくりでは「地域のインターネット環境」(19.5%)、「国際交流」(14.8%)とともに増加しています。

生活環境やまちづくりの現状についての満足度／分野ごとの『満足』の上位(経年比較)

分野	令和6年	割合の 変化	平成 28 年の 割合	平成 28 年の 順位
保健・医療・ 福祉・介護	①保健 51.6%	→	45.8%	第1位
	②医療 28.7%	→	31.4%	第2位
生活環境	①ごみ収集・処理 55.8%	→	52.1%	第1位
	②上水道 38.3%	→	34.1%	第2位
	③交通安全 34.8%	→	32.5%	第3位
産業振興	①農業振興 14.2%	→	9.1%	第1位
	②観光振興 10.2%	→	9.0%	第2位
教育・文化	①幼児教育 26.7%	→	23.4%	第2位
	②学校教育 26.1%	→	24.5%	第1位
行財政・ まちづくり	①行財政運営 12.0%	→	10.4%	第2位
	②地域のインターネット環境 11.5%	→	11.0%	第1位

生活環境やまちづくりの現状についての満足度／分野ごとの『不満』の上位(経年比較)

分野	令和6年	割合の 変化	平成 28 年の 割合	平成 28 年の 順位
保健・医療・ 福祉・介護	①医療 21.9%	→	20.2%	第1位
	②若者への支援 20.4%	→	16.1%	第2位
生活環境	①鉄道・バス 54.0%	→	43.9%	第1位
	②ごみの不法投棄 30.4%	→	35.4%	第2位
	③公園 29.6%	→	28.4%	第4位
産業振興	①商業振興 30.8%	→	22.1%	第1位
	②観光振興 25.7%	→	19.6%	第2位
教育・文化	①学校教育 12.6%	→	12.5%	第1位
	②幼児教育 10.6%	→	11.3%	第2位
行財政・ まちづくり	①地域のインターネット環境 19.5%	→	12.2%	第2位
	②国際交流 14.8%	→	11.1%	第3位

②重要度

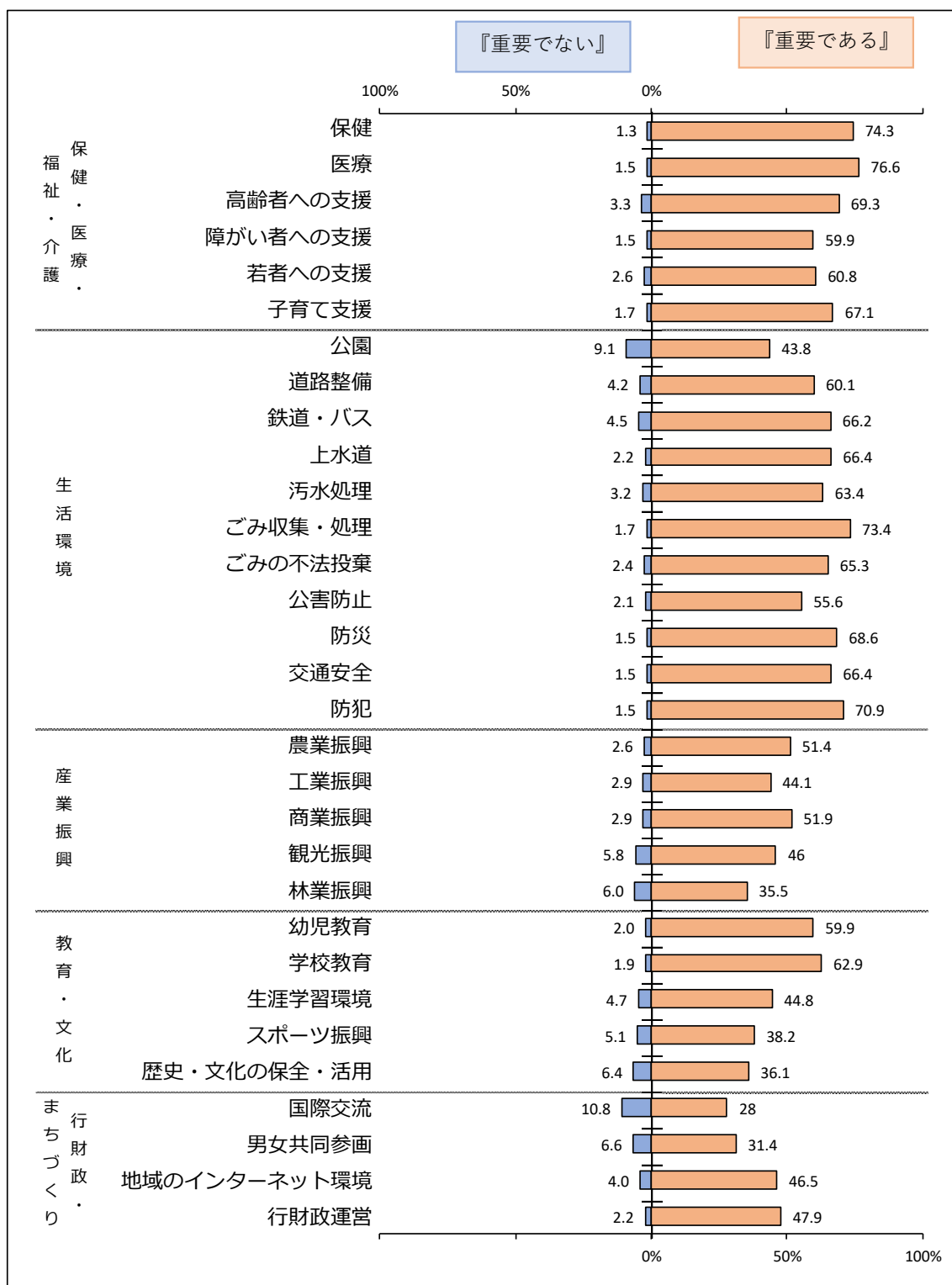
◆『重要である』の第1位は「医療」、次いで「保健」が続く。

神川町の生活環境やまちづくりの現状について、重要度を尋ねた 31 の設問項目の傾向を、『重要』（「重要である」及び「やや重要である」の合計）、「どちらともいえない」、『重要でない』（「あまり重要でない」及び「重要でない」の合計）の3区分にまとめました。

その比率でみていくと、『重要である』と回答した率は、「医療」（76.6%）が最も高く、次いで「保健」（74.3%）が続き、以下「ごみ収集・処理」（73.4%）、「防犯」（70.9%）、「高齢者への支援」（69.3%）等の順となっています。一方、『重要でない』と回答した率は、「国際交流」（10.8%）が最も高く、次いで「公園」（9.1%）が続き、以下「男女共同参画」（6.6%）、「歴史・文化の保全・活用」（6.4%）、「林業振興」（6.0%）等の順となっています。

保健・医療・福祉・介護、生活環境の分野と、教育・文化の分野のうち「幼児教育」「学校教育」で『重要である』が高くなっており、これらに今後より一層力を入れていく必要があります。

生活環境やまちづくりの現状についての重要度／全体



経年比較でみると、『重要である』では「医療」(76.6%)、「保健」(74.3%)、「ごみ収集・処理」(73.4%)、「防犯」(70.9%)、「高齢者支援」(69.3%)の上位5項目すべてにおいて、平成28年に比べて増加しています。

『重要でない』でも「国際交流」(10.8%)、「公園」(9.1%)、「男女共同参画」(6.6%)、「歴史・文化の保全・活用」(6.4%)、「林業振興」(6.0%)の上位5項目すべてにおいて、平成28年に比べて増加しています。

生活環境やまちづくりの現状についての重要度／『重要である』の上位5位(経年比較)

順位	令和6年	割合の変化	平成28年の割合	平成28年の順位
第1位	医療 76.6%	→	74.4%	第1位
第2位	保健 74.3%	→	72.7%	第2位
第3位	ごみ収集・処理 73.4%	→	70.1%	第3位
第4位	防犯 70.9%	→	69.3%	第4位
第5位	高齢者への支援 69.3%	→	69.1%	第5位

生活環境やまちづくりの現状についての重要度／『重要でない』の上位5位(経年比較)

順位	令和6年	割合の変化	平成28年の割合	平成28年の順位
第1位	国際交流 10.8%	→	8.7%	第1位
第2位	公園 9.1%	→	7.0%	第2位
第3位	男女共同参画 6.6%	→	4.2%	第7位
第4位	歴史・文化の保全・活用 6.4%	→	4.1%	第8位
第5位	林業振興 6.0%	→	5.1%	第4位

『重要である』の上位項目を分野ごとに経年（平成28年）比較でみると、保健・医療・福祉・介護の分野では「医療」（76.6%）、「保健」（74.3%）とも、それぞれ2.2ポイント、1.6ポイント増加しています。

生活環境の分野では「ごみ収集・処理」（73.4%）、「防犯」（70.9%）、「防災」（68.6%）とも、それぞれ3.3ポイント、1.6ポイント、3.3ポイント増加しています。

産業振興の分野では「商業振興」（51.9%）、「農業振興」（51.4%）とも、それぞれ8.6ポイント、9.6ポイント増加しています。

教育・文化の分野では「学校教育」（62.9%）、「幼児教育」（59.9%）とも、それぞれ0.9ポイント、1.9ポイント増加しています。

行財政・まちづくりの分野では「行財政運営」（47.9%）、「地域のインターネット環境」（46.5%）とも、それぞれ5.1ポイント、15.2ポイント増加しています。

生活環境やまちづくりの現状についての重要度／分野ごとの『重要である』の上位（経年比較）

分野	令和6年	割合の変化	平成28年の割合	平成28年の順位
保健・医療・福祉・介護	①医療 76.6%	→	74.4%	第1位
	②保健 74.3%	→	72.7%	第2位
生活環境	①ごみ収集・処理 73.4%	→	70.1%	第1位
	②防犯 70.9%	→	69.3%	第2位
	③防災 68.6%	→	65.3%	第4位
産業振興	①商業振興 51.9%	→	43.3%	第2位
	②農業振興 51.4%	→	41.8%	第1位
教育・文化	①学校教育 62.9%	→	62.0%	第1位
	②幼児教育 59.9%	→	58.0%	第2位
行財政・まちづくり	①行財政運営 47.9%	→	42.8%	第1位
	②地域のインターネット環境 46.5%	→	31.3%	第2位

《参考》生活環境やまちづくりの現状についての重要度／分野ごとの『重要でない』の上位（経年比較）

分野	令和6年	割合の変化	平成28年の割合	平成28年の順位
保健・医療・福祉・介護	①高齢者への支援 3.3%	→	1.2%	第2位
	②若者への支援 2.6%	→	2.4%	第1位
生活環境	①公園 9.1%	→	7.0%	第1位
	②鉄道・バス 4.5%	→	2.5%	第2位
	③道路整備 4.2%	→	2.5%	第3位
産業振興	①林業振興 6.0%	→	0.9%	第2位
	②観光振興 5.8%	→	1.0%	第1位
教育・文化	①歴史・文化の保全・活用 6.4%	→	2.3%	第2位
	②スポーツ振興 5.1%	→	0.5%	第1位
行財政・まちづくり	①国際交流 10.8%	→	8.7%	第1位
	②男女共同参画 6.6%	→	4.2%	第3位

《参考》平成28年調査との比較

分類	項目	平成28年			令和6年			令和6年▲平成28年			タイプ※
		重要	満足	不満	重要	満足	不満	重要	満足	不満	
保健・医療・福祉・介護	保健（検診・健康管理など）	72.7	45.8	6.8	74.3	51.6	5.5				A
	医療	74.4	31.4	20.2	76.6	28.7	21.9				H
	高齢者への支援	69.1	23.1	14.8	69.3	22.5	16.5				H
	障がい者への支援	64.6	14.5	9.6	59.9	12.0	9.7				G
	若者への支援	57.6	9.4	16.1	60.8	9.9	20.4				B
	子育て支援（保育所など含む）	64.3	21.5	14.9	67.1	25.2	11.5				A
生活環境	公園	40.0	16.1	28.4	43.8	20.4	29.6				B
	道路整備	60.7	25.9	30.2	60.1	27.9	28.5				D
	鉄道・バス	55.0	11.6	43.9	66.2	11.7	54.0				B
	上水道	60.3	34.1	15.5	66.4	38.3	13.6				A
	汚水処理（下水道、合併処理浄化槽）	59.3	23.0	23.6	63.4	32.3	16.2				A
	ごみ収集・処理	70.1	52.1	14.0	73.4	55.8	9.2				A
	ごみの不法投棄	61.3	10.4	35.4	65.3	18.7	30.4				A
	公害防止	55.0	16.8	14.5	55.6	21.8	11.2				A
	防災	65.3	27.1	12.5	68.6	32.4	9.7				A
	交通安全	67.6	32.5	10.8	66.4	34.8	9.1				D
	防犯	69.3	23.1	13.9	70.9	30.3	12.4				A
産業振興	農業振興	41.8	9.1	11.2	51.4	14.2	14.7				B
	工業振興（建設業含む）	36.1	6.9	10.9	44.1	9.4	14.1				B
	商業振興	43.3	6.7	22.1	51.9	7.8	30.8				B
	観光振興	40.0	9.0	19.6	46.0	10.2	25.7				B
	林業振興	29.2	5.1	7.0	35.5	8.3	14.1				B
教育・文化	幼児教育（幼稚園など）	58.0	23.4	11.3	59.9	26.7	10.6				A
	学校教育	62.0	24.5	12.5	62.9	26.1	12.6				B
	生涯学習環境	42.9	20.9	8.9	44.8	20.4	8.8				E
	スポーツ振興	36.7	17.6	8.1	38.2	18.0	8.7				B
	歴史・文化の保全・活用	36.1	14.0	9.0	36.1	17.4	10.4				C
行財政・まちづくり	国際交流	27.0	6.1	11.1	28.0	6.1	14.8				F
	男女共同参画	27.7	8.7	7.4	31.4	9.4	10.7				B
	地域のインターネット環境	31.3	11.0	12.2	46.5	11.5	19.5				B
	行財政運営	42.8	10.4	12.3	47.9	12.0	14.4				B

※タイプについては以下の通り

	重要	満足	不満	項目数	構成比
A				10項目	32.3%
B				13項目	41.9%
C				1項目	3.2%
D				2項目	6.5%
E				1項目	3.2%
F				1項目	3.2%
G				1項目	3.2%
H				2項目	6.5%
合計				31項目	100.0%

(2) 満足度と重要度の相関関係

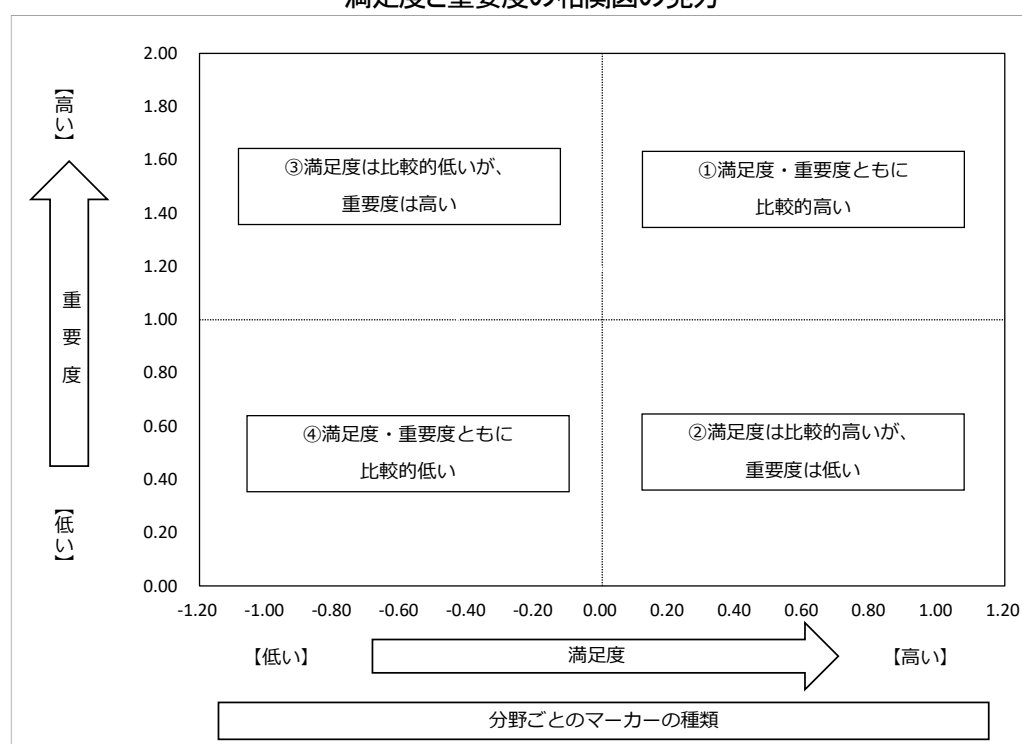
満足度と重要度の集計結果を点数化し、満足度・重要度それぞれについて、合計点数を対象サンプル数で除して平均値を算出しました。これらを相関図に示すことで、満足度と重要度の関係性を一目で見ることができます。

ヨコ方向が満足度、タテ方向が重要度とした相関図の中に、点数結果を落としてみると、次のように解釈することができます。

点数化のルール

満足度	重要度	点数
満足している	重要である	3 点
やや満足している	やや重要である	1 点
どちらともいえない	どちらともいえない	0 点
やや不満である	あまり重要でない	-1 点
不満である	重要でない	-3 点
無回答	無回答	除外

満足度と重要度の相関図の見方



①満足度・重要度ともに比較的高い

満足度が高いと同時に重要度も高く、現状維持を図るべき施策です。

②満足度は比較的高いが、重要度は低い

満足度は比較的高く、重要度は低いことから、投資効果をあまり望むことができない施策です。

③満足度は比較的低いが、重要度は高い

満足度が比較的低く、重要度が高いことから、重点化が望まれる施策です。

④満足度・重要度ともに比較的低い

満足度は比較的低くなっていますが、重要度も低いため、満足度を上げるための対策は必ずしも緊急ではない可能性があります。

①全体

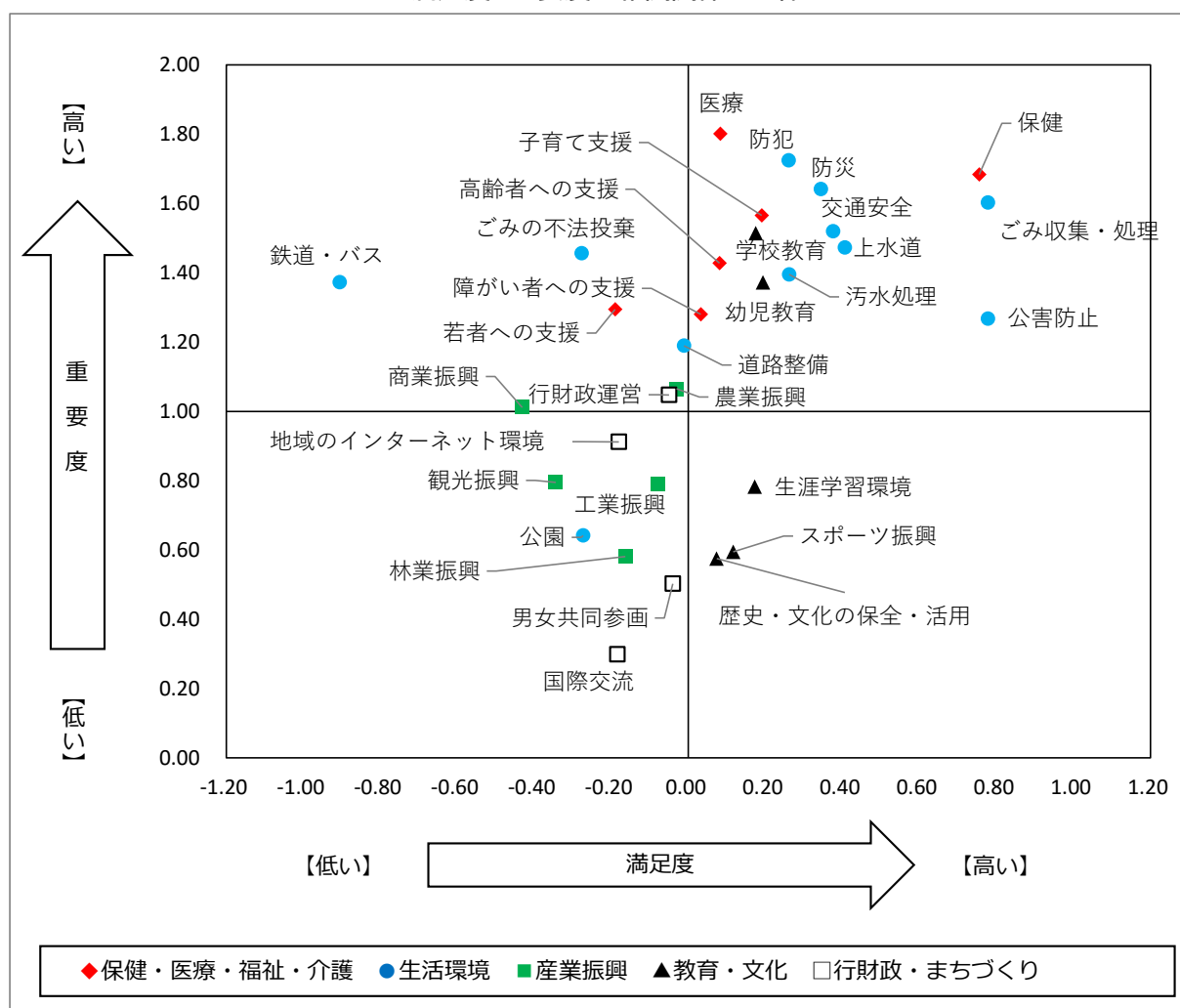
◆満足度が比較的低いが重要度が高い項目には「ごみの不法投棄」「鉄道・バス」「若者への支援」が挙げられる。

満足度と重要度の相関図をみると、満足度が比較的低いが重要度が高い項目には「ごみの不法投棄」「鉄道・バス」「若者への支援」等が挙げられており、これら生活環境分野の早急な重点化が望まれます。

満足度・重要度ともに比較的高い項目には、「保健」「ごみ収集・処理」「医療」等が挙げられています。

産業振興、行財政・まちづくりの分野は満足度・重要度ともに比較的低くなっています。

満足度と重要度の相関関係／全体

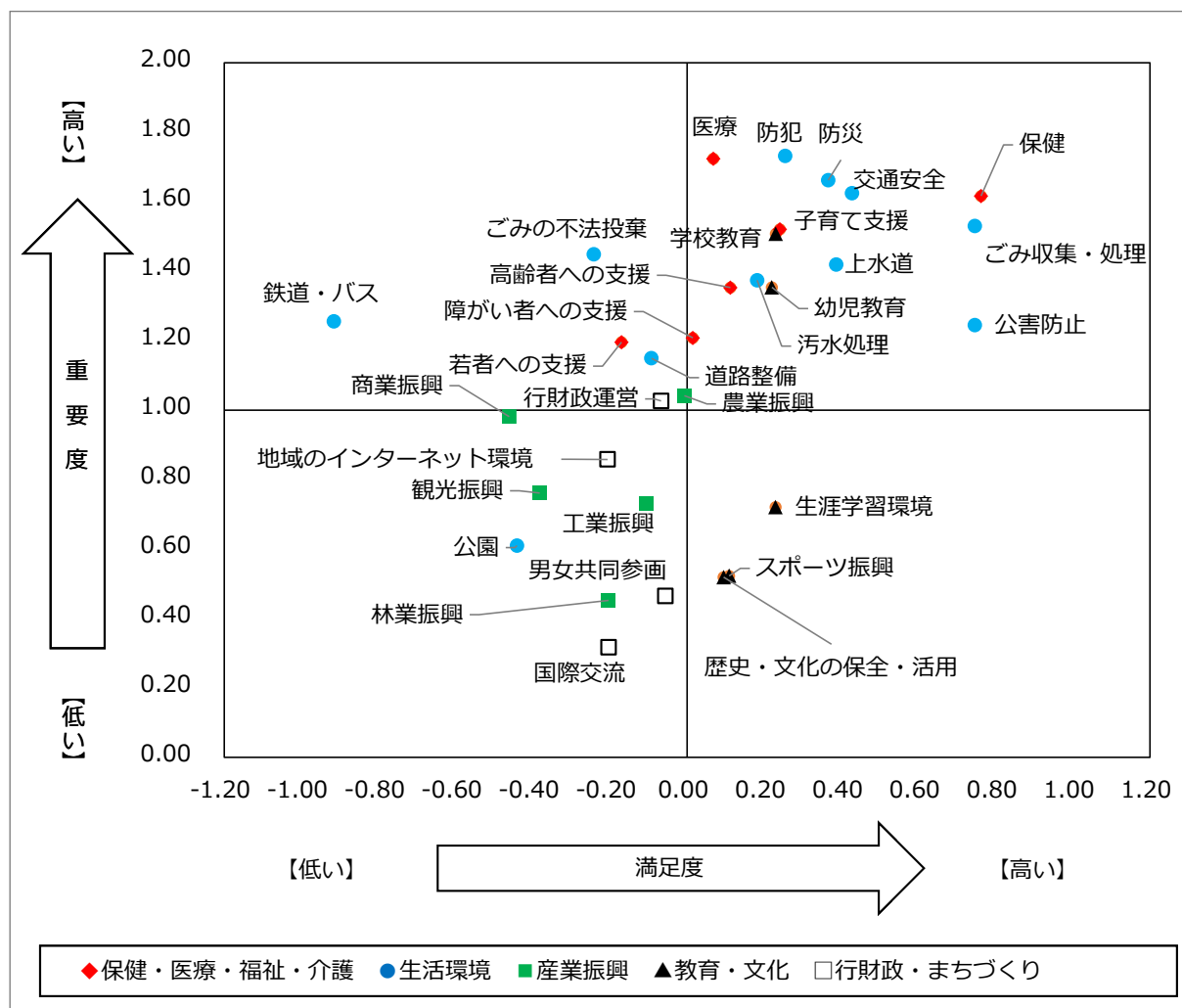


②丹荘小学校区

◆「交通安全」「防災」「国際交流」などの重要度が全体に比べて高い。

- ・重要度については、「交通安全」「防災」「国際交流」が全体に比べて高くなっています。
- ・満足度については、「公園」「道路整備」「污水处理」が全体に比べて低くなっています。
- ・「鉄道・バス」「若者への支援」などの施策への重点化が望まれます。

満足度と重要度の相関関係／丹荘小学校区

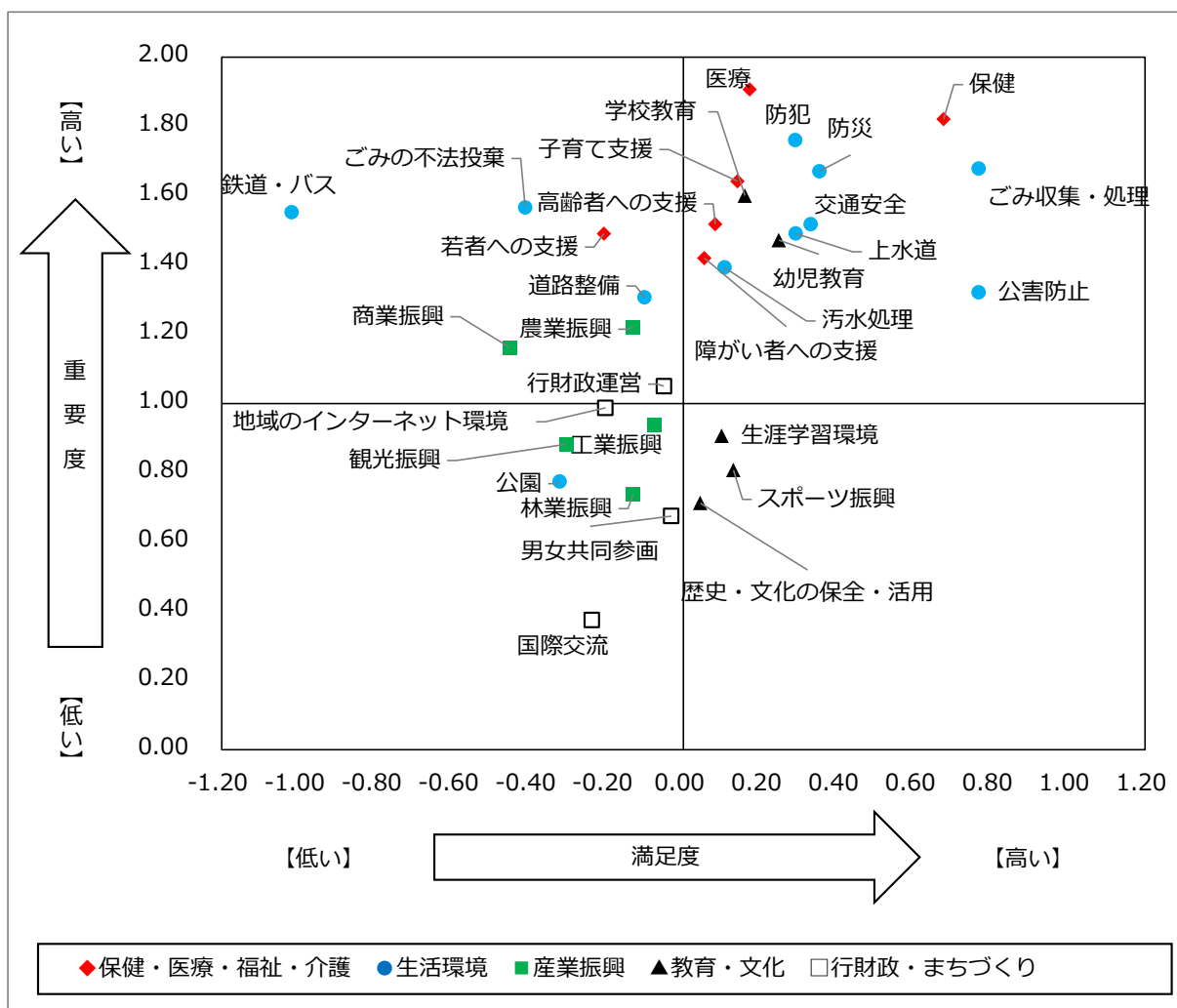


③青柳小学校区

◆「スポーツ振興」「若者への支援」「鉄道・バス」の重要度が全体と比べて高い。

- ・重要度については、「スポーツ振興」「若者への支援」「鉄道・バス」が全体に比べて高くなっています。
- ・満足度については、「汚水処理」「ごみの不法投棄」「上水道」が全体に比べて低くなっています。
- ・「鉄道・バス」「ごみの不法投棄」「若者への支援」などの施策への重点化が望まれます。

満足度と重要度の相関関係／青柳小学校区

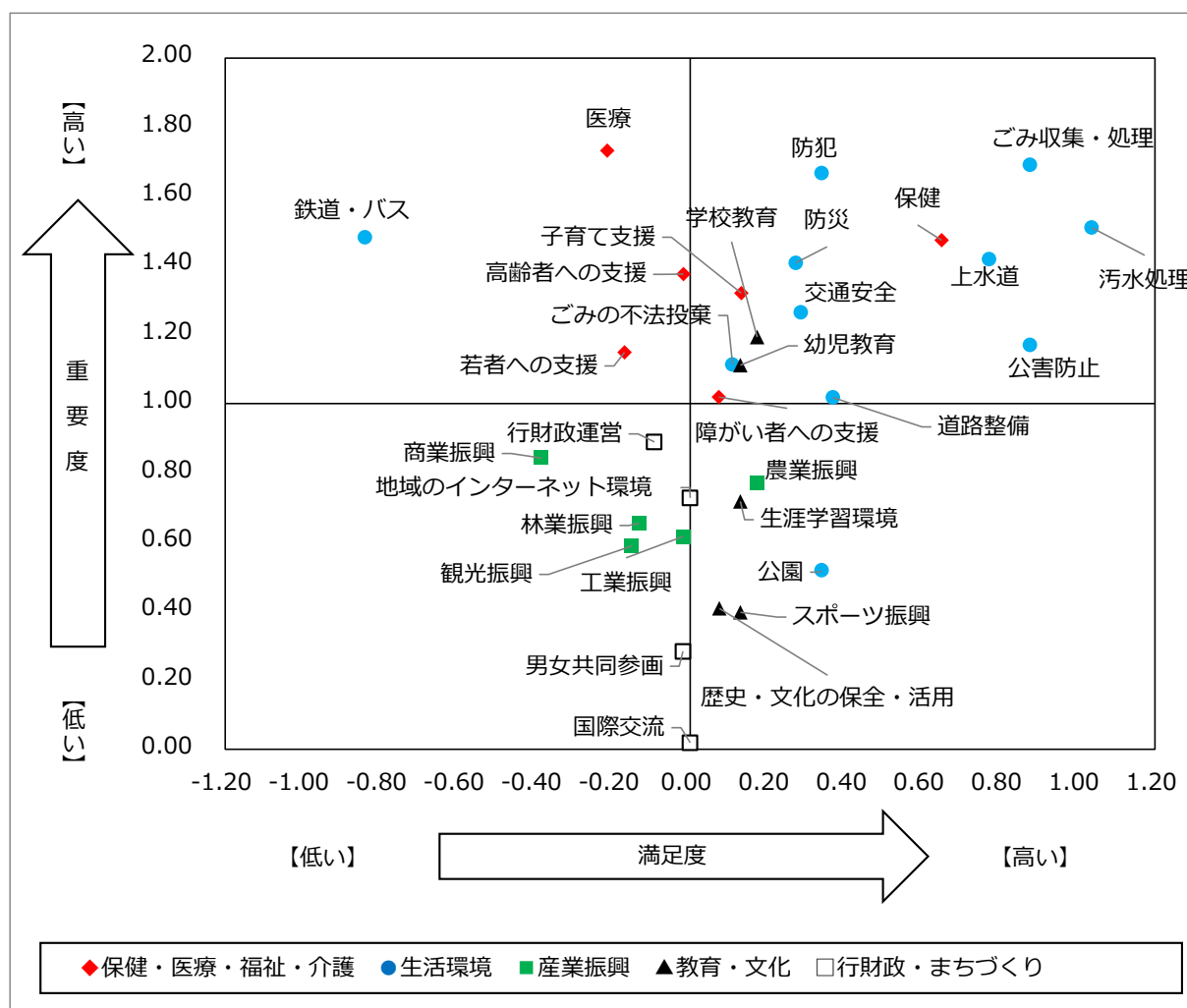


④渡瀬小学校区

◆「污水处理」「鉄道・バス」「ごみ収集・処理」の重要度が全体と比べて高い。

- ・重要度については、「污水处理」「鉄道・バス」「ごみ収集・処理」が全体に比べて高くなっています。
- ・満足度については、「医療」「保健」「高齢者への支援」が全体に比べて低くなっています。
- ・「鉄道・バス」「医療」などの施策への重点化が望まれます。

満足度と重要度の相関関係／渡瀬小学校区

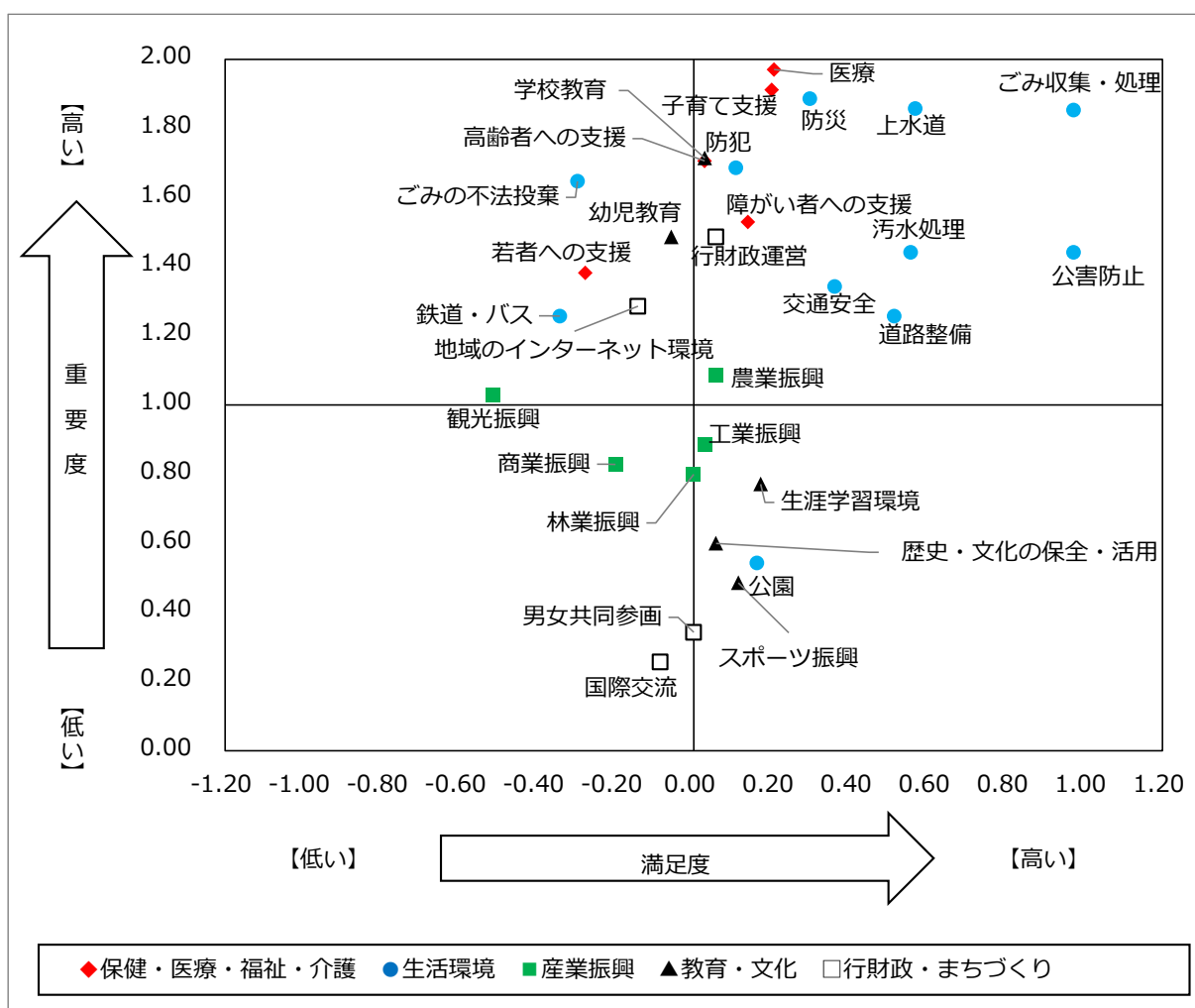


⑤神泉小学校区

◆「行財政運営」「上水道」「地域のインターネット」の重要度が全体と比べて高い。

- ・重要度については、「行財政運営」「上水道」「地域のインターネット」が全体に比べて高くなっています。
- ・満足度については、「幼児教育」「観光振興」「防犯」が全体に比べて低くなっています。
- ・「地域のインターネット環境」「幼児教育」「観光振興」などの施策への重点化が望まれます。

満足度と重要度の相関関係／神泉小学校区



3 属性にみる満足度と重要度

(1) 保健・医療・福祉・介護

①保健

◆『満足』が保健・医療・福祉・介護の中では高く、『不満』が比較的低い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

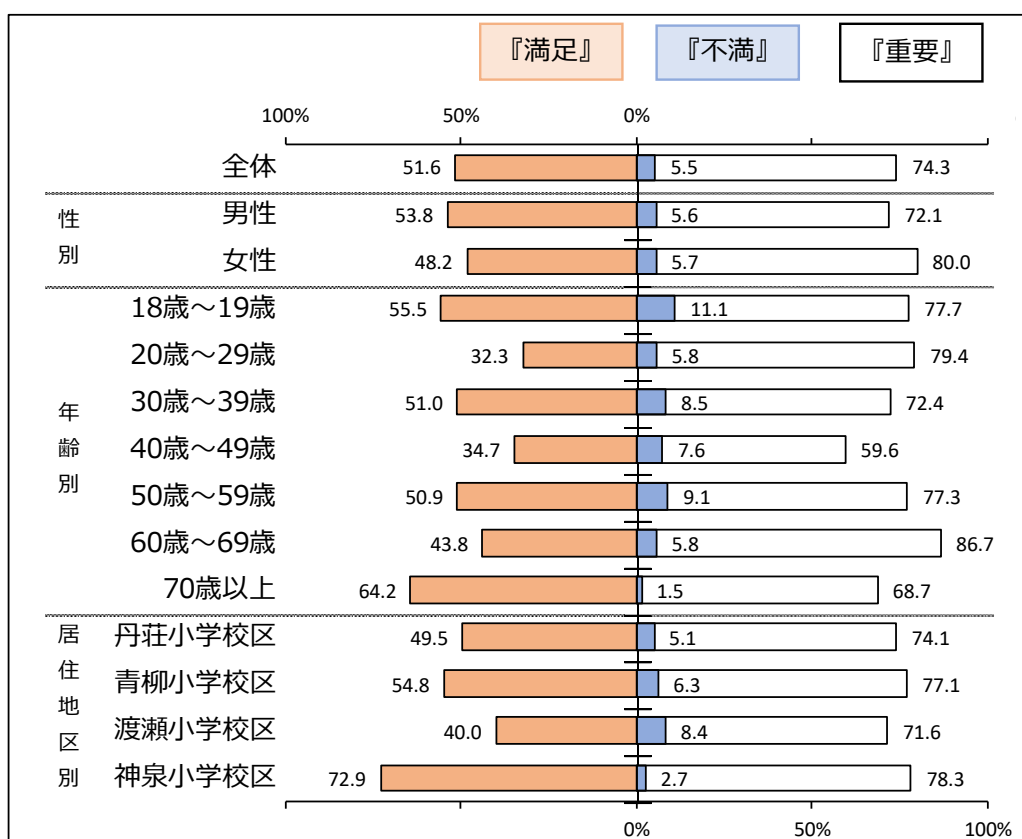
保健は、『満足』(51.6%)が保健・医療・福祉・介護の中で最も高く、『重要』(74.3%)も医療(76.6%)に次いで高くなっています。

性別でみると、『満足』では女性が男性を下回っています。

年齢別でみると、20歳～29歳、40歳～49歳、60歳～69歳では『満足』(32.3%、34.7%、43.8%)が50%を下回っています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(40.0%)が他の地区に比べて低くなっています。

保健／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



②医療

◆『重要』が保健・医療・福祉・介護の中で最も高い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

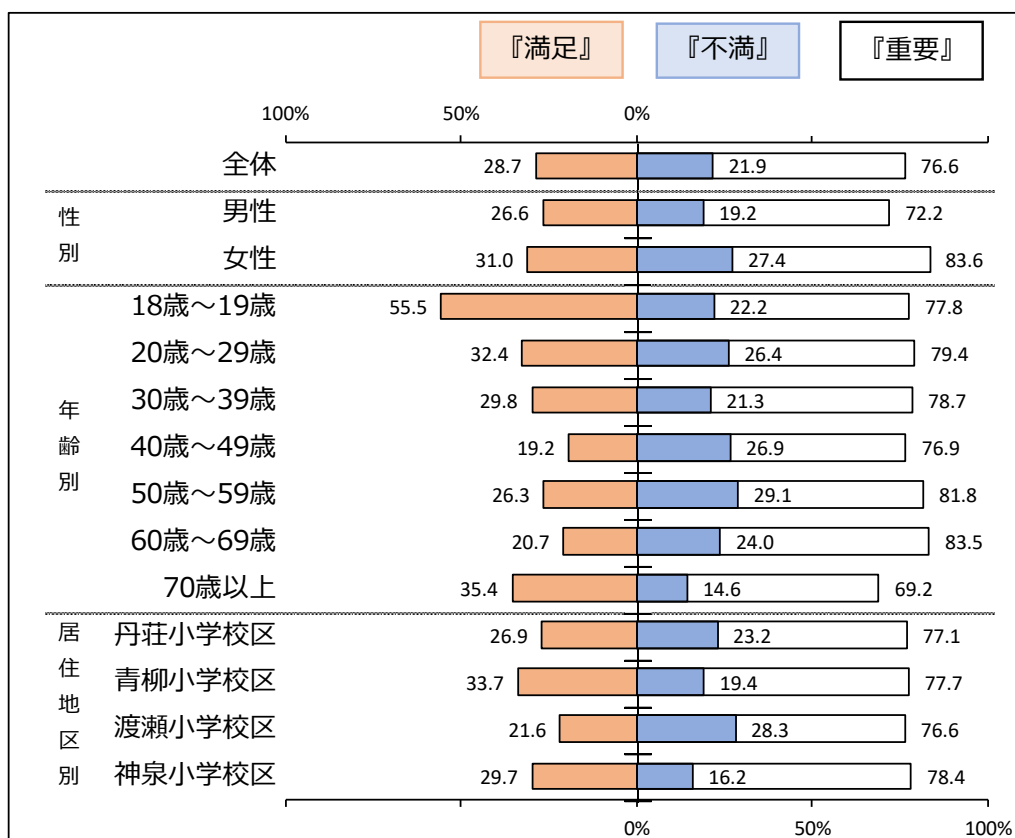
医療は、『重要』(76.6%)が保健・医療・福祉・介護の中で最も高くなっています。また、『満足』(28.7%)が『不満』(21.9%)を上回っています。

性別でみると、女性の『不満』(27.4%)が男性(19.2%)を上回っています。

年齢別の『満足』をみると、18歳～19歳(55.5%)以外の年齢層では、20%～30%となっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『不満』(28.3%)が『満足』(21.6%)を上回っています。

医療／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



③高齢者支援

◆ 30歳～39歳、70歳以上では『満足』が30%以上となっています。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

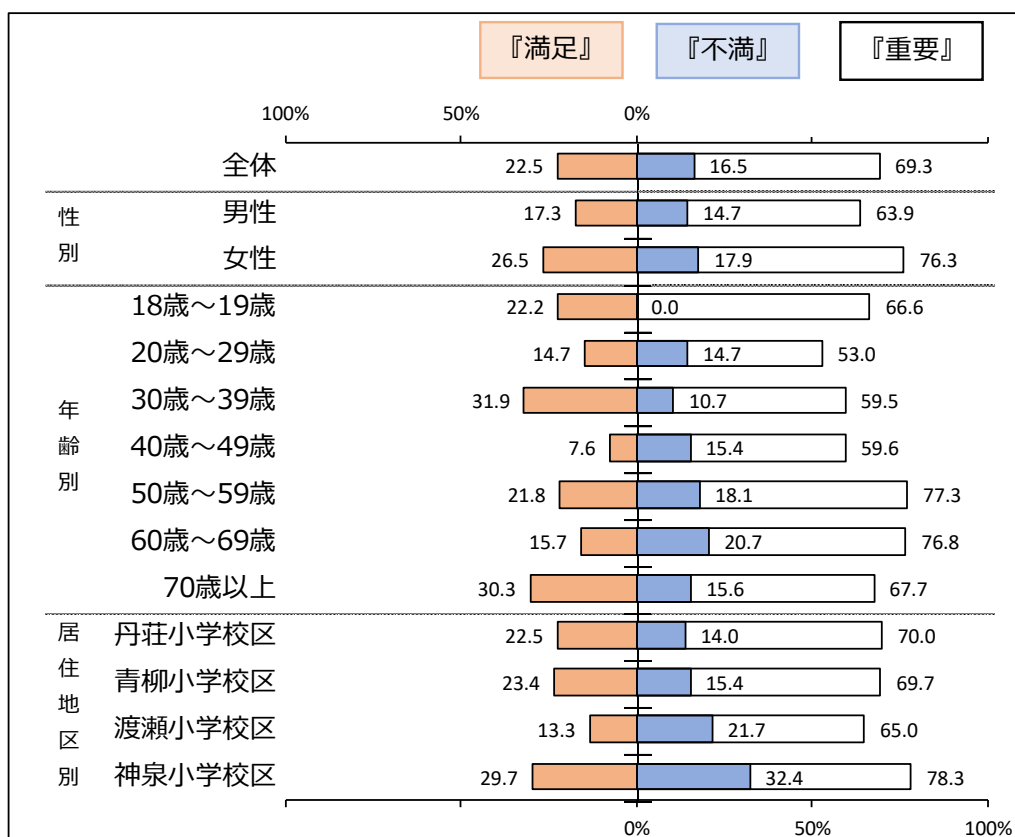
高齢者支援は、『満足』(22.5%)が『不満』(16.5%)を上回っています。

性別でみると、『満足』で女性(26.5%)が男性(17.3%)を上回っています。

年齢別でみると、40歳～49歳で『満足』(7.6%)が他の年齢層に比べて低くなっています。

居住地区別の『満足』をみると、渡瀬小学校区(13.3%)が最も低く、『不満』(21.7%)が大きく上回っています。

高齢者への支援／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



④障害者支援

◆『重要』が保健・医療・福祉・介護の中で最も低い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

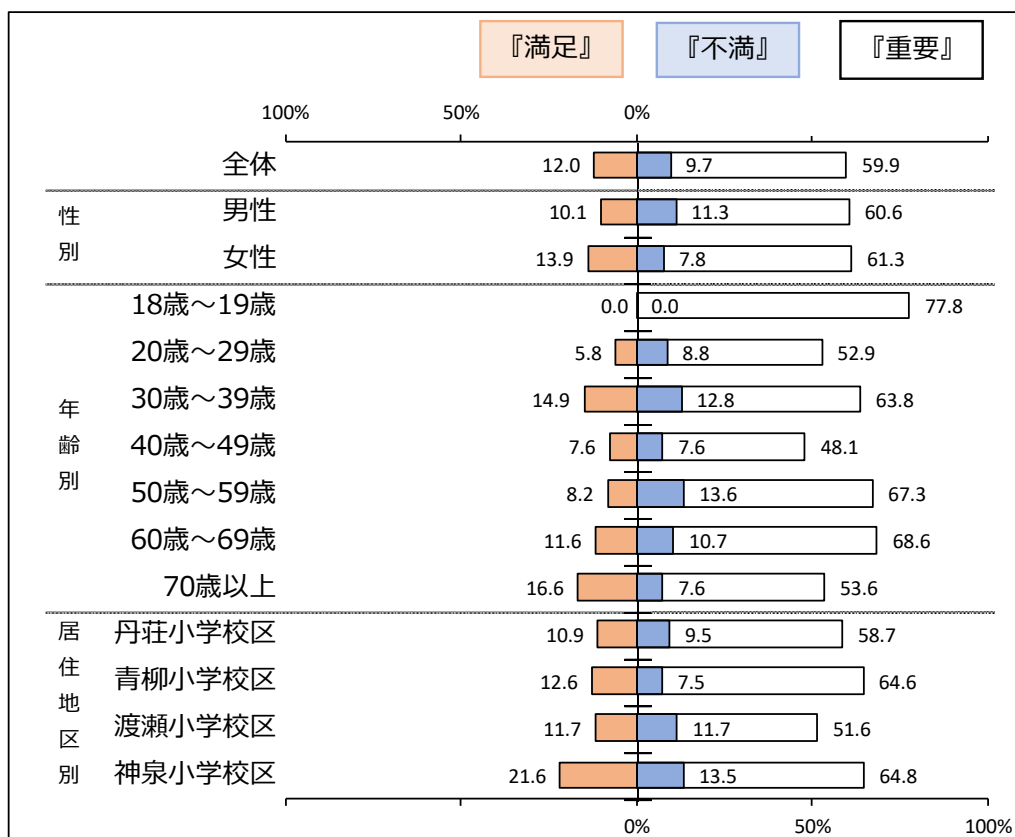
障害者支援は、『満足』（12.0%）が『不満』（9.7%）を上回っています。

性別でみると、女性の『満足』（13.9%）が男性（10.1%）をやや上回っています。

年齢別でみると、20歳～29歳、50歳～59歳で『不満』が『満足』を上回っています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『満足』（21.6%）が『不満』（13.5%）を大きく上回っています。

障害者支援／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



⑤若者支援

◆『満足』、『重要』が保健・医療・福祉・介護の中で比較的低い。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

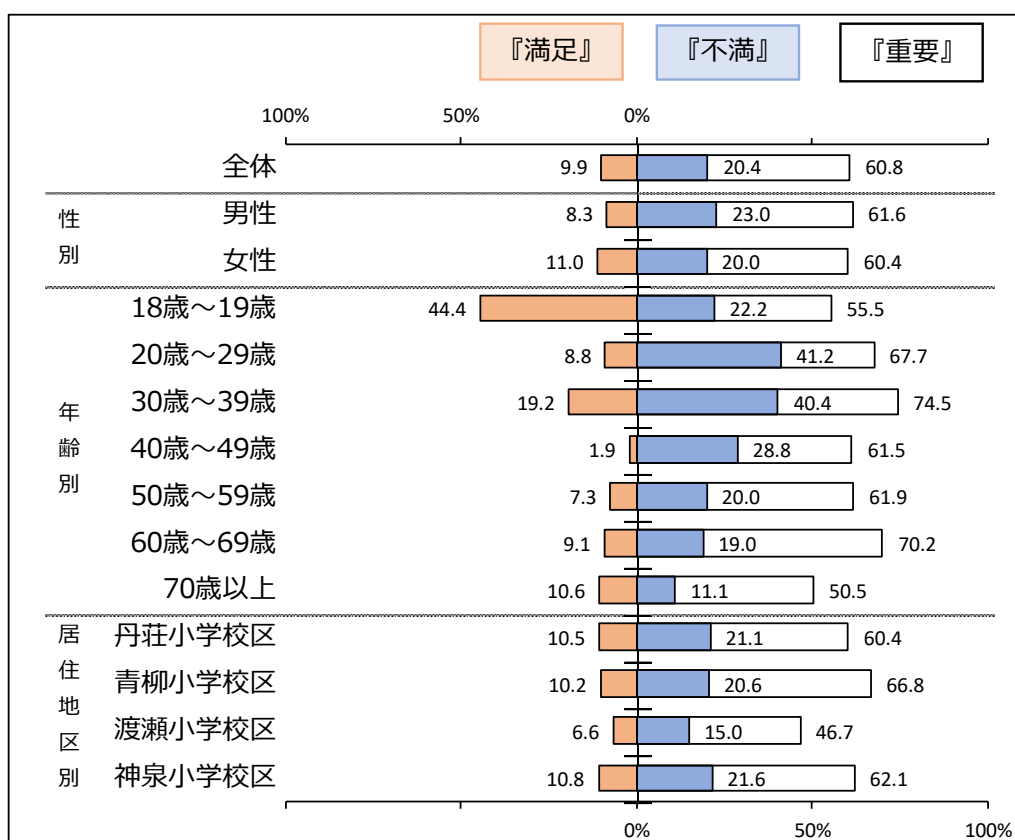
若者支援は、『満足』(9.9%)が保健・医療・福祉・介護の中で最も低く、『不満』(20.4%)が上回っています。

性別でみると、男性の『不満』(23.0%)が女性(20.0%)を上回っています。

年齢別でみると、20歳～29歳、30歳～39歳の『不満』(41.2%、40.4%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、すべての小学校区で『不満』が『満足』を上回っています。

若者支援／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



⑥子育て支援

◆全ての層で『満足』が『不満』を上回っている。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

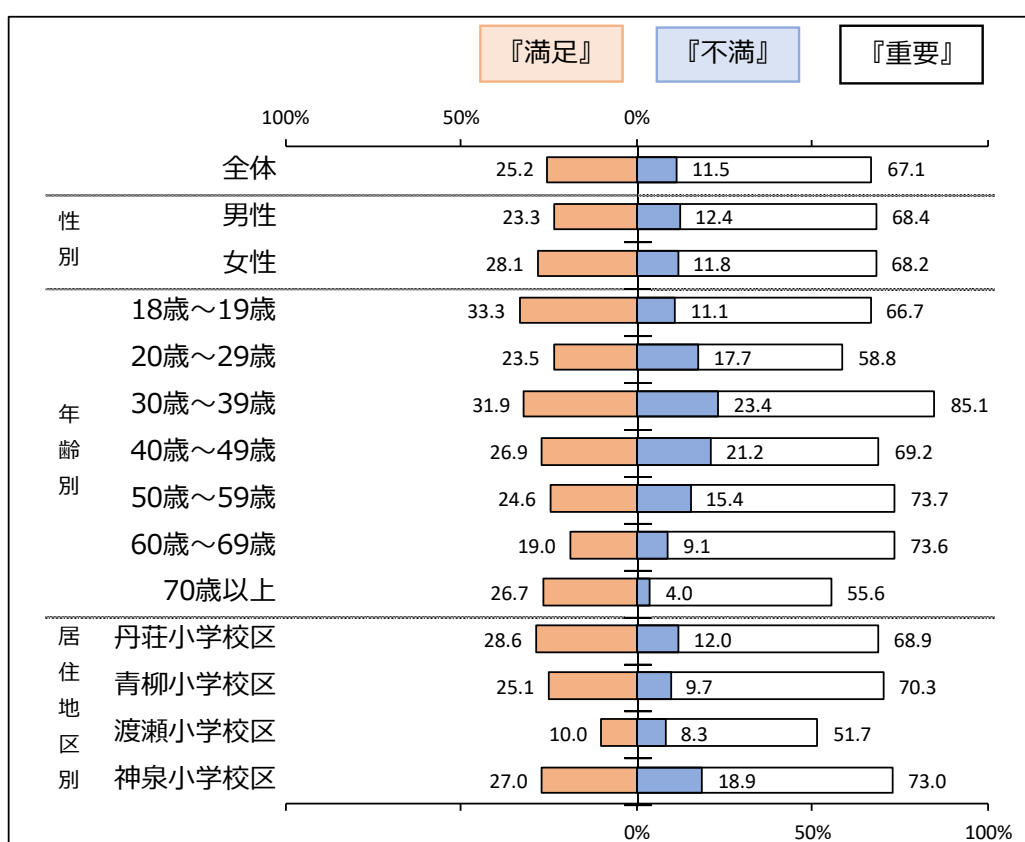
子育て支援は、『満足』(25.2%)が『不満』(11.5%)を上回っています。

性別でみると、女性の『満足』(28.1%)が、男性(23.3%)を上回っています。

年齢別でみると、30歳～39歳で『重要』(85.1%)、『不満』(23.4%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(10.0%)が他の地区に比べて低くなっています。

子育て支援／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



(2) 生活環境

①公園

◆『重要』は生活環境の中で最も低い。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

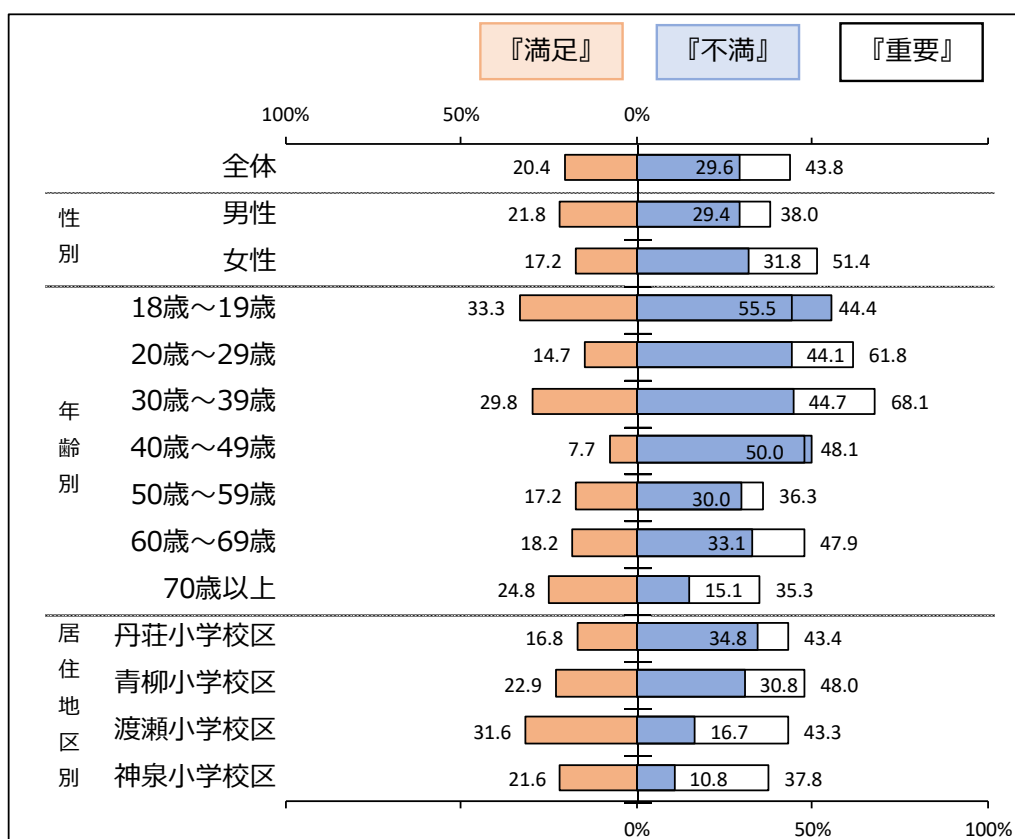
公園は、『不満』(29.6%)が『満足』(20.4%)を上回っていますが、『重要』(43.8%)は生活環境の中で最も低くなっています。

性別でみると、女性の『不満』(31.8%)が男性(29.4%)を大きく上回っています。

年齢別でみると、70歳以上を除くすべての年齢層で『不満』が『満足』を上回っています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(31.6%)が『不満』(16.7%)を大きく上回っています。

公園／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



②道路整備

◆40 歳未満では、『満足』が『不満』を上回るが、40 歳以上 70 歳未満では、『不満』が上回っています。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

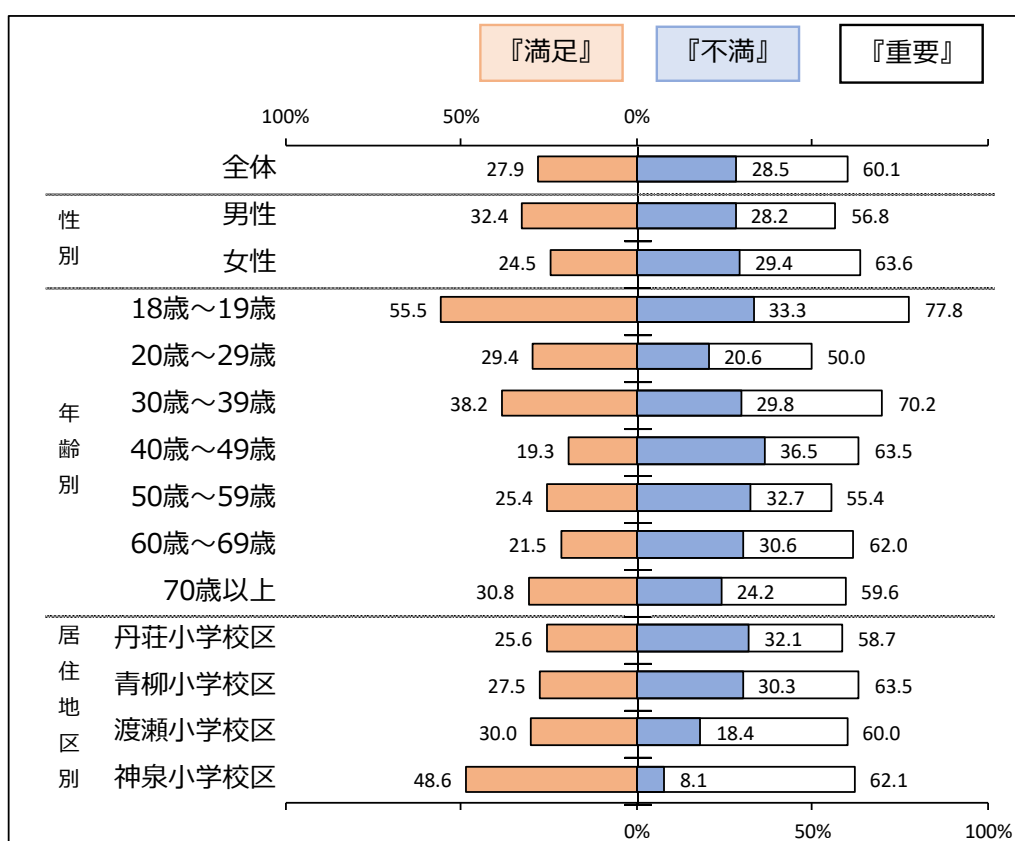
道路整備は、『不満』(28.5%)が『満足』(27.9%)を上回っています。

性別でみると、女性の『重要』(63.6%)、『不満』(29.4%)が、男性(56.8%、28.2%)を上回っています。

年齢別でみると、40 歳～49 歳では『不満』(36.5%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区、青柳小学校区では、『不満』が『満足』を上回っています。

道路整備／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



③鉄道・バス

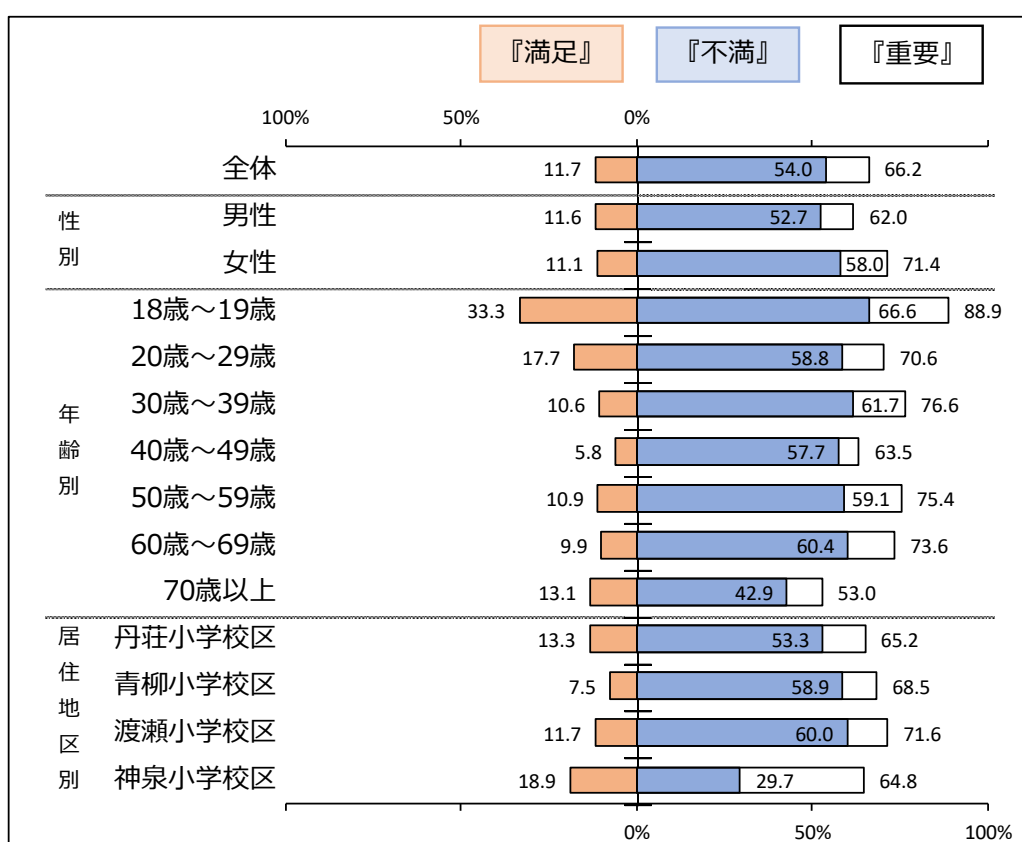
◆すべての層で『不満』が『満足』を大きく上回る。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

鉄道・バスは、『不満』(54.0%)が『満足』(11.7%)を大きく上回っています。また、『重要』が66.2%と比較的高くなっています。

性別でみると、女性の『重要』(71.4%)が7割超となり、男性(62.0%)を上回っています。年齢別の『不満』をみると、70歳以上(42.9%)を除くすべての層が5割超となっています。居住地区別でみると、神泉小学校区を除く小学校区で、『不満』が5割超となっています。

鉄道・バス／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



④上水道

◆『満足』が『不満』を大きく上回るが、『重要』が6割を占める

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

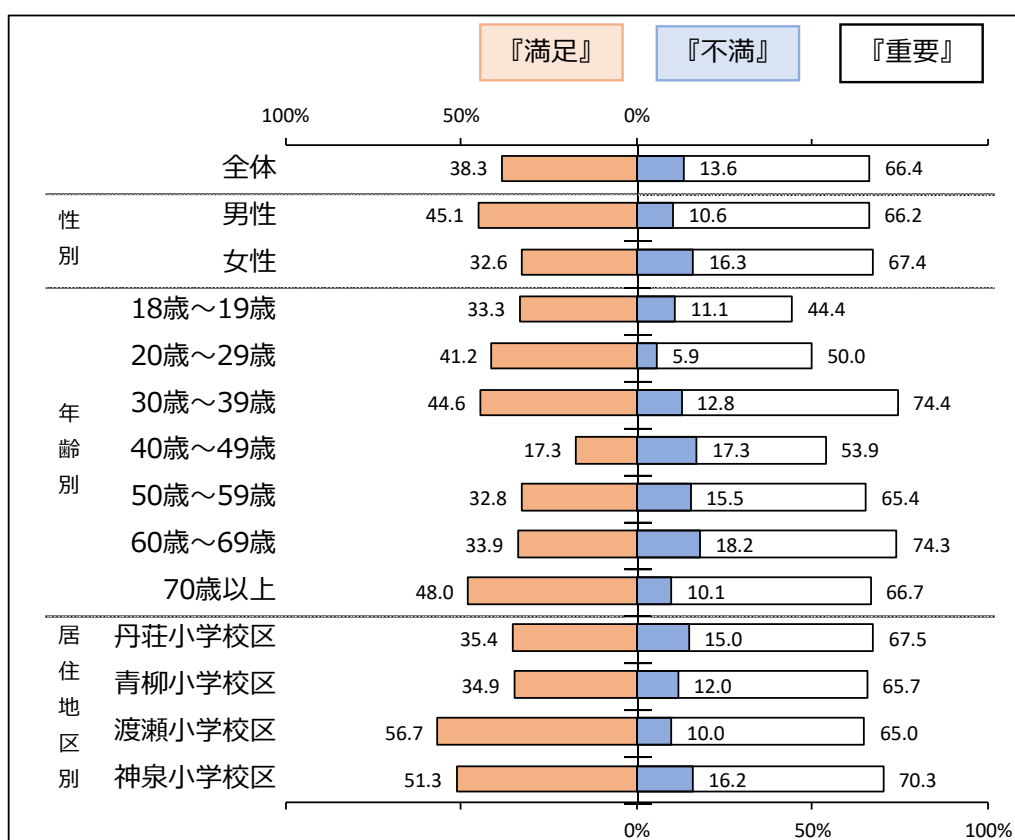
上水道は、『満足』(38.3%)が『不満』(13.6%)を大きく上回っています。

性別でみると、男性の『満足』(45.1%)が女性(32.6%)を上回っています。

年齢別でみると、40歳～49歳の『満足』(17.3%)は、他の層に比べて、大きく下回っています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区、青柳小学校区の『満足』が3割台なのに対し、渡瀬小学校区、神泉小学校区では5割超となっています。

上水道／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



⑤汚水処理

◆渡瀬小学校区では『満足』が5割以上となっています。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

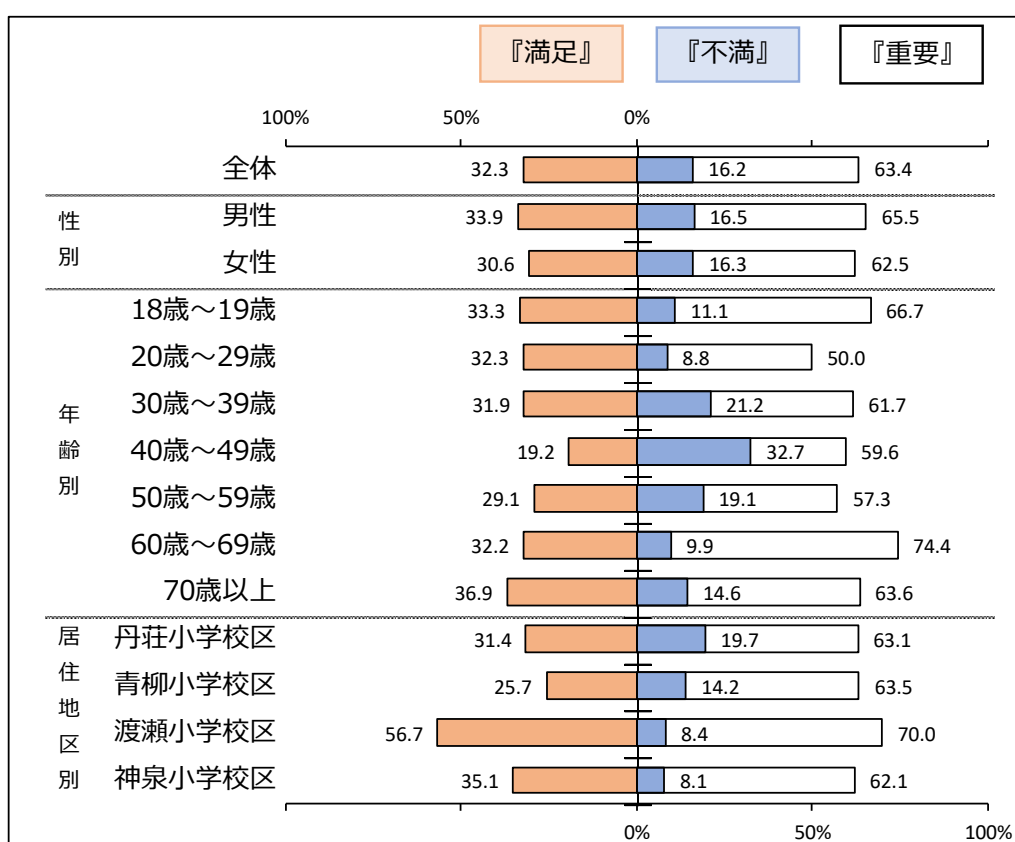
汚水処理は、『満足』(32.3%)が『不満』(16.2%)を上回っています。

性別でみると、男性、女性に大きな違いはみられません。

年齢別でみると、40歳～49歳を除くすべての層で、『満足』が『不満』を上回っています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』(56.7%)が5割以上を占めていますが、他の小学校区では、4割を下回っています。

汚水処理／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

⑥ごみ収集・処理

◆『満足』『重要』が生活環境の中で最も高い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

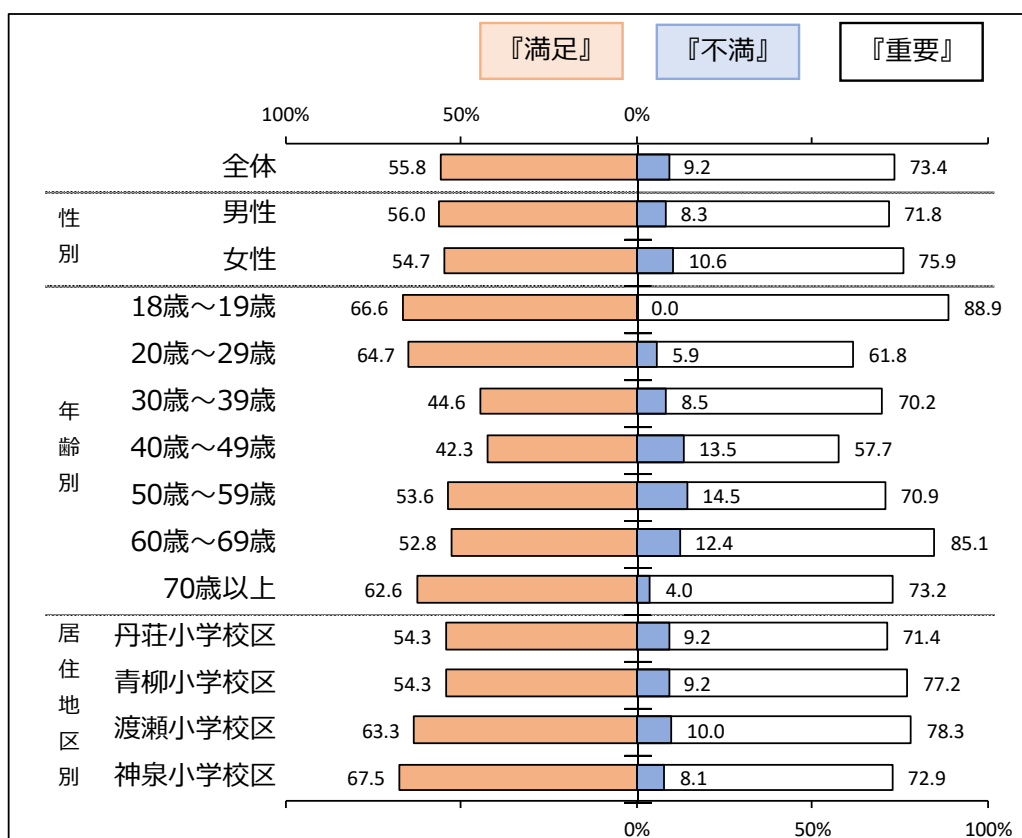
ごみ収集・処理は、『満足』(55.8%)、『重要』(73.4%)が生活環境の中で最も高くなっています。

性別でみると、男性、女性ともに『満足』が『不満』を大きく上回っており、大きな違いはみられません。

年齢別でみると、30歳～39歳、40歳～49歳の『満足』(44.6%、42.3%)は、他の年齢層と比べて低くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区、神泉小学校区では『満足』が6割以上を占めており、丹荘小学校区、神泉小学校区では、5割台とやや下回っています。

ごみ収集・処理／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



⑦ごみの不法投棄

◆『満足』が生活環境の中で最も低く、『不満』が『満足』を大きく上回る。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

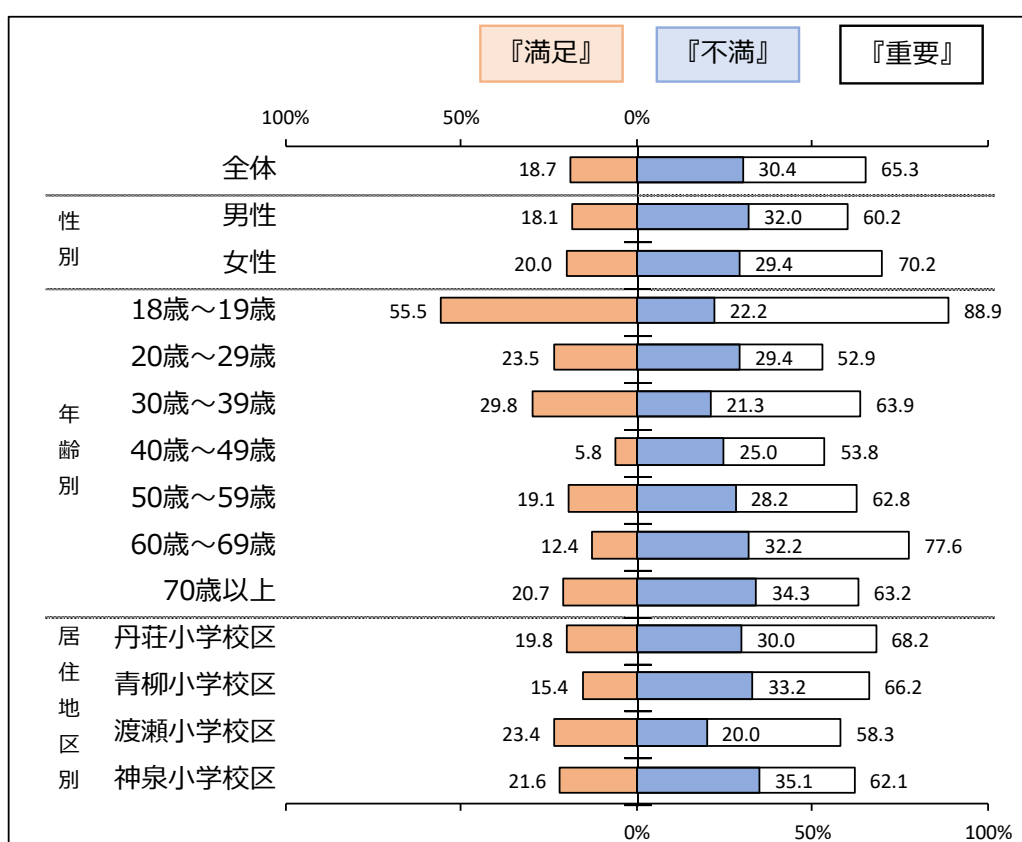
ごみの不法投棄は、『満足』(18.7%)が生活環境の中で最も低く、『不満』(30.4%)が『満足』を大きく上回っています。また、『重要』(65.3%)が6割を超えています。

性別でみると、男性、女性に大きな違いがみられません。

年齢別でみると、年齢層があがるにつれて『不満』の割合が増加する傾向がみられます。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区を除き『不満』が3割を超えています。

ごみの不法投棄／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



⑧公害防止

◆『満足』が『不満』を大きく上回る。

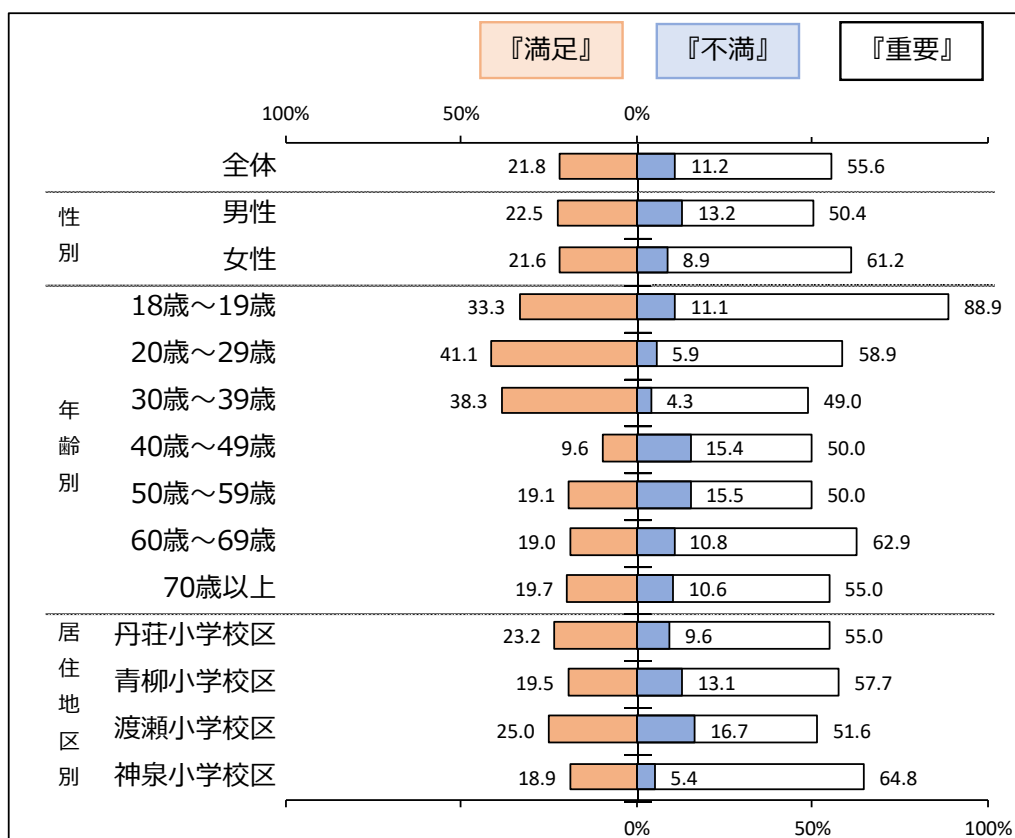
《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

公害防止は、『満足』(21.8%)が『不満』(11.2%)大きく上回っています。

性別でみると、男性、女性に大きな違いはみられません。

年齢別でみると、『満足』は40歳以上の年齢層に比べて、40歳未満の年齢層の方が大きく上回っています。

公害防止／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

⑨防災

◆『満足』が『不満』を大きく上回る。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

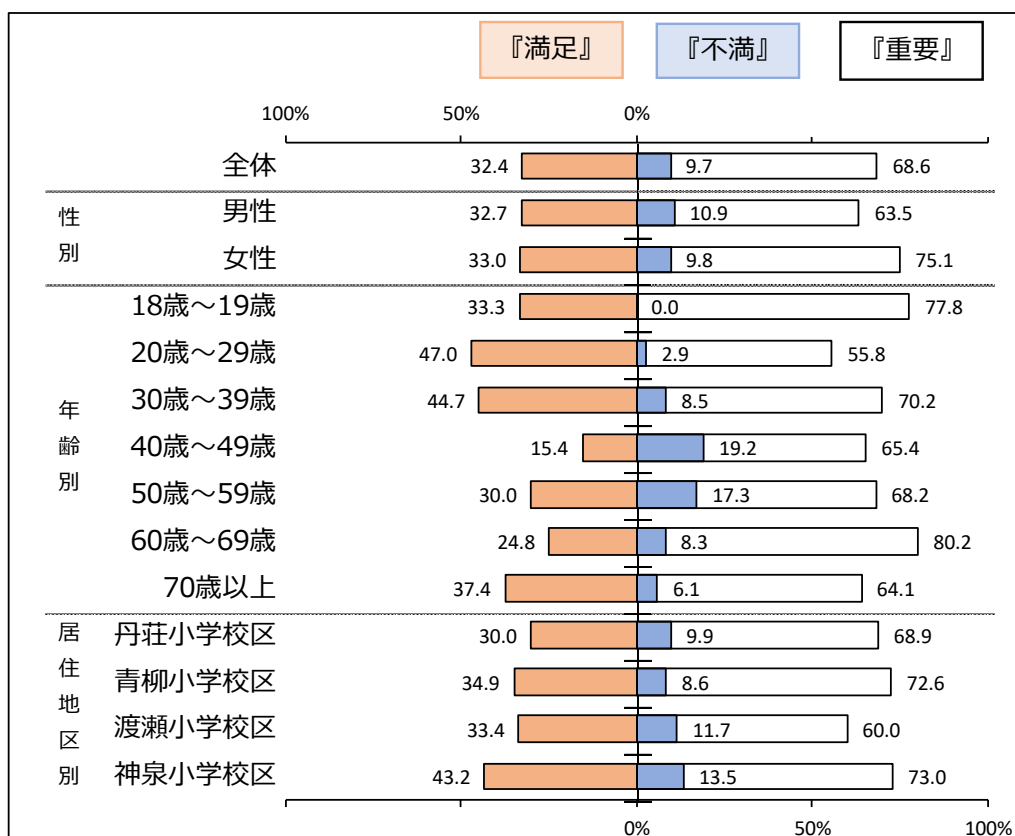
防災は、『満足』（32.4%）が『不満』（9.7%）を大きく上回っています。

性別でみると、男性、女性で『満足』、『不満』に大きな違いはみられません。

年齢別でみると、20歳～29歳では『満足』（47.0%）が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『満足』（43.2%）が他の地区に比べて高くなっています。

防災／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

⑩交通安全

◆『満足』が『不満』を大きく上回る。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

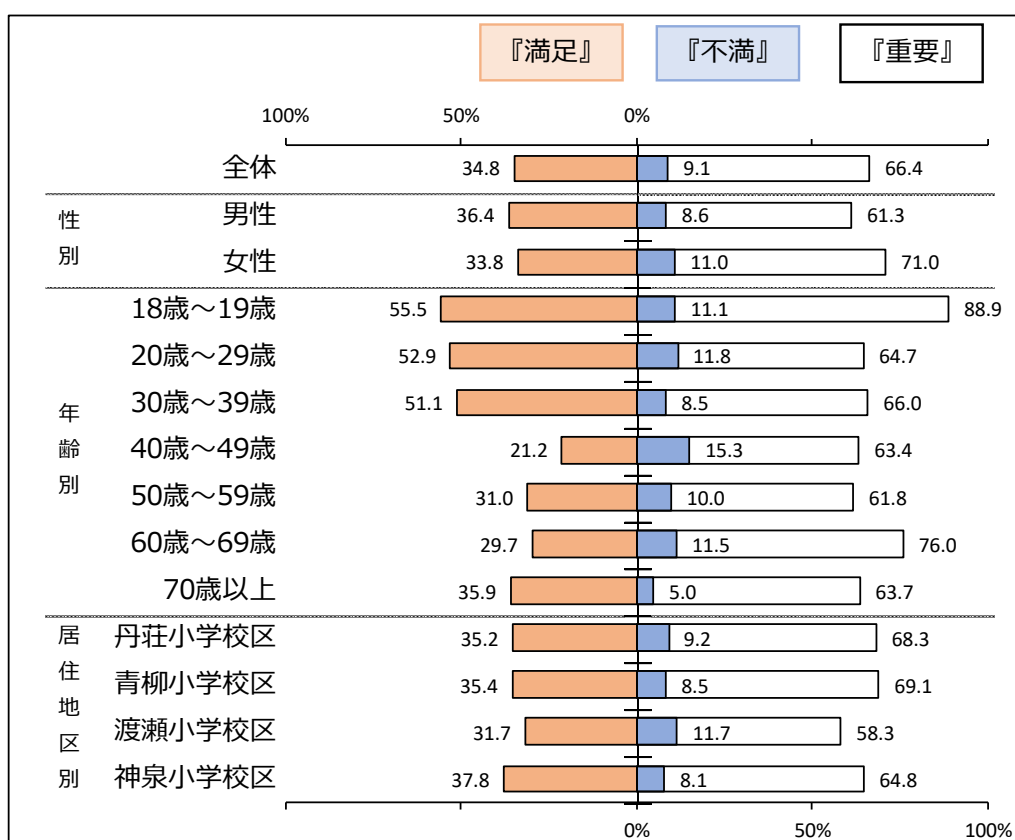
交通安全は、『満足』(34.8%)が『不満』(9.1%)を大きく上回っています。

性別でみると、『満足』は、男性(36.4%)が女性(33.8%)を上回っています。

年齢別でみると、40歳未満の年齢層が5割を超えているのに比べて、40歳以上は、4割未満となっています。また、40歳～49歳では、他の年齢層に比べて『満足』(21.2%)が最も低く、『不満』(15.3%)が最も高くなっています。

居住地区別では、大きな違いがみられません。

交通安全／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

⑪防犯

◆『重要』が生活環境の中ではごみ収集・処理に次いで高い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

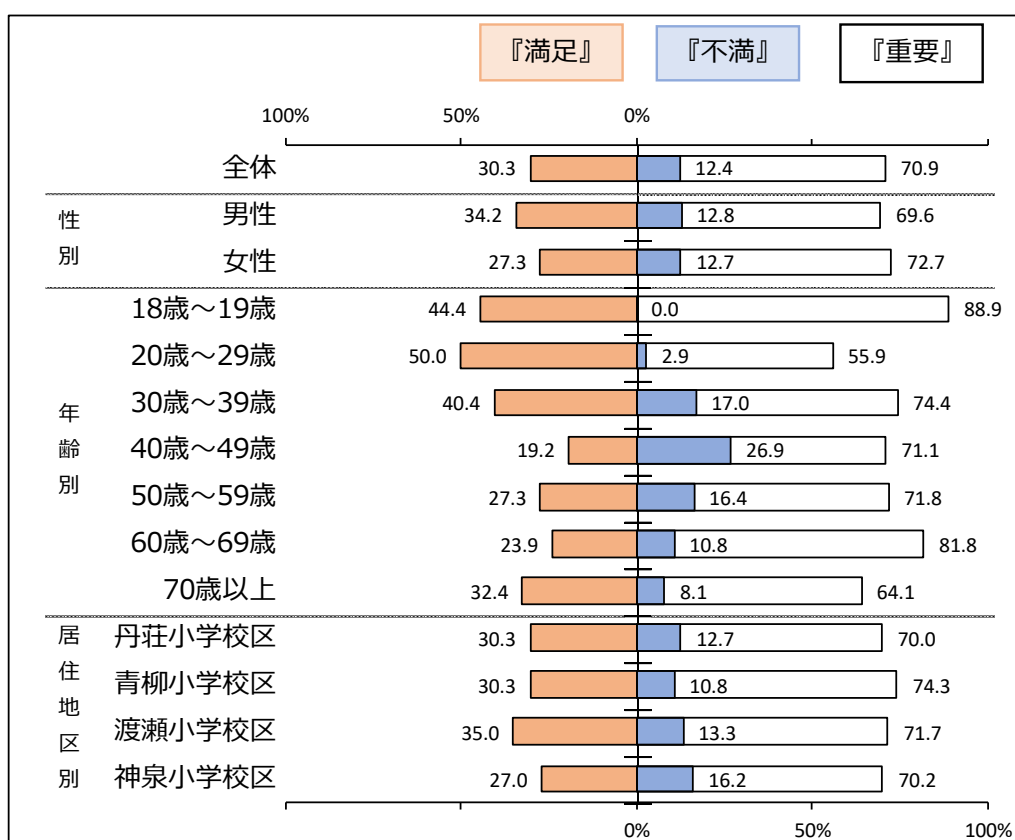
防犯は、『重要』（70.9%）が生活環境の中ではごみ収集・処理に次いで高くなっています。

性別でみると、男性の『満足』（34.2%）が女性（27.3%）を上回っています。

年齢別でみると、40歳未満の年齢層が他の層よりも比較的高く、4割を超えています。また、40歳～49歳では、他の年齢層に比べて『満足』（19.2%）が最も低く、『不満』（26.9%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『満足』（35.0%）が他の地区に比べて高くなっています。

防犯／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(3) 産業振興

産業振興の分野に属する項目は、『満足』『重要』が他の分野に比べて低い傾向にあります。全体では、すべての項目で『不満』が『満足』を上回っています。

①農業振興

◆『満足』がほとんどの層で2割を下回っている。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

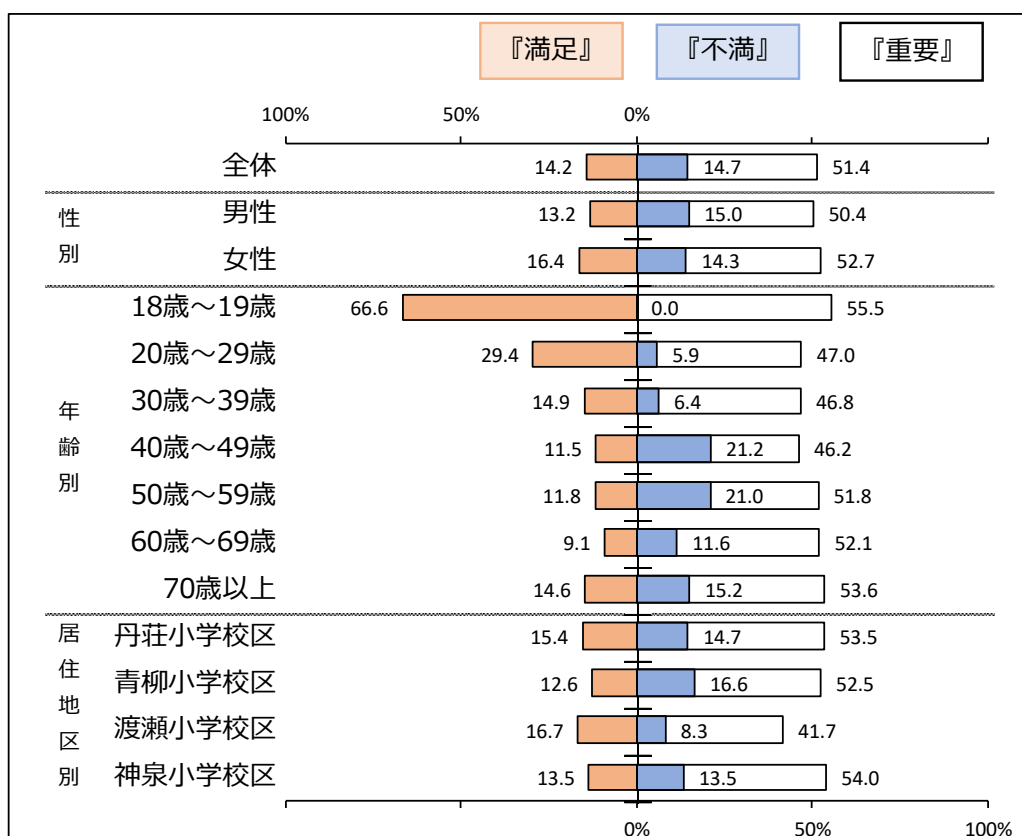
農業振興は、『満足』が14.2%と低い割合となっていますが、産業振興の分野の中では最も高くなっています。

性別でみると、女性の『満足』(16.4%)が男性(13.2%)を若干上回っていますが、大きな違いはみられません。

年齢別でみると、40歳未満は、『満足』が『不満』を上回っているものの、40歳以上では、『不満』が上回っています。

居住地区別でみると、渡瀬小学校区で『重要』(41.7%)が他の地区に比べて低くなっています。

農業振興／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



②工業振興

◆『不満』が『満足』をやや上回る。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

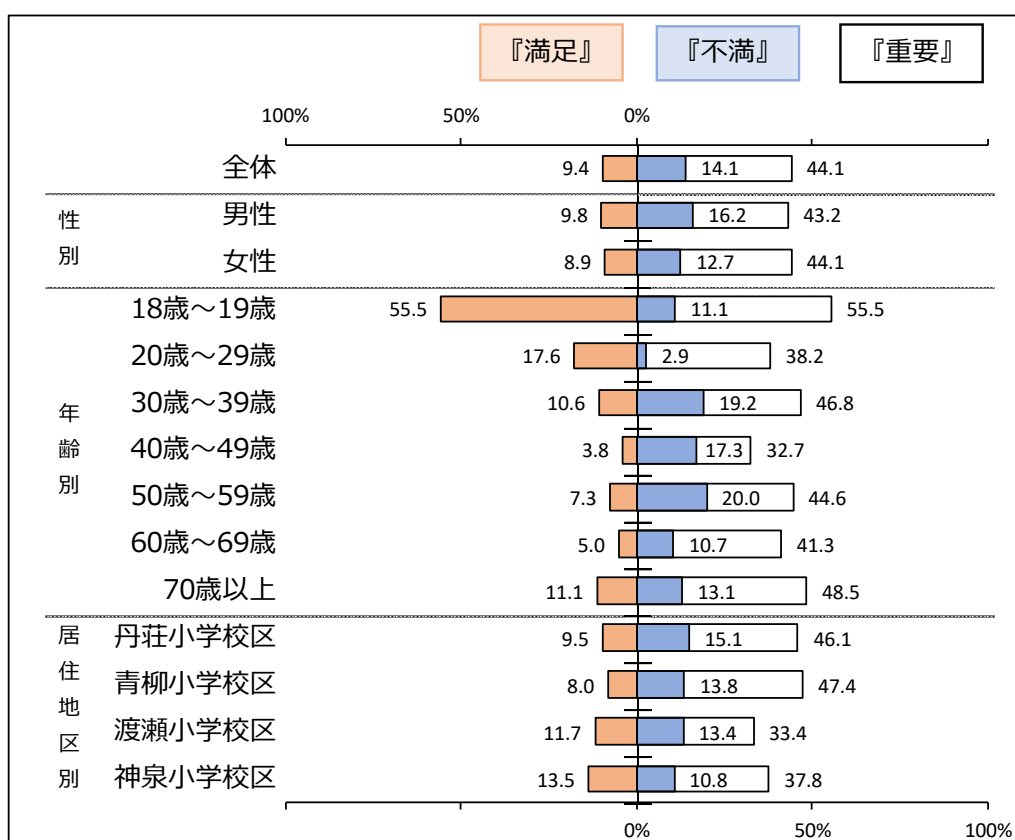
工業振興は、『不満』(14.1%)が『満足』(9.4%)をやや上回っています。

性別でみると、男性の『不満』(16.2%)が女性(12.7%)を上回っています。

年齢別でみると、30歳未満は、『満足』が『不満』を上回っているものの、30歳以上では、『不満』が上回っています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『満足』(13.5%)が『不満』(10.8%)を上回っていますが、他の地区は、『不満』が『満足』を上回っています。

工業振興／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



③商業振興

◆『不満』『重要』が産業振興の中で最も高い。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

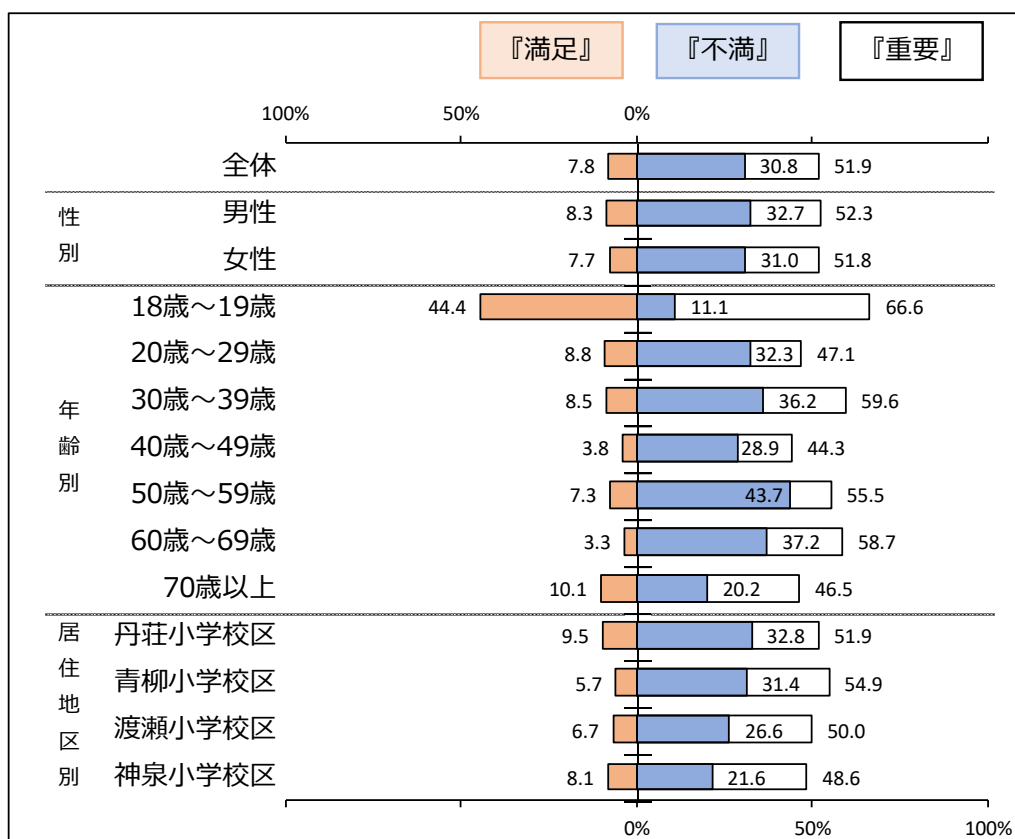
商業振興は、『重要』（51.9%）の割合が、産業振興の中で最も高くなっています。さらに『不満』についても、30.8%と高い割合となっています。

性別でみると、男性と女性では、大きな違いは見られません。

年齢別でみると、50歳～59歳で『不満』（43.7%）が他の年齢層に比べて大きく上回っています。

居住地区別でみると、地区ごとに大きな違いは見られず、すべての地区で『不満』が『満足』を大きく上回っています。

商業振興／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



④観光振興

◆『不満』が産業振興の中では商業振興に次いで高い。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

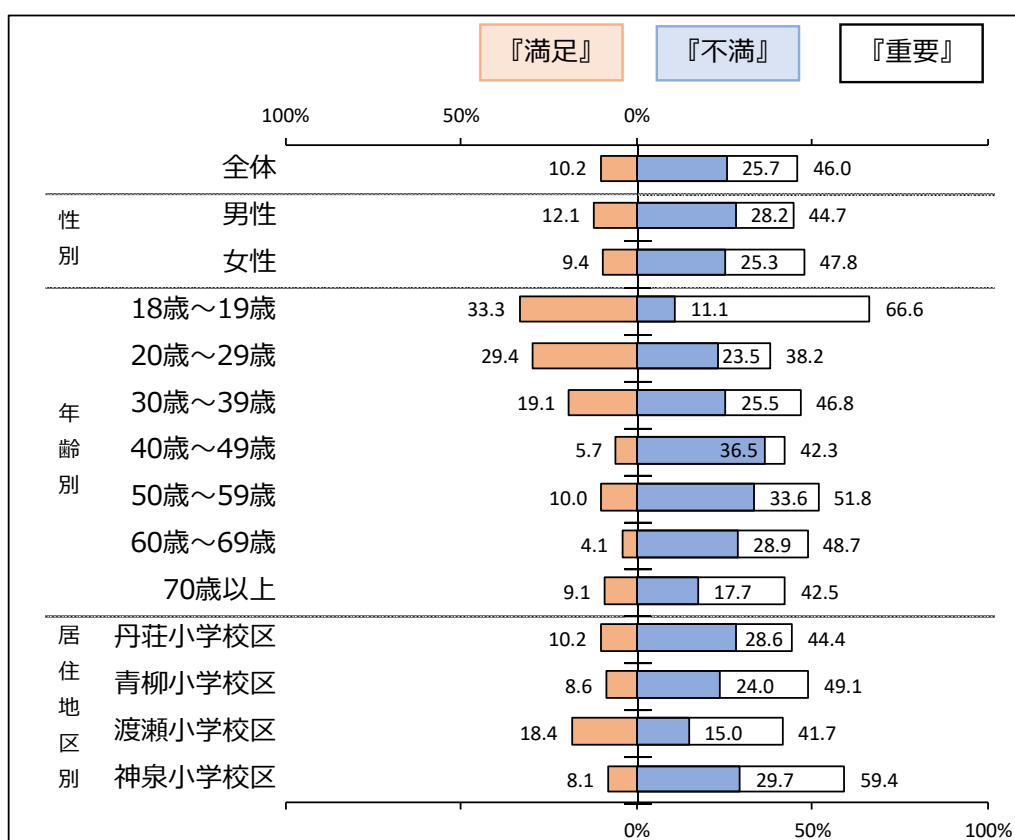
観光振興は、『不満』(25.7%)が産業振興の中では商業振興に次いで高くなっています。

性別でみると、全体と同様の傾向となっており、あまり差はみられません。

年齢別でみると、30歳未満の年齢層では、『満足』が『不満』を上回っていますが、30歳以上の年齢層では、『不満』が『満足』を上回っています。

居住地区別でみると、神泉小学校区の『重要』(59.4%)が他の地区に比べて、高くなっています。また、渡瀬小学校区では『満足』(18.4%)が他の地区に比べて比較的高くなっています。

観光振興／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



⑤林業振興

◆『重要』が産業振興の他の項目に比べて最も低く、『満足』『不満』も比較的低い。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

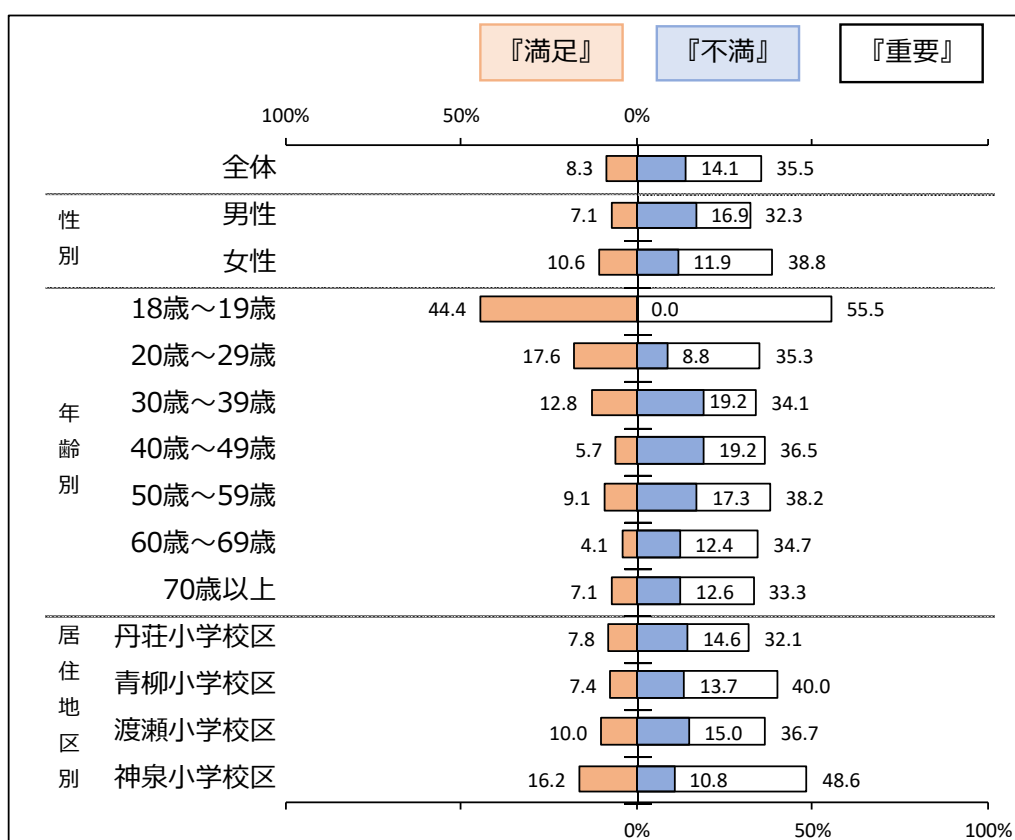
林業振興は、『重要』(35.5%)『満足』(8.3%)、『不満』(14.1%)とも産業振興の他の項目に比べて低くなっています。他の産業に比べてやや関心が薄いと思われます。

性別でみると、男性の『不満』(16.9%)が女性(11.9%)を上回っています。

年齢別でみると、30歳未満の年齢層では、『満足』が『不満』を上回っていますが、30歳以上の年齢層では、『不満』が『満足』を上回っています。

居住地区別でみると、神泉小学校区の『重要』(48.6%)が他の地区に比べて、高くなっています。

林業振興／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



(4) 教育・文化

①幼児教育

◆『満足』が教育・文化の中で最も高く、『不満』『重要』も学校教育に次いで高い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

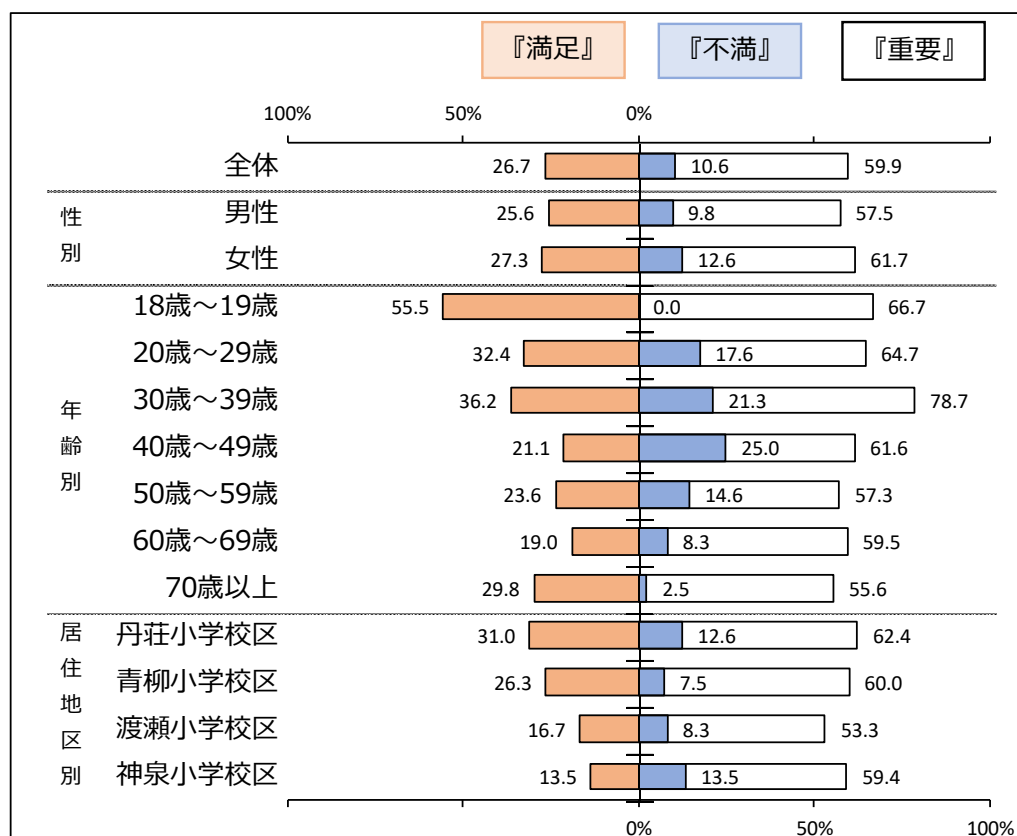
幼児教育は、『満足』(26.7%)、『不満』(10.6%)が教育・文化の中で最も高く、また、『重要』(59.9%)についても、学校教育に次いで高くなっています。

性別でみると、女性の『満足』(27.3%)、『不満』(12.6%)、『重要』(61.7%)のすべてで、男性を上回っています。

年齢別でみると、おおむね年齢層が上がるにつれて『重要』が、減少する傾向がみられます。

居住地区別でみると、丹荘小学校区、青柳小学校区では『満足』、『重要』の割合が、他の地区にくらべて高くなっています。

幼児教育／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



②学校教育

◆『不満』『重要』すべてが教育・文化の中で最も高い。

《満足度・重要度ともに比較的高く、現状維持を図るべき施策》

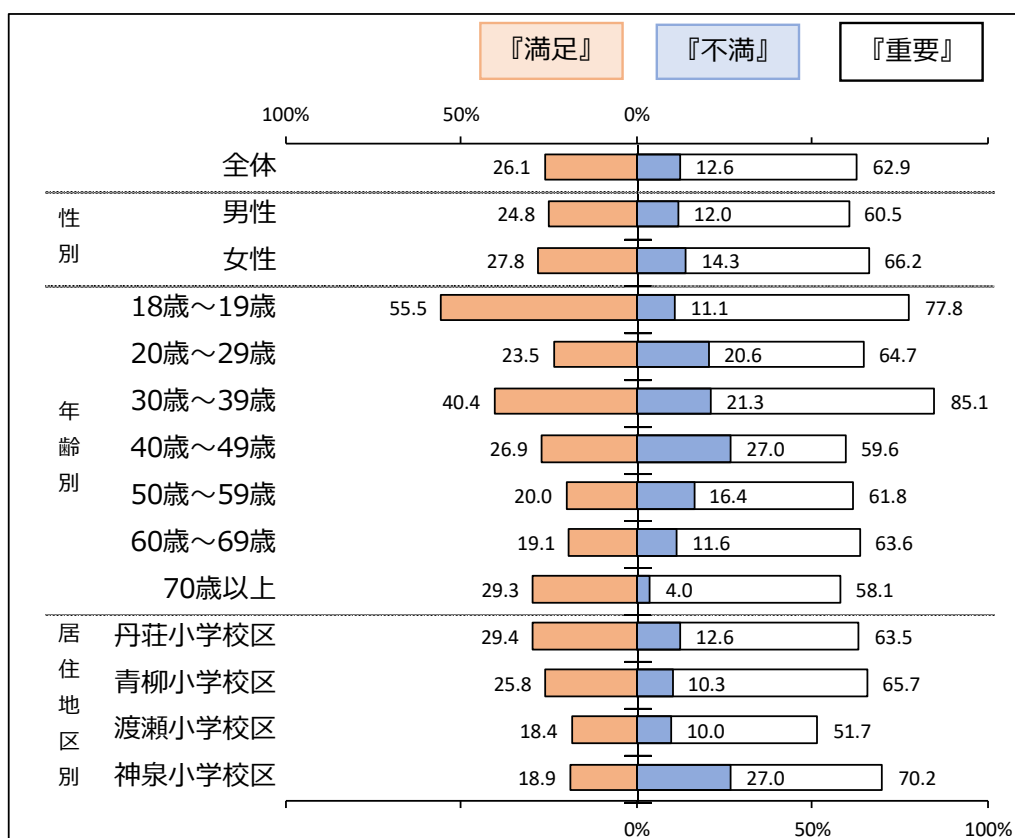
学校教育は、『不満』（12.6%）、『重要』（62.9%）すべてが教育・文化の中で最も高く、『満足』（26.1%）は、幼児教育に次いで高くなっています。

性別でみると、女性の『満足』（27.8%）、『不満』（14.3%）、『重要』（66.2%）のすべてで、男性を上回っています。

年齢別でみると、30歳～39歳の『重要』（85.1%）『満足』（40.4%）が、他の年齢層に比べて大きく上回っています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『不満』（27.0%）が他の地区に比べて高く、『満足』（18.9%）を上回っています。

学校教育／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



③生涯学習環境

◆『満足』が『不満』を大きく上回る。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

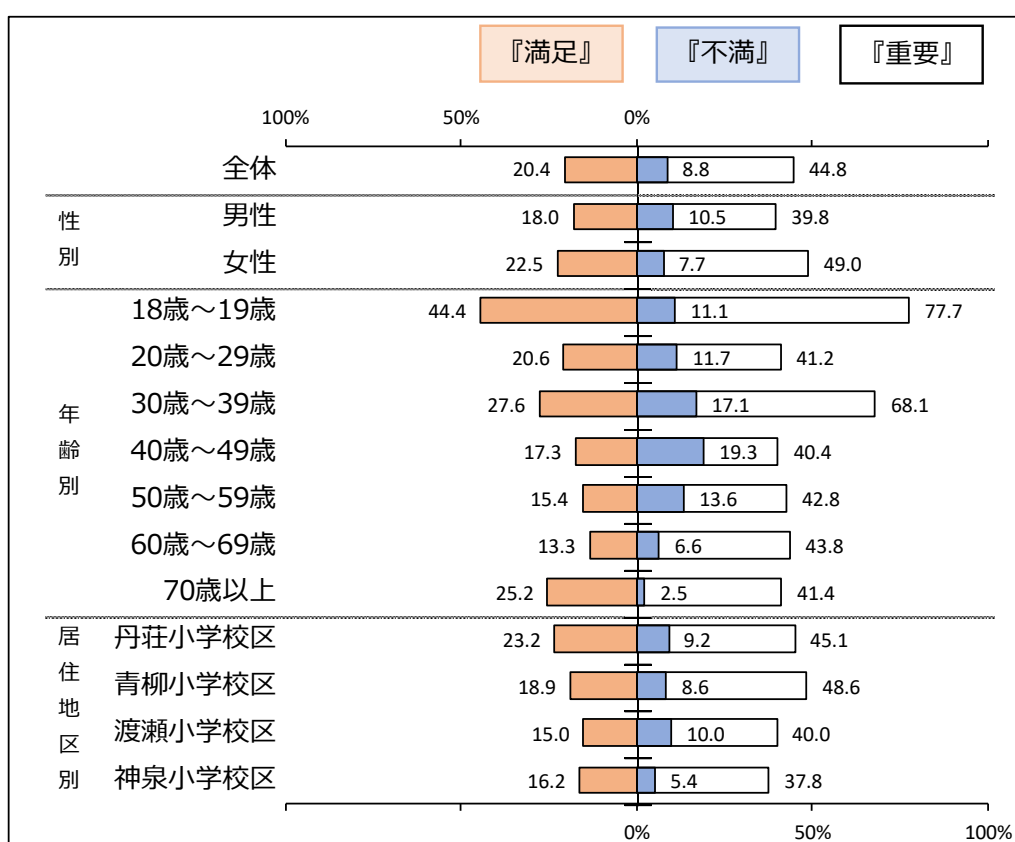
生涯学習環境は、『満足』(20.4%)が『不満』(8.8%)を大きく上回っています。

性別でみると、傾向は似ているものの、女性の『満足』(22.5%)が男性(18.0%)を上回っています。

年齢別でみると、30歳～39歳の『満足』(27.6%)が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、丹荘小学校区では『満足』(23.2%)が他の地区に比べて高くなっています。

生涯学習環境／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



④スポーツ振興

◆『満足』が『不満』を大きく上回る。

《満足度は比較的高いが、重要度は低い施策》

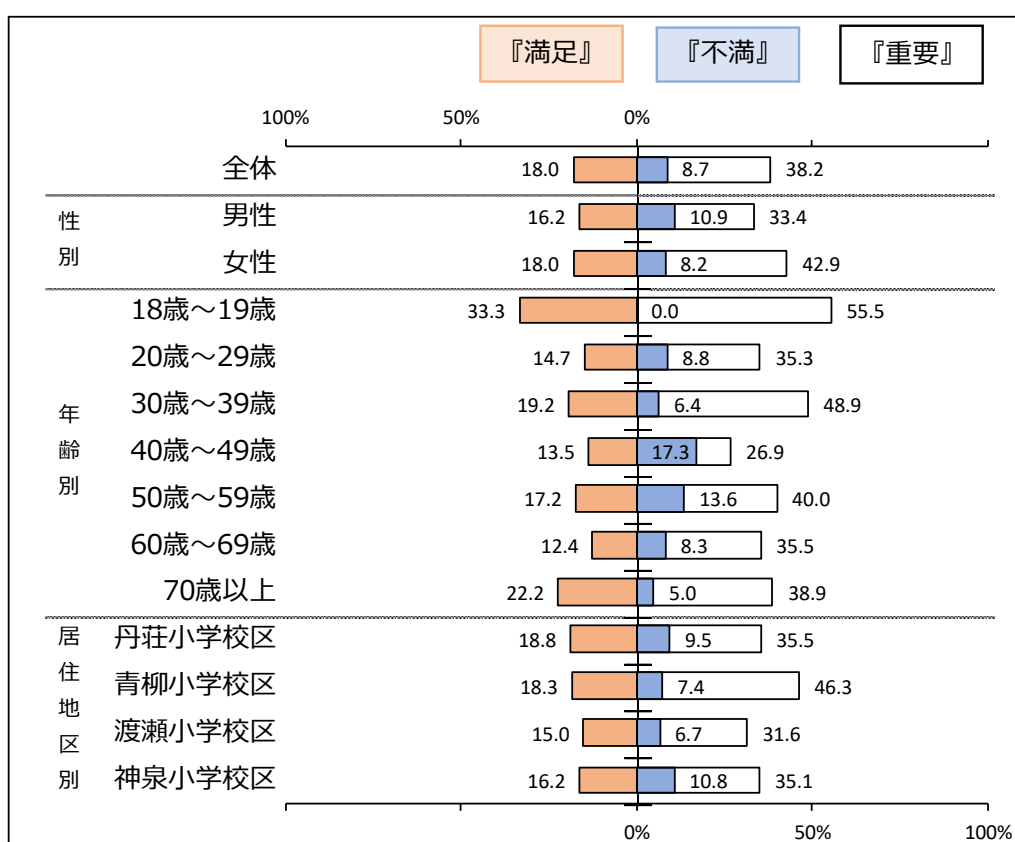
スポーツ振興は、『満足』(18.0%)が『不満』(8.7%)を上回っています。

性別でみると、大きな違いはみられません。

年齢別でみると、40歳～49歳の年齢層のみ『不満』(17.3%)が『満足』(13.5%)を上回っています。

居住地区別でみると、大きな違いはみられません。

スポーツ振興／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

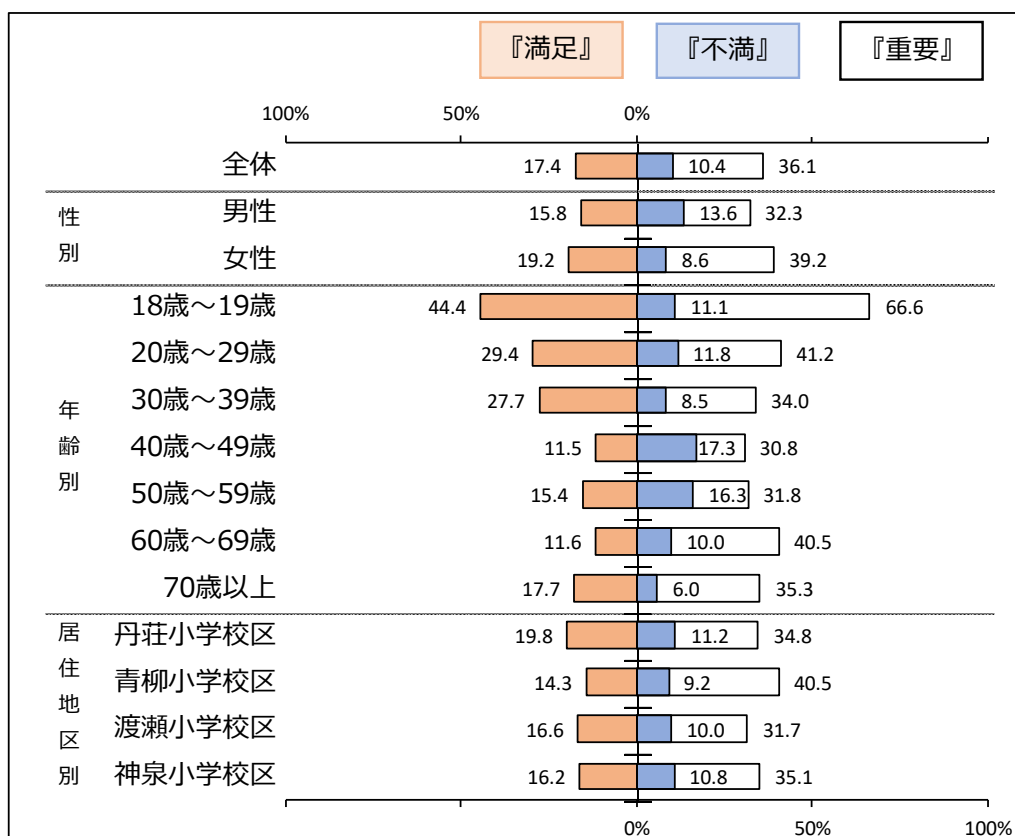
⑤歴史・文化の保全・活用

◆『満足』『重要』が教育・文化の中で最も低い。

《満足度は比較的高いが、重要度は低い施策》

歴史・文化の保全・活用は、『重要』（36.1%）が教育・文化の中で最も低くなっています。性別でみると、男性の『不満』（13.6%）が女性（8.6%）を上回っています。年齢別でみると、40歳以上の『満足』が40歳未満の年齢層に比べて比較的低くなっています。居住地区別でみると、各地域とも同様の傾向であり、大きな違いはみられません。

歴史・文化の保全・活用／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

(5) 行財政・まちづくり

行政・まちづくりの分野に属する項目は、他の分野にくらべて『重要』の割合が低くなっています。

①国際交流

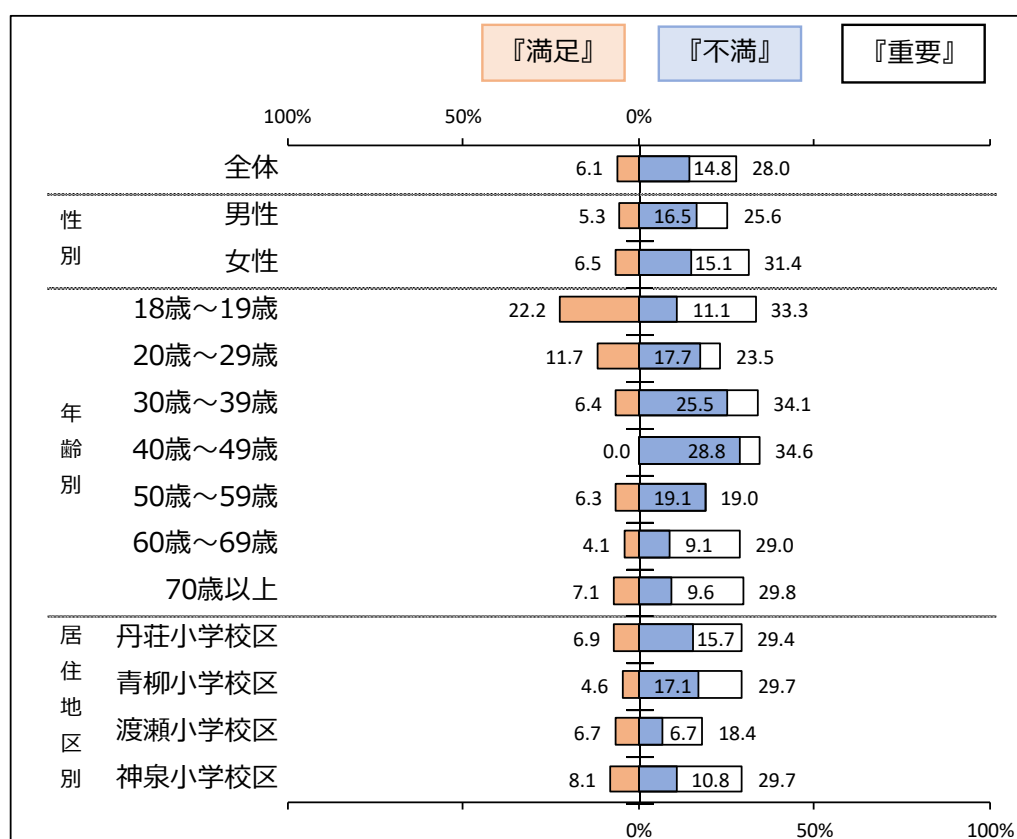
◆『重要』がすべての項目の中で最も低い。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

国際交流は、『重要』(28.0%)がすべての項目の中で最も低くなっています。『不満』(14.8%)が『満足』(6.1%)を上回っています。

性別でみると、『不満』、『満足』は全体と同様の傾向であり、大きな違いはみられません。年齢別でみると、18歳～19歳を除くすべての年齢層で、『不満』が『満足』を上回っています。居住地区別でみると、渡瀬小学校区では『不満』(6.7%)が他の地区に比べて低くなっています。

国際交流／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

②男女共同参画

◆『不満』が行政・まちづくりの中で最も低い。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

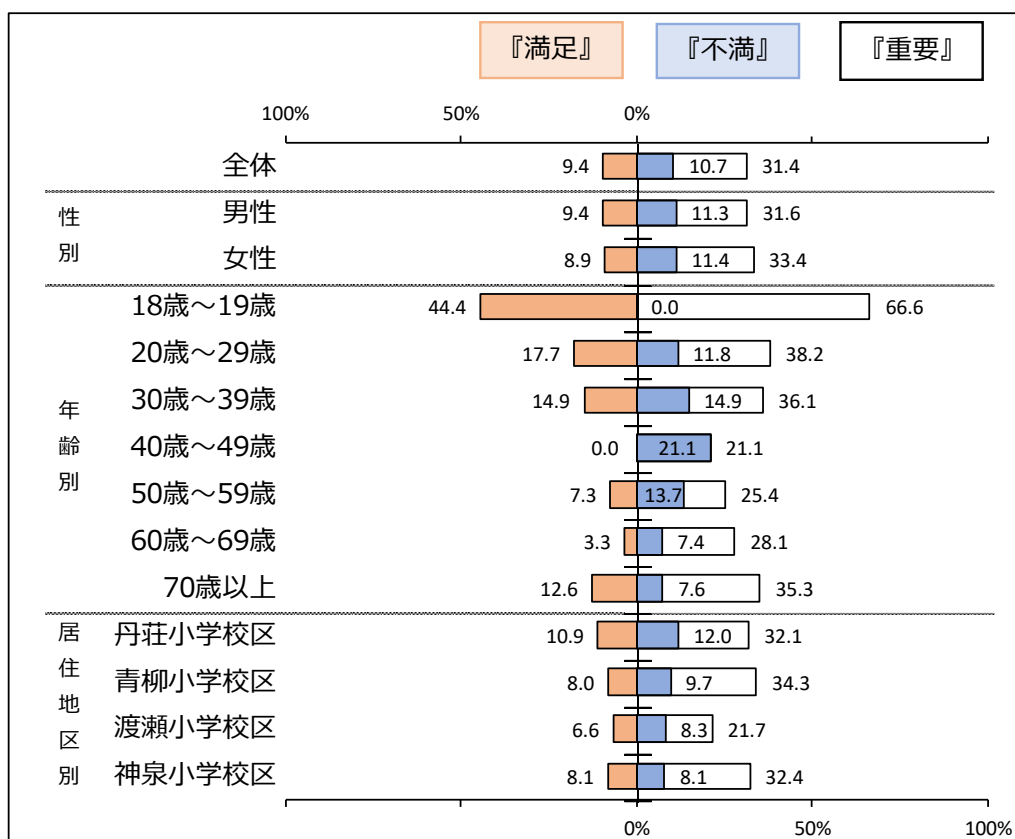
男女共同参画は、『不満』(10.7%)が行政・まちづくりの中で最も低くなっていますが、『不満』が『満足』(9.4%)を上回っています。

性別で見ると、男性、女性で大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、40歳～49歳で『不満』(21.1%)と『満足』(0.0%)との差が一番大きくなっています。

居住地区別で見ると、渡瀬小学校区では『重要』(21.7%)が他の地区に比べて比較的低くなっています。

男女共同参画／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



③地域のインターネット環境

◆『不満』が行政・まちづくりの中で最も高い。

《満足度・重要度ともに比較的低い施策》

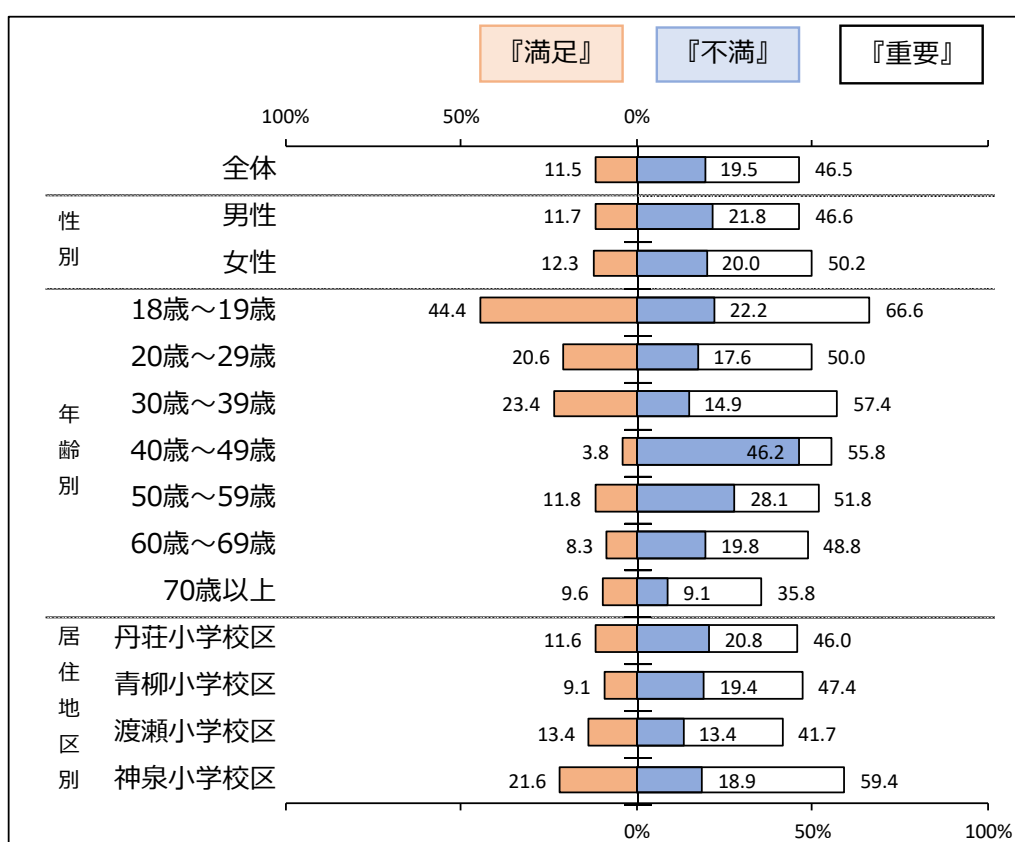
地域のインターネット環境は、『不満』(19.5%)が『満足』(11.5%)を上回っています。

性別でみると、男性、女性で大きな違いはみられません。

年齢別でみると、40歳～49歳では『不満』が他の年齢層に比べて高くなっています。

居住地区別でみると、神泉小学校区では『満足』(21.6%)、『重要』(59.4%)が他の地区に比べて比較的高くなっています。

地域のインターネット環境／全体、性別、年齢別、居住地区別(『満足』『不満』『重要』の比較)



※18歳～19歳は回答者数が少ないため、有意性は低い

④行財政運営

◆『重要』が行財政・まちづくりの中で最も高い。

《満足度は比較的低いが、重要度は高く、重点化が望まれる施策》

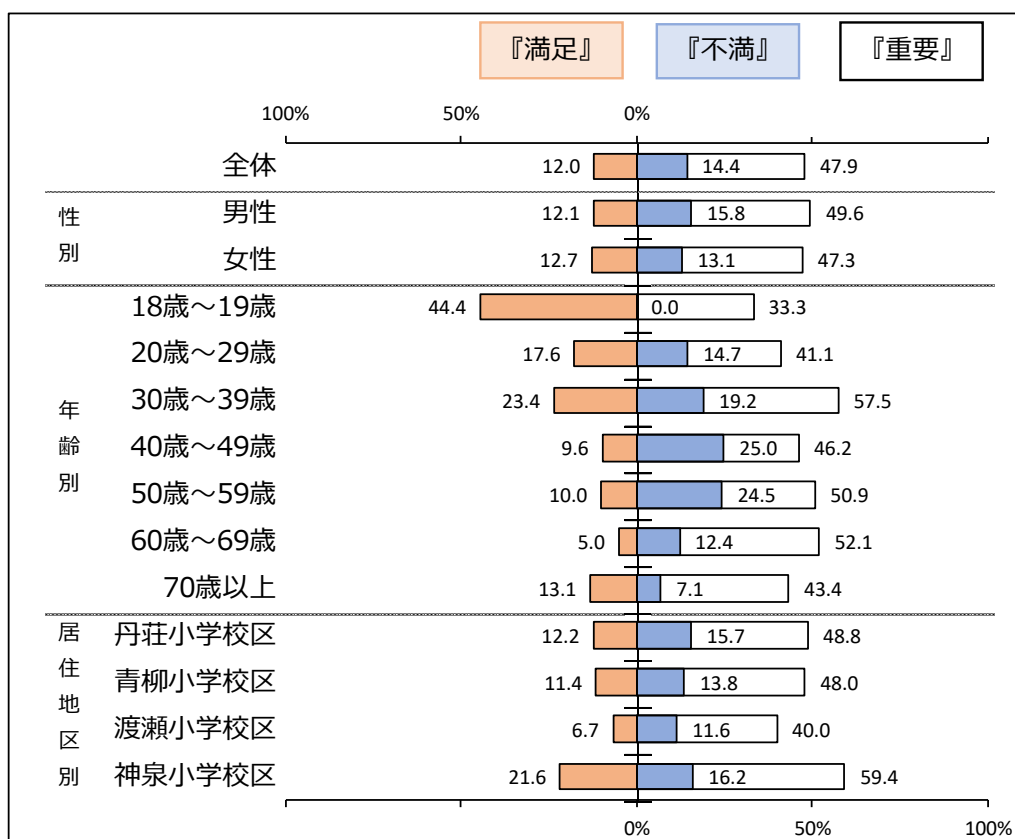
行財政運営は、行財政・まちづくりの中で『重要』（47.9%）が最も高く、『不満』（14.4%）が『満足』（12.0%）を上回っています。

性別でみると、男性、女性で大きな違いはみられません。

年齢別でみると、40歳以上70歳未満の年齢層では『不満』が『満足』を上回っています。

居住地区別でみると、神泉小学校区を除くすべての学区で『不満』が『満足』を上回っています。また、神泉小学校区の『満足』（21.6%）『不満』（16.2%）『重要』（59.4%）のすべてで他の地区を上回っています。

行財政運営／全体、性別、年齢別、居住地区別（『満足』『不満』『重要』の比較）



4 これからのまちづくりについて

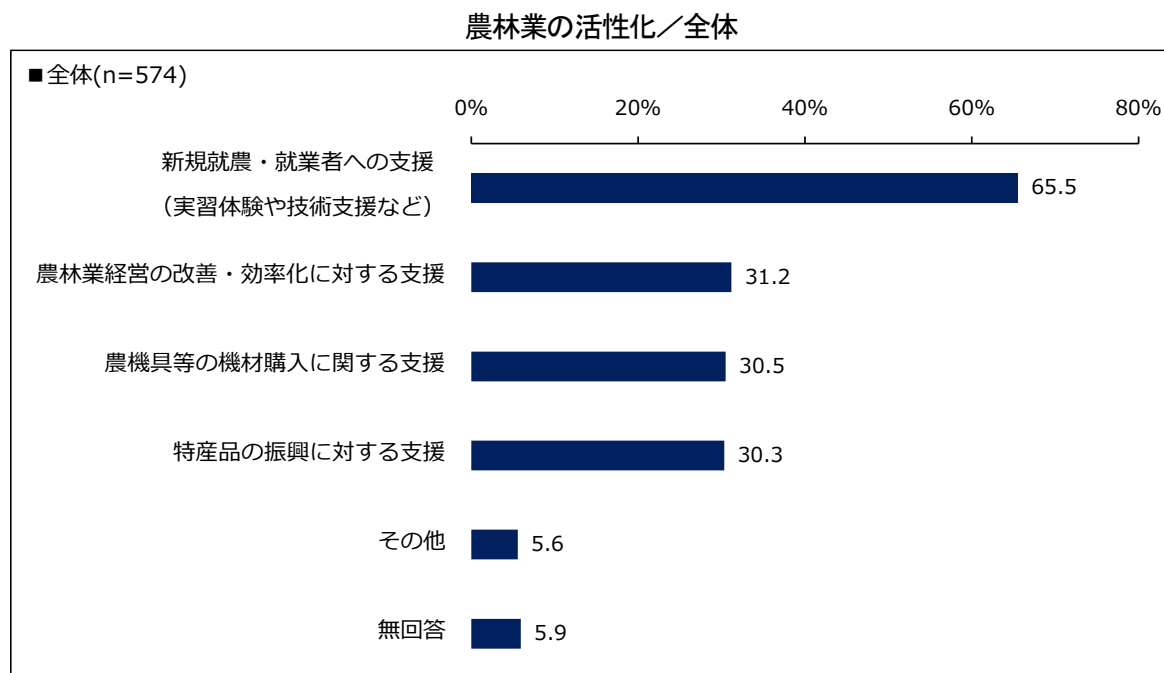
4-1 農林業・商工業に対する支援として力を入れるべきこと

(1) 農林業の活性化のために

問9. 神川町の農林業の活性化のために、何が必要だと思いますか。(2つまでに○)

◆「新規就農・就業者への支援」が65.5%で最も高い。

農林業活性化のために何が必要か尋ねたところ、「新規就農・就業者への支援」が65.5%で最も高くなっています。次いで、「農林業経営の改善・効率化に対する支援」(31.2%)、「農機具等の機材購入に関する支援」(30.5%)、「特産品の振興に対する支援」(30.3%)となっています。



全ての層で「新規就農・就業者への支援」が最も高くなっています。

年齢層別では、20歳～29歳が70.6%と最も高くなっています。その他の層については、特に大きな違いはみられません。

世帯別では、ひとり暮らし（66.7%）、夫婦（68.8%）、二世帯（65.7%）は、6割超となっています。

農林業の活性化／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標 本 数	新規就農・就業者への支援 （実習体験や技術支援など）	農林業経営の改善・ 効率化に対する支援	農機具等の機材 購入に関する支援	特産品の振興に 対する支援	その他	無 回 答
全 体		574	65.5	31.2	30.5	30.3	5.6	5.9
性 別	男	266	66.9	33.1	32.0	27.1	7.1	5.3
	女	245	66.5	30.2	29.8	32.2	4.9	4.5
年 齢 別	18歳～19歳	9	66.7	22.2	44.4	33.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	70.6	23.5	26.5	32.4	8.8	5.9
	30歳～39歳	47	63.8	38.3	31.9	31.9	4.3	4.3
	40歳～49歳	52	63.5	26.9	36.5	36.5	5.8	3.8
	50歳～59歳	110	65.5	37.3	30.9	21.8	8.2	2.7
	60歳～69歳	121	66.1	28.9	30.6	35.5	5.0	5.0
	70歳以上	198	65.2	30.8	27.8	29.8	4.0	9.6
世 帯 別	ひとり暮らし	66	66.7	21.2	30.3	28.8	12.1	6.1
	夫婦	199	68.8	32.7	28.6	32.2	3.5	5.0
	二世帯（親・子）	236	65.7	33.9	31.8	30.9	5.9	3.4
	三世帯（親・子・孫）	46	58.7	28.3	37.0	19.6	6.5	13.0
	その他	23	52.2	30.4	21.7	34.8	0.0	17.4
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	68.6	28.7	32.4	30.4	5.8	4.8
	青柳小学校区	175	63.4	36.0	28.0	30.3	4.0	6.9
	渡瀬小学校区	60	61.7	28.3	28.3	31.7	5.0	10.0
	神泉小学校区	37	64.9	35.1	29.7	32.4	8.1	0.0

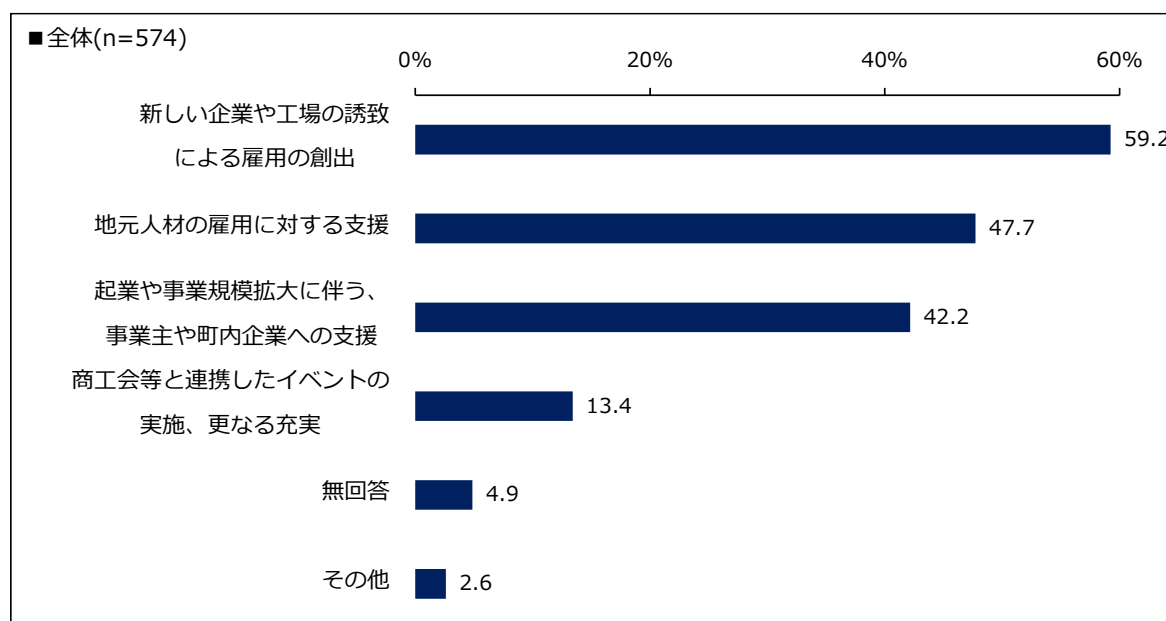
(2) 商工業の活性化のために

問10. 神川町の商工業の活性化のために、何が必要だと思いますか。(2つまでに○)

◆「新しい企業や工場の誘致による雇用の創出」が59.2%と最も高い。

商工業活性化のために何が必要か尋ねたところ、「新しい企業や工場の誘致による雇用の創出」が59.2%で最も高くなっています。次いで、「地元人材の雇用に対する支援」(47.7%)、「起業や事業規模拡大に伴う、事業主や町内企業への支援」(42.2%)、「商工会等と連携したイベントの実施、更なる充実」(13.4%)となっています。

商工業の活性化／全体



年齢別以外の全ての層で、全体同様「新しい企業や工場の誘致による雇用の創出」が最も多くなっています。

年齢層別では、30歳未満で「起業や事業規模拡大に伴う、事業主や町内企業への支援」が最も多くなっています。

商工業の活性化／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標 本 数	新 し い 企 業 や 工 場 の 誘 致 に よ る 雇 用 の 創 出	地 元 人 材 の 雇 用 に 対 す る 支 援	起 業 や 事 業 規 模 拡 大 に 伴 う 、 事 業 主 や 町 内 企 業 へ の 支 援	商 工 会 等 と 連 携 し た イ ベ ン ト の 実 施 、 更 な る 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体		574	59.2	47.7	42.2	13.4	2.6	4.9
性 別	男	266	61.3	49.2	39.1	11.7	4.1	4.9
	女	245	57.6	48.2	45.7	14.7	1.2	3.7
年 齢 別	18歳～19歳	9	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	47.1	38.2	55.9	20.6	0.0	2.9
	30歳～39歳	47	70.2	38.3	48.9	19.1	2.1	2.1
	40歳～49歳	52	51.9	38.5	46.2	19.2	1.9	3.8
	50歳～59歳	110	52.7	48.2	50.9	8.2	4.5	3.6
	60歳～69歳	121	66.1	52.1	33.9	13.2	3.3	4.1
	70歳以上	198	61.1	51.5	36.9	11.6	1.5	7.6
世 帯 別	ひとり暮らし	66	59.1	45.5	48.5	10.6	4.5	3.0
	夫婦	199	61.8	53.8	40.7	11.6	2.0	3.5
	二世帯（親・子）	236	59.3	46.6	45.3	14.0	3.0	3.4
	三世帯（親・子・孫）	46	56.5	34.8	37.0	13.0	2.2	10.9
	その他	23	52.2	47.8	17.4	26.1	0.0	17.4
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	60.8	46.8	42.0	15.4	3.1	4.1
	青柳小学校区	175	57.1	52.0	41.7	12.6	0.6	5.7
	渡瀬小学校区	60	56.7	46.7	38.3	8.3	5.0	10.0
	神泉小学校区	37	64.9	35.1	54.1	10.8	2.7	0.0

4-2 交流人口や移住・定住者の増加につなげるために、力を入れるべきこと

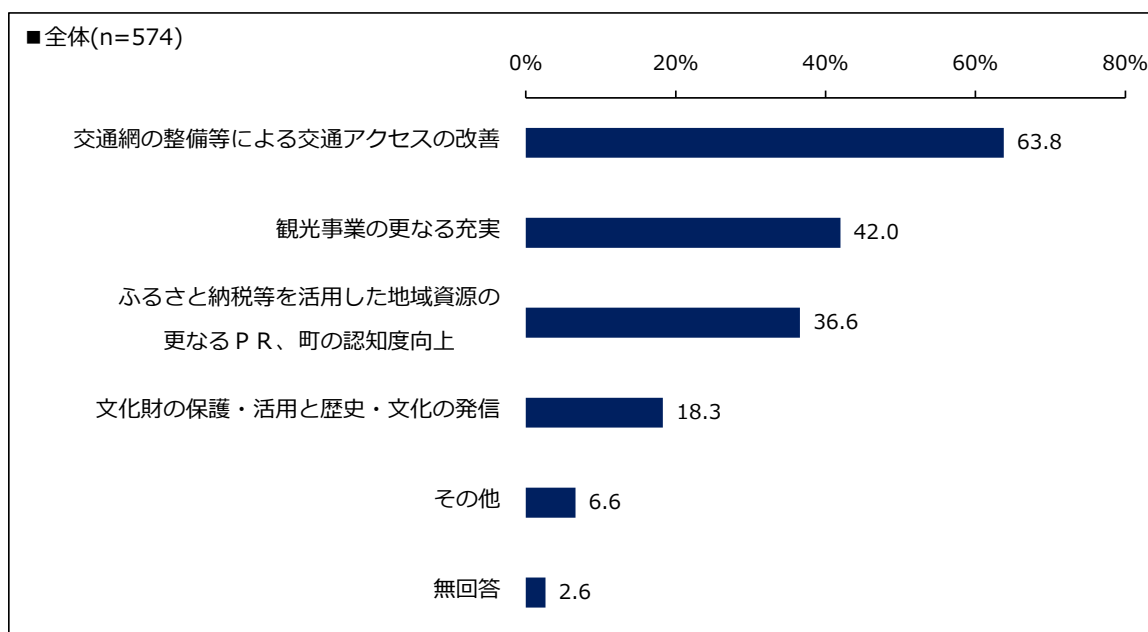
(1) 交流人口を増やすための取り組みについて

問11. 交流人口（神川町に訪れる人々）を増やすため、どのような取り組みが有効だと思いますか。（2つまでに○）

◆「交通網の整備等による交通アクセスの改善」が63.8%と最も高い。

交流人口を増やすための取り組みについて何が必要か尋ねたところ、「交通網の整備等による交通アクセスの改善」が63.8%で最も高くなっています。次いで、「観光事業の更なる充実」(42.0%)、「ふるさと納税等を活用した地域資源の更なるPR、町の認知度向上」(36.6%)、「文化財の保護・活用と歴史・文化の発信」(18.3%)となっています。

交流人口を増やすための取り組み／全体



全ての層で「交通網の整備等による交通アクセスの改善」が最も多くなっています。

また、年齢別では20歳～29歳、70歳以上、世帯別では二世帯、三世帯においては「ふるさと納税等を利用した地域資源の更なるPR、町の認知度向上」が二番目に多くなっています。

交流人口を増やすための取り組み／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標 本 数	交 通 網 の 整 備 等 に よ る 交 通 ア ク セ ス の 改 善	観 光 事 業 の 更 な る 充 実	ふ る さ と 納 税 等 を 活 用 し た 地 域 資 源 の 更 な る P R 、 町 の 認 知 度 向 上	文 化 財 の 保 護 ・ 活 用 と 歴 史 ・ 文 化 の 発 信	そ の 他	無 回 答
全 体		574	63.8	42.0	36.6	18.3	6.6	2.6
性 別	男	266	58.6	42.1	38.3	19.2	7.1	3.8
	女	245	69.4	42.4	35.5	18.0	6.1	1.2
年 齢 別	18歳～19歳	9	100.0	33.3	33.3	22.2	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	58.8	29.4	44.1	23.5	2.9	2.9
	30歳～39歳	47	78.7	48.9	34.0	14.9	4.3	2.1
	40歳～49歳	52	71.2	40.4	38.5	9.6	7.7	3.8
	50歳～59歳	110	66.4	46.4	31.8	14.5	12.7	0.0
	60歳～69歳	121	57.9	53.7	33.1	18.2	6.6	0.8
	70歳以上	198	59.6	34.3	39.9	22.7	4.5	5.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	59.1	34.8	31.8	27.3	12.1	0.0
	夫婦	199	61.8	46.7	30.2	20.1	5.0	3.5
	二世帯（親・子）	236	67.8	41.9	42.4	15.7	7.6	0.0
	三世帯（親・子・孫）	46	60.9	34.8	45.7	15.2	4.3	6.5
	その他	23	65.2	39.1	30.4	13.0	0.0	13.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	61.1	43.7	39.9	18.8	7.2	1.7
	青柳小学校区	175	68.0	38.9	34.9	18.9	5.1	3.4
	渡瀬小学校区	60	66.7	43.3	26.7	15.0	6.7	5.0
	神泉小学校区	37	59.5	43.2	37.8	18.9	8.1	0.0

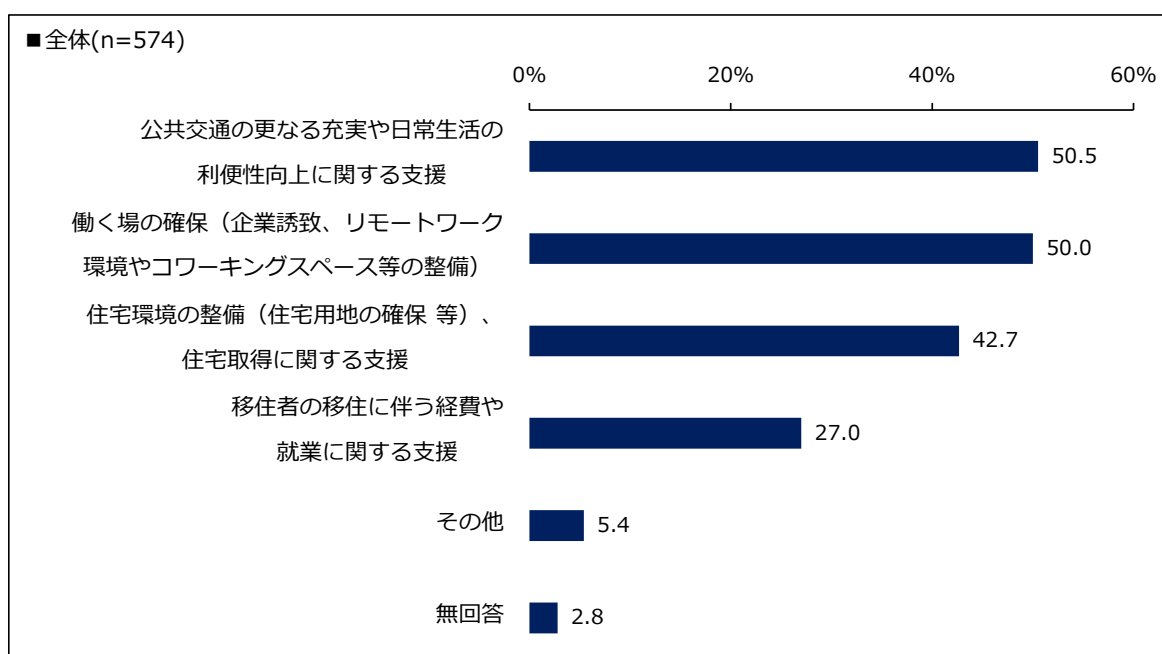
(2) 移住者に選ばれるまち、町民が住み続けたいと思えるまち

問12. 「移住者に選ばれ、町民からは住み続けたいと思えるまち」となるため、どのような取り組みが有効だと思いますか。(2つまでに○)

◆「公共交通の更なる充実や日常生活の利便性向上に関する支援」(50.5%)、「働く場の確保」(50.0%)が上位。

移住者に選ばれ、町民からは住み続けたいと思えるまちとなるために何が必要か尋ねたところ、「公共交通の更なる充実や日常生活の利便性向上に関する支援」(50.5%)、「働く場の確保」(50.0%)が5割超となっています。次いで「住宅取得に関する支援」(42.7%)、「移住者の移住に伴う経費や就業に関する支援」(27.0%)となっています。

移住者に選ばれ、町民からは住み続けたいと思えるまちとなるため／全体



性別でみると、男性が「住宅環境の整備（住宅用地の確保等）、住宅取得に関する支援」（47.7%）が最も多いのに対し、女性は「公共交通の更なる充実や日常生活の利便性向上に関する支援」（57.6%）が最も多くなっています。

年齢別、世帯別、居住地区別のほとんどの層で「公共交通の更なる充実や日常生活の利便性向上に関する支援」、「働く職場の確保（企業誘致、リモートワーク環境やコワーキングスペース等の整備）」が全体同様上位となっています。

移住者に選ばれ、町民からは住み続けたいと思えるまちとなるため
／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標 本 数	公 共 交 通 の 更 な る 充 実 や 日 常 生 活 の 利 便 性 向 上 に 関 する 支 援	コ ワ ー キ ン グ ス ペ ー ス 等 の 整 備 （ 勤 く 場 の 確 保 、 リ モ ー ト ワ ー ク 環 境 や 企 業 誘 致 、 等 の 整 備 ）	住 宅 取 得 に 関 する 支 援 （ 住 宅 用 地 の 確 保 等 ）	移 住 者 の 移 住 に 伴 う 経 費 や 就 業 に 関 する 支 援	そ の 他	無 回 答
全 体		574	50.5	50.0	42.7	27.0	5.4	2.8
性 別	男	266	43.6	46.6	47.7	30.5	5.6	3.4
	女	245	57.6	52.2	39.6	24.1	6.1	1.6
年 齢 別	18歳～19歳	9	88.9	44.4	44.4	0.0	11.1	0.0
	20歳～29歳	34	64.7	38.2	50.0	17.6	8.8	0.0
	30歳～39歳	47	63.8	34.0	59.6	21.3	4.3	2.1
	40歳～49歳	52	63.5	46.2	34.6	26.9	5.8	3.8
	50歳～59歳	110	56.4	53.6	45.5	16.4	6.4	0.0
	60歳～69歳	121	45.5	54.5	45.5	28.9	4.1	0.8
	70歳以上	198	40.4	52.5	36.4	35.9	4.5	6.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	50.0	54.5	42.4	31.8	4.5	0.0
	夫婦	199	46.2	51.8	41.7	28.1	5.0	2.5
	二世帯（親・子）	236	56.8	47.5	46.2	22.0	7.6	0.4
	三世帯（親・子・孫）	46	43.5	56.5	39.1	32.6	0.0	8.7
	その他	23	39.1	43.5	26.1	43.5	0.0	17.4
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	49.1	50.9	43.3	26.6	7.2	2.7
	青柳小学校区	175	54.9	48.0	41.1	26.9	2.3	2.9
	渡瀬小学校区	60	53.3	48.3	43.3	20.0	1.7	5.0
	神泉小学校区	37	37.8	54.1	45.9	40.5	10.8	0.0

4-3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、力をいれるべきこと

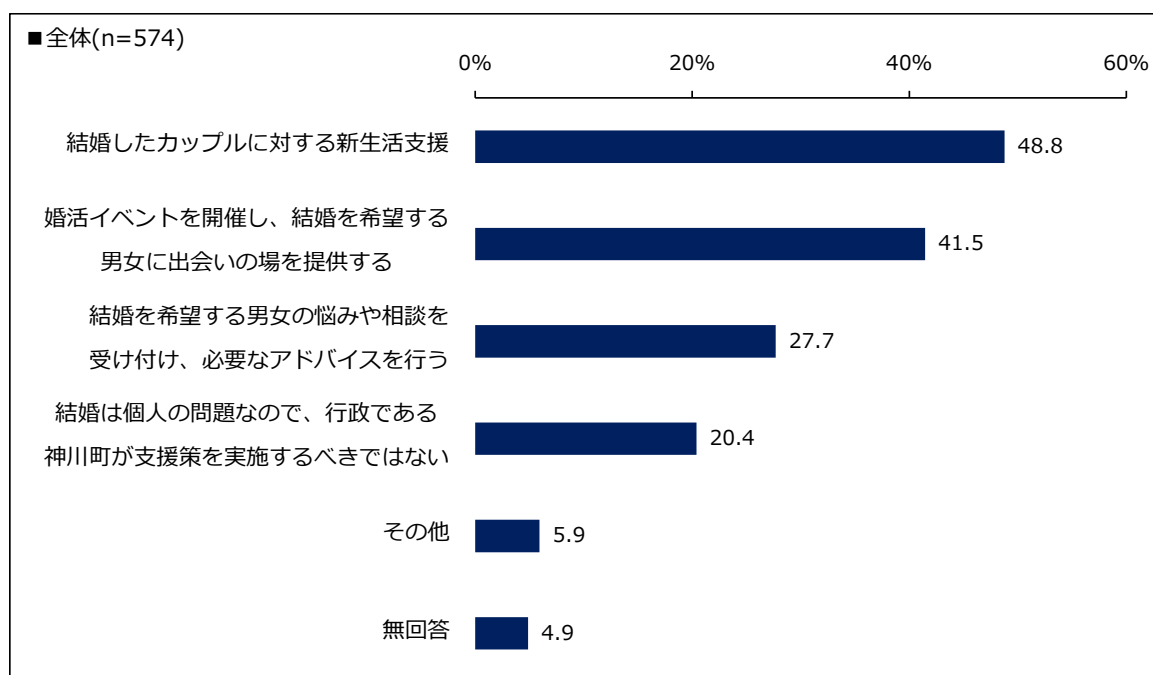
(1) 町が行う結婚支援について

問13. 町が行う結婚支援について、どのような取り組みが有効だと思いますか。（2つまでに○）

◆「結婚したカップルに対する新生活支援」が48.8%で最も高い。

町が行う結婚支援の取り組みについて尋ねたところ、「結婚したカップルに対する新生活支援」が48.8%で最も高く、これに「婚活イベントを開催し、結婚を希望する男女に出会いの場を提供する」(41.5%)、「結婚を希望する男女の悩みや相談を受け付け、必要なアドバイスを行う」(27.7%)となっています。一方、「結婚は個人の問題なので、行政である神川町が支援策を実施するべきではない」は20.4%となっています。

町が行う結婚支援について／全体



ほとんどの層で全体と同様の傾向ではありますが、年齢別の60歳～69歳、世帯別のひとり暮らしの層では、「婚活イベントを開催し、結婚を希望する男女に出会いの場を提供する」がそれぞれ50.4%、60.6%と最も多くなっています。

一方、「結婚は個人の問題なので、行政である神川町が支援策を実施するべきではない」は、年齢別の40歳～49歳の層で36.5%と他の層よりやや多くなっています。

町が行う結婚支援について／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標 本 数	結 婚 し た カ ッ プ ル に 対 す る 新 生 活 支 援	出 会 い の 場 を 提 供 す る	婚 活 イ ベ ン ト を 開 催 し、 結 婚 を 希 望 す る 男 女 に	必 要 な ア ド バ イ ス を 行 う	結 婚 を 希 望 す る 男 女 の 悩 み や 相 談 を 受 け 付 け、 必 要 な ア ド バ イ ス を 行 う	結 婚 は 個 人 の 問 題 な の で、 行 政 で あ る 神 川 町 が 支 援 策 を 実 施 す る べ き で は な い	そ の 他	無 回 答
全 体		574	48.8	41.5	27.7	20.4	5.9	4.9		
性 別	男	266	53.4	42.9	30.8	16.5	6.0	4.5		
	女	245	44.9	40.4	25.3	25.7	5.3	3.7		
年 齢 別	18歳～19歳	9	55.6	22.2	22.2	22.2	0.0	11.1		
	20歳～29歳	34	70.6	23.5	11.8	23.5	0.0	5.9		
	30歳～39歳	47	61.7	38.3	17.0	19.1	6.4	4.3		
	40歳～49歳	52	48.1	34.6	13.5	36.5	5.8	3.8		
	50歳～59歳	110	40.9	39.1	26.4	22.7	12.7	0.9		
	60歳～69歳	121	49.6	50.4	27.3	21.5	5.0	0.8		
	70歳以上	198	46.0	43.9	38.4	13.6	3.5	9.6		
世 帯 別	ひとり暮らし	66	40.9	60.6	43.9	7.6	12.1	3.0		
	夫婦	199	48.2	43.2	30.2	17.6	4.0	5.5		
	二世帯（親・子）	236	52.5	36.0	21.6	25.8	7.2	3.4		
	三世帯（親・子・孫）	46	52.2	41.3	26.1	19.6	2.2	6.5		
	その他	23	39.1	30.4	30.4	17.4	0.0	17.4		
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	45.4	42.3	27.6	20.8	5.8	4.8		
	青柳小学校区	175	52.0	41.7	28.6	18.3	6.9	5.7		
	渡瀬小学校区	60	50.0	38.3	20.0	30.0	3.3	3.3		
	神泉小学校区	37	56.8	40.5	40.5	13.5	5.4	0.0		

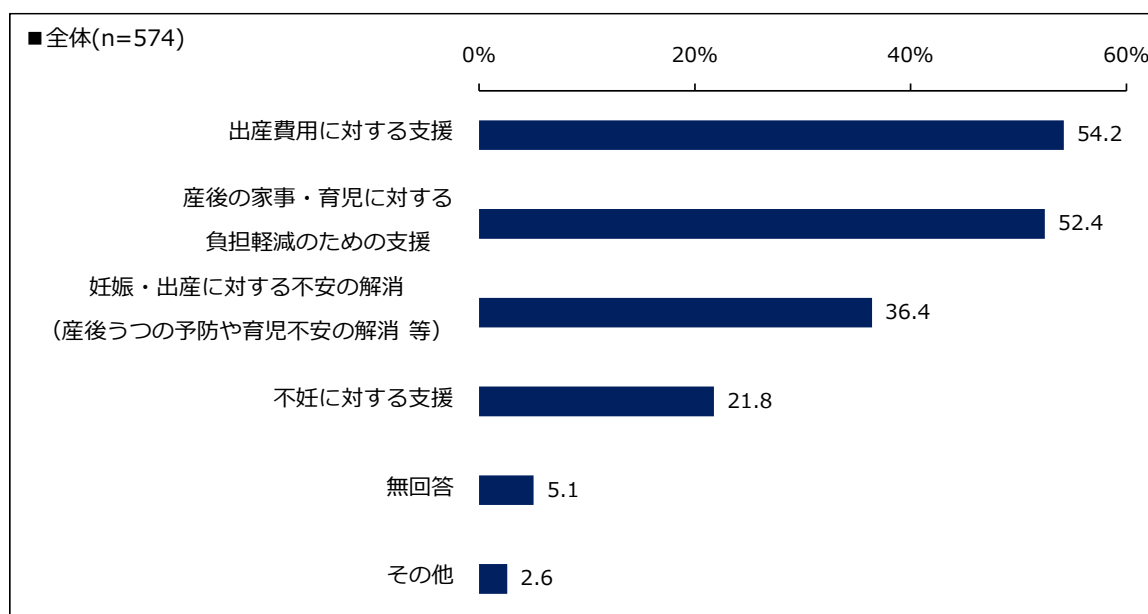
(2) 町が行う妊娠から出産への支援について

問14. 町が行う妊娠から出産への支援として、どのような取り組みが有効だと思いますか。(2つまでに○)

◆「出産費用に対する支援」(54.2%)、産後の家事・育児に対する負担軽減のための支援」(52.4%)が5割超で上位。

町が行う妊娠から出産への支援の取り組みについて尋ねたところ、「出産費用に対する支援」(54.2%)、「産後の家事・育児に対する負担軽減のための支援」(52.4%)がともに5割を超えて上位となっています。次いで、「妊娠・出産に対する不安解消」(36.4%)、「不妊に対する支援」(21.8%)となっています。

町が行う妊娠から出産への支援について／全体



すべての層で、「出産費用に対する支援」、「産後の家事・育児に対する負担軽減のための支援」が、全体と同様上位に入っています。

また、サンプル数は少ないものの、年齢別の18歳～19歳では「妊娠・出産に対する不安の解消」が55.6%と他の層に比べて大きくなっています。

町が行う妊娠から出産への支援について／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標本数	出産費用に対する支援	産後の家事・育児に対する負担軽減のための支援	妊娠・出産に対する不安の解消（産後うつへの予防や育児不安の解消等）	不妊に対する支援	その他	無回答
全 体		574	54.2	52.4	36.4	21.8	2.6	5.1
性別	男	266	60.5	50.4	36.8	18.4	1.5	6.0
	女	245	47.8	54.3	39.2	25.7	4.1	2.9
年齢別	18歳～19歳	9	44.4	66.7	55.6	33.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	70.6	61.8	29.4	20.6	5.9	0.0
	30歳～39歳	47	70.2	63.8	23.4	21.3	2.1	4.3
	40歳～49歳	52	50.0	59.6	32.7	19.2	1.9	3.8
	50歳～59歳	110	52.7	50.9	31.8	28.2	3.6	4.5
	60歳～69歳	121	55.4	52.1	39.7	23.1	2.5	0.8
	70歳以上	198	49.5	46.0	41.9	17.7	2.0	9.6
世帯別	ひとり暮らし	66	48.5	48.5	43.9	33.3	4.5	1.5
	夫婦	199	52.3	53.8	41.2	18.6	1.5	3.5
	二世帯（親・子）	236	56.8	53.4	32.6	22.9	3.8	3.8
	三世帯（親・子・孫）	46	60.9	54.3	28.3	15.2	0.0	13.0
	その他	23	47.8	43.5	34.8	17.4	0.0	17.4
居住地区別	丹荘小学校区	293	56.0	53.2	37.5	21.2	2.7	4.4
	青柳小学校区	175	51.4	49.7	36.6	22.9	2.9	6.9
	渡瀬小学校区	60	53.3	60.0	31.7	18.3	0.0	6.7
	神泉小学校区	37	59.5	43.2	37.8	29.7	2.7	0.0

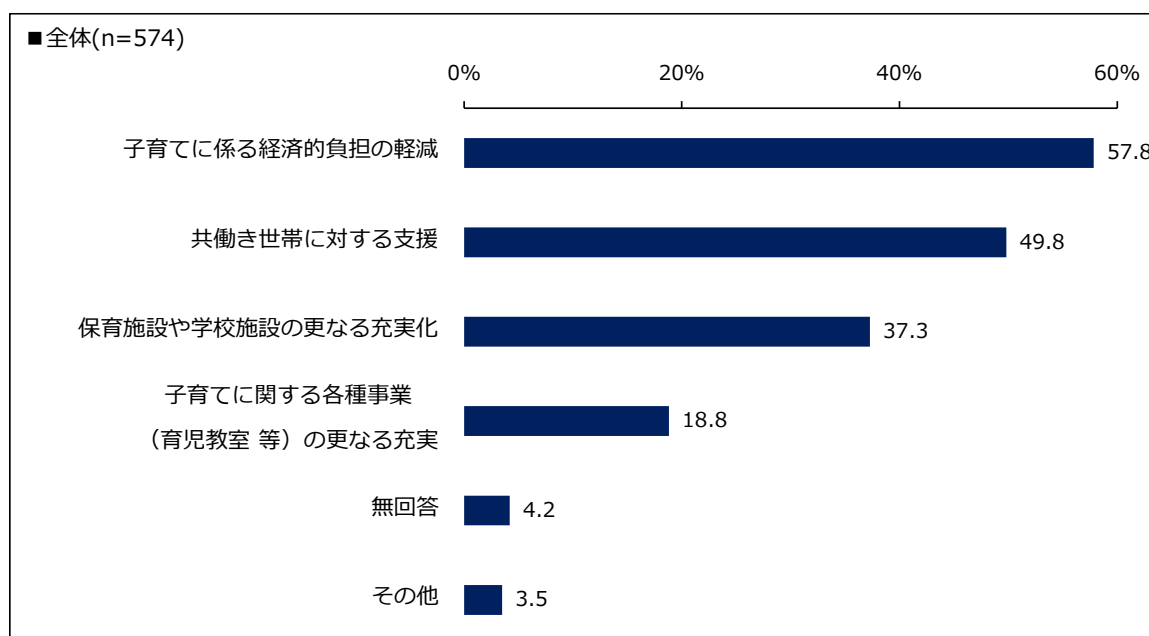
(3) 町が行う子育て支援について

問15. 町が行う子育て支援として、どのような取り組みが有効だと思いますか。（2つまでに○）

◆「子育てに係る経済的負担の軽減」が57.8%で最も多い。

町が行う子育て支援の取り組みについて尋ねたところ、「子育てに係る経済的負担の軽減」が57.8%で最も多く、これに「共働き世帯に対する支援」（49.8%）、「保育施設や学校施設の更なる充実化」（37.3%）、「子育てに関する各種事業（育児教室等）の更なる充実（18.8%）」となっています。

町が行う子育て支援について／全体



性別で見ると、「子育てに係る経済的負担の軽減」では、男性（62.8%）が女性（53.9%）を8.9ポイント上回っています。一方、「保育施設や学校施設の更なる充実化」では、女性（43.3%）が男性（33.5%）を9.8ポイント上回っています。

年齢別では、「子育てに係る経済的負担の軽減」について、年齢が若くなるにつれて、その割合が多なる傾向がみられます。

世帯別では、二世帯がほかの世帯に比べ「子育てに係る経済的負担の軽減」の割合が多くなっています。

町が行う子育て支援について／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標 本 数	子 育 て に 係 る 経 済 的 負 担 の 軽 減	共 働 き 世 帯 に 対 す る 支 援	保 育 施 設 や 学 校 施 設 の 更 な る 充 実 化	（育 児 教 室 等） の 更 な る 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体		574	57.8	49.8	37.3	18.8	3.5	4.2
性 別	男	266	62.8	50.8	33.5	18.4	3.0	4.5
	女	245	53.9	49.8	43.3	18.8	3.7	2.9
年 齢 別	18歳～19歳	9	66.7	88.9	33.3	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	70.6	52.9	23.5	17.6	2.9	2.9
	30歳～39歳	47	70.2	63.8	29.8	12.8	2.1	2.1
	40歳～49歳	52	67.3	50.0	32.7	7.7	1.9	3.8
	50歳～59歳	110	55.5	52.7	36.4	18.2	6.4	2.7
	60歳～69歳	121	59.5	48.8	39.7	18.2	3.3	2.5
	70歳以上	198	50.5	42.4	41.9	25.3	3.0	7.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	54.5	45.5	42.4	24.2	4.5	3.0
	夫婦	199	52.8	46.7	41.2	25.1	3.0	3.0
	二世帯（親・子）	236	64.4	55.5	32.2	12.7	4.2	2.5
	三世帯（親・子・孫）	46	56.5	50.0	39.1	19.6	2.2	8.7
	その他	23	52.2	34.8	39.1	8.7	0.0	21.7
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	57.0	50.9	37.5	18.4	3.8	3.4
	青柳小学校区	175	59.4	50.3	34.9	20.6	3.4	4.0
	渡瀬小学校区	60	55.0	48.3	38.3	18.3	1.7	8.3
	神泉小学校区	37	62.2	43.2	45.9	16.2	2.7	2.7

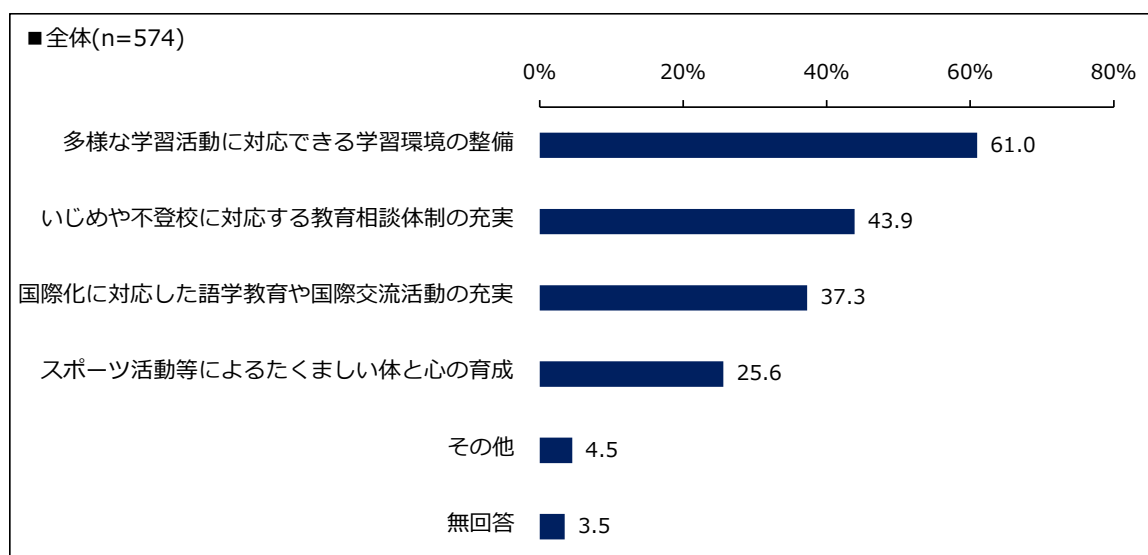
(4) 未来を担う子どもたちに対する教育のあり方について

問16. 未来を担う子どもたちに対する教育のありかたとして重要なことは何だと思いますか。(2つまでに○)

◆「多様な学習活動に対応できる学習環境の整備」が6割を超えトップ。

未来を担う子どもたちに対する教育のありかたについて尋ねたところ、「多様な学習活動に対応できる学習環境の整備」が61.0%で最も多く、これに「いじめや不登校に対応する教育相談体制の充実」(43.9%)、国際化に対応した語学教育や国際交流活動の充実」(37.3%)、「スポーツ活動等によるたくましい体と心の育成」(25.6%)となっています。

未来を担う子どもたちに対する教育のありかたについて／全体



年齢別では、18歳～19歳の「スポーツ活動等によるたくましい体と心の育成」(66.7%)が最も多くなっているものの、他の層はほぼ同じ傾向となっています。

居住地区別では、神泉小学校区の「多様な学習活動に対応できる学習環境の整備」(73.0%)が他の層に比べて、10ポイント程度上回っています。

未来を担う子どもたちに対する教育のありかたについて

／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標本数	多様な学習活動に対応できる学習環境の整備	いじめや不登校に対応する教育相談体制の充実	国際化に対応した語学教育や国際交流活動の充実	スポーツ活動等によるたくましい体と心の育成	その他	無回答
全 体		574	61.0	43.9	37.3	25.6	4.5	3.5
性別	男	266	63.9	42.9	34.6	24.1	6.4	3.8
	女	245	58.8	48.6	37.6	28.2	3.3	2.9
年齢別	18歳～19歳	9	44.4	44.4	22.2	66.7	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	64.7	47.1	23.5	38.2	2.9	0.0
	30歳～39歳	47	66.0	46.8	25.5	36.2	4.3	2.1
	40歳～49歳	52	50.0	46.2	50.0	19.2	1.9	3.8
	50歳～59歳	110	65.5	42.7	35.5	19.1	10.0	1.8
	60歳～69歳	121	61.2	48.8	39.7	20.7	3.3	2.5
	70歳以上	198	60.6	39.4	39.4	27.8	3.0	6.1
世帯別	ひとり暮らし	66	62.1	34.8	45.5	22.7	13.6	1.5
	夫婦	199	60.8	47.7	35.7	29.6	2.5	2.5
	二世帯（親・子）	236	62.7	42.4	39.8	24.6	4.7	1.3
	三世帯（親・子・孫）	46	65.2	41.3	28.3	26.1	2.2	8.7
	その他	23	43.5	56.5	26.1	8.7	0.0	21.7
居住地区別	丹荘小学校区	293	59.4	45.4	38.9	25.3	3.8	3.1
	青柳小学校区	175	64.0	40.6	33.7	30.9	4.6	4.0
	渡瀬小学校区	60	53.3	46.7	33.3	25.0	6.7	5.0
	神泉小学校区	37	73.0	43.2	51.4	8.1	5.4	0.0

4-4 安心・安全で住みやすい地域づくりのために、力をいれるべきこと

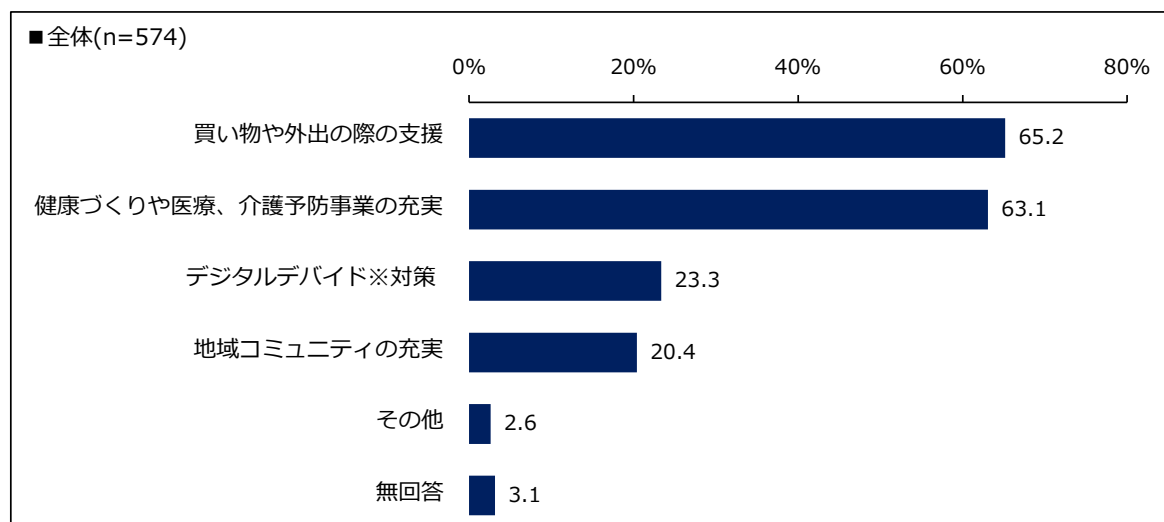
(1) 高齢者が安心して暮らせるためには

問17. 高齢者の方が住み慣れた場所で安心して暮らせるためには、何が重要だと思いますか。(2つまでに○)

◆「買い物や外出の際の支援」(65.2%)、「健康づくりや医療、介護予防事業の充実」(63.1%)が上位。

高齢者が安心して暮らせるために重要なことについて尋ねたところ、「買い物や外出の際の支援」(65.2%)、「健康づくりや医療、介護予防事業の充実」(63.1%)がともに6割を超え上位となっています。

高齢者が安心して暮らせるために重要なこと／全体



性別で見ると、「買い物や外出の際の支援」は女性（70.6%）が男性（59.0%）を 11.6 ポイント上回っていますが、「健康づくりや医療、介護予防事業の充実」は男性（65.4%）が女性（60.8%）を 4.6 ポイント上回っています。

年齢別でみると、70 歳以上では、「健康づくりや医療、介護予防事業の充実」が 70.7%で、他の年齢層と比べて最も多いのに対し、「買い物や外出の際の支援」は 53.0%で、他の年齢層と比べて最も少なくなっています。

世帯別では、二世帯では「買い物や外出の際の支援」（71.2%）が最も多くなっているのに対し、他の世帯層では「健康づくりや医療、介護予防事業の充実」が最も多くなっています。

高齢者が安心して暮らせるために重要なこと ／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標 本 数	買 い 物 や 外 出 の 際 の 支 援	介 護 予 づ く り や 医 療 の 充 実	デ ジ タ ル デ バ イ ド ※ 対 策	地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ の 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体		574	65.2	63.1	23.3	20.4	2.6	3.1
性 別	男	266	59.0	65.4	21.4	22.9	3.0	3.8
	女	245	70.6	60.8	24.9	18.8	2.4	2.9
年 齢 別	18歳～19歳	9	88.9	44.4	33.3	11.1	11.1	0.0
	20歳～29歳	34	73.5	61.8	17.6	20.6	0.0	0.0
	30歳～39歳	47	74.5	59.6	19.1	19.1	4.3	2.1
	40歳～49歳	52	65.4	53.8	28.8	11.5	3.8	3.8
	50歳～59歳	110	72.7	54.5	23.6	24.5	3.6	0.0
	60歳～69歳	121	69.4	66.1	24.0	19.8	4.1	1.7
	70歳以上	198	53.0	70.7	23.2	21.7	0.5	6.6
世 帯 別	ひとり暮らし	66	59.1	60.6	28.8	19.7	4.5	6.1
	夫婦	199	65.3	66.8	21.6	18.6	2.5	3.0
	二世帯（親・子）	236	71.2	59.7	22.9	22.0	1.7	0.8
	三世帯（親・子・孫）	46	52.2	65.2	30.4	13.0	4.3	10.9
	その他	23	47.8	69.6	17.4	34.8	0.0	4.3
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	64.2	63.1	25.6	19.1	2.0	2.7
	青柳小学校区	175	66.9	62.3	21.7	22.3	3.4	2.9
	渡瀬小学校区	60	70.0	68.3	18.3	16.7	3.3	3.3
	神泉小学校区	37	67.6	56.8	18.9	29.7	2.7	5.4

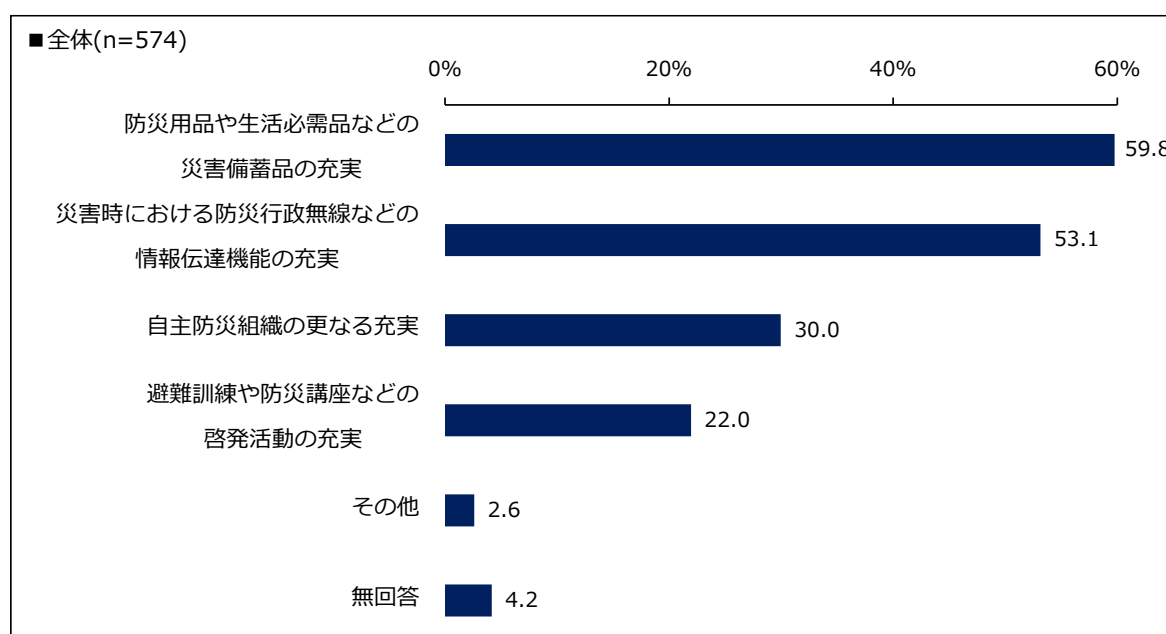
（２）防災に対する取り組みについて

問18. 安心安全な地域づくりのため、防災に対する取り組みとして、何が重要だと思いますか。（２つまでに○）

◆「防災用品や生活必需品などの災害備蓄品の充実」が59.8%で最も多い。

防災に対する取り組みとして重要なことについて尋ねたところ、「防災用品や生活必需品などの災害備蓄品の充実」が59.8%と最も多く、次いで「災害時における防災行政無線などの情報伝達機能の充実」（53.1%）となっています。

防災に対する取り組みとして重要なこと／全体



年齢別にみると、70歳以上では他の年齢層に比べて、「防災用品や生活必需品などの災害備蓄品の充実」(49.5%)が少なくなっており、逆に「自主防災組織の更なる充実」(36.4%)、「避難訓練や防災訓練などの啓発活動の充実」(25.8%)が比較的多くなっています。

世帯別では、ひとり暮らしが、「災害時における防災行政無線などの情報伝達機能の充実」(65.2%)がもっとも多く、他の世帯と比べても多くなっています。

居住地区別にみると、渡瀬小学区は「災害時における防災行政無線などの情報伝達機能の充実」(63.3%)がもっとも多く、他の居住地区と比べても多くなっています。

防災に対する取り組みとして重要なこと ／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：%)

		標本数	防災用品や生活必需品などの災害備蓄品の充実	災害時における防災行政無線などの情報伝達機能の充実	自主防災組織の更なる充実	避難訓練や防災講座などの啓発活動の充実	その他	無回答
全 体		574	59.8	53.1	30.0	22.0	2.6	4.2
性 別	男	266	55.3	51.9	31.2	25.6	3.4	4.5
	女	245	63.7	56.3	27.8	19.6	2.0	2.4
年 齢 別	18歳～19歳	9	88.9	77.8	11.1	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	73.5	47.1	17.6	23.5	2.9	2.9
	30歳～39歳	47	66.0	63.8	34.0	8.5	2.1	4.3
	40歳～49歳	52	75.0	46.2	25.0	11.5	3.8	3.8
	50歳～59歳	110	59.1	56.4	25.5	20.9	4.5	0.9
	60歳～69歳	121	62.8	53.7	28.9	27.3	1.7	1.7
	70歳以上	198	49.5	51.0	36.4	25.8	1.5	8.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	56.1	65.2	33.3	13.6	6.1	6.1
	夫婦	199	55.8	53.3	27.6	28.6	1.5	3.5
	二世帯（親・子）	236	65.3	52.5	29.7	19.5	3.0	2.1
	三世帯（親・子・孫）	46	56.5	39.1	37.0	15.2	2.2	13.0
	その他	23	60.9	47.8	30.4	30.4	0.0	4.3
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	61.4	53.6	29.0	19.1	3.1	4.1
	青柳小学校区	175	57.1	49.7	33.7	26.3	1.1	4.0
	渡瀬小学校区	60	58.3	63.3	30.0	21.7	1.7	3.3
	神泉小学校区	37	64.9	56.8	18.9	27.0	5.4	2.7

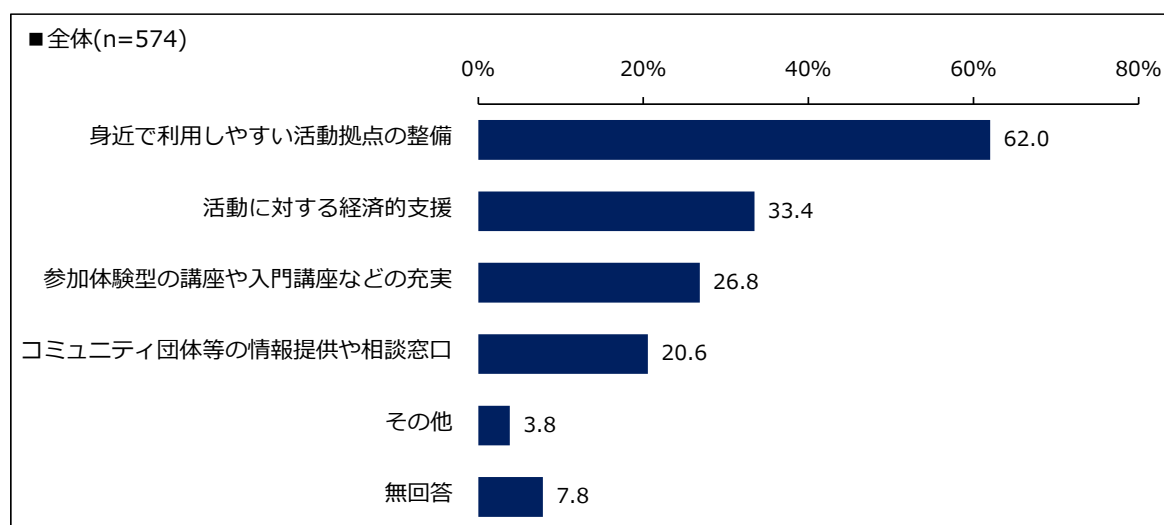
(3) 地域コミュニティの活性化のためには

問19. 地域コミュニティの活性化のため、どのような取り組みが必要だと思いますか。(2つまでに○)

◆「身近で利用しやすい活動拠点の整備」(62.0%)が6割以上を占める。

地域コミュニティ活性化の取り組みとして重要なことについて尋ねたところ、「身近で利用しやすい活動拠点の整備」が62.0%で最も多く、次いで「活動に対する経済的支援」(33.4%)、「参加体験型の講座や入門講座などの充実」(26.8%)となっています。

地域コミュニティ活性化の取り組みとして重要なこと／全体



各属性別に見ても、概ね全体と大きな違いはみられません。

居住地区別の渡瀬小学校区においては、「身近で利用しやすい活動拠点の整備」が78.3%と他の階層に比べて、非常に大きい割合となっています。

地域コミュニティ活性化の取り組みとして重要なこと

／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：%)

		標 本 数	身 活 動 近 で 利 用 し や す い 整 備	活 動 に 対 す る 経 済 的 支 援	入 参 加 門 講 座 座 験 な ど の 講 座 充 実 や	コ ミ ュ ニ ティ 団 体 等 の 情 報 提 供 や 相 談 窓 口	そ の 他	無 回 答
全 体		574	62.0	33.4	26.8	20.6	3.8	7.8
性 別	男	266	58.6	36.8	26.7	20.3	4.9	8.6
	女	245	66.5	29.0	28.2	22.9	2.9	5.7
年 齢 別	18歳～19歳	9	33.3	55.6	22.2	33.3	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	67.6	35.3	29.4	11.8	5.9	2.9
	30歳～39歳	47	61.7	40.4	31.9	17.0	6.4	6.4
	40歳～49歳	52	53.8	32.7	25.0	19.2	7.7	5.8
	50歳～59歳	110	59.1	37.3	27.3	19.1	4.5	5.5
	60歳～69歳	121	61.2	36.4	32.2	21.5	2.5	5.8
	70歳以上	198	66.7	26.3	22.7	23.2	2.5	12.6
世 帯 別	ひとり暮らし	66	59.1	37.9	21.2	27.3	7.6	7.6
	夫婦	199	64.8	29.6	22.6	20.1	1.5	9.5
	二世帯（親・子）	236	62.3	36.0	30.1	19.9	5.5	3.4
	三世帯（親・子・孫）	46	52.2	34.8	28.3	21.7	2.2	19.6
	その他	23	65.2	26.1	43.5	13.0	0.0	13.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	62.5	31.7	30.4	22.9	4.1	5.8
	青柳小学校区	175	57.1	34.9	24.6	21.1	4.0	10.9
	渡瀬小学校区	60	78.3	30.0	25.0	10.0	1.7	6.7
	神泉小学校区	37	59.5	54.1	16.2	16.2	2.7	5.4

4-4 デジタルを活用したまちづくりについて

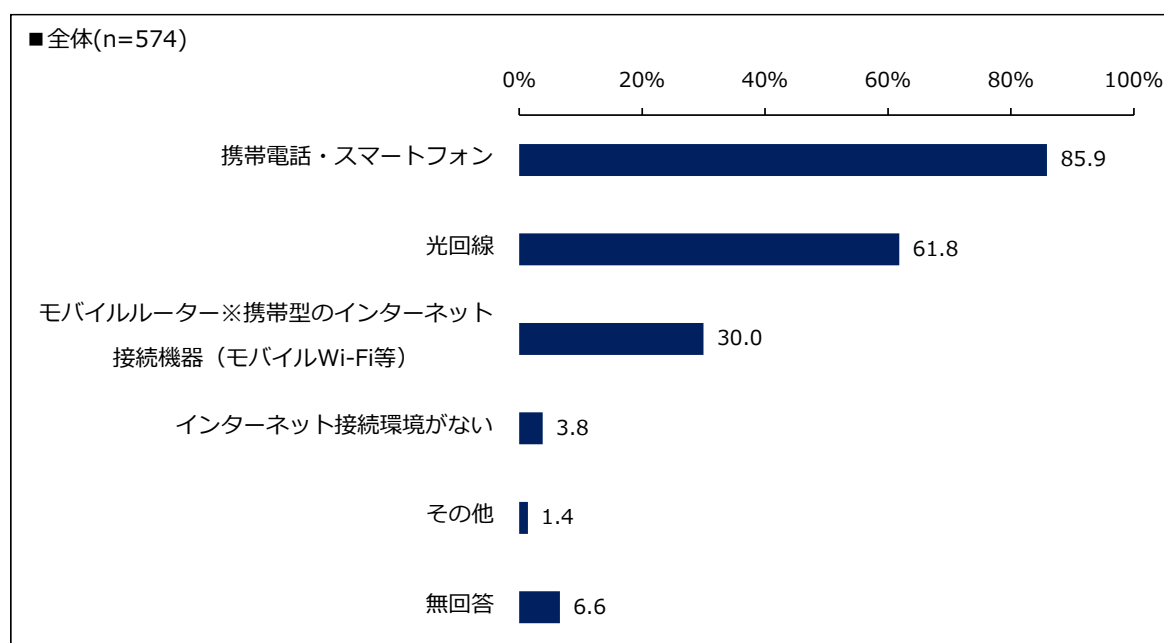
(1) インターネット接続方法について

問20. ご自宅で利用できるインターネット接続方法はどのようなものがありますか。（あてはまるもの全てを選択してください）

◆「携帯電話・スマートフォン」が85.9%と最も多い。

自宅で利用できるインターネット接続方法について尋ねたところ、「携帯電話・スマートフォン」が85.9%と最も多く、次いで「光回線」(61.8%)、「モバイルルーター※携帯型のインターネット接続機器（モバイルWi-Fi等）」(30.0%)となっています。一方、「インターネット接続環境がない」は3.8%となっています。

インターネット接続方法について／全体



「携帯電話・スマートフォン」がすべての層で最も多くなっているものの、年齢層別では70歳以上（73.7%）、世帯別ではひとり暮らし（77.3%）が他の階層に比べて少なくなっています。

インターネット接続方法について／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標 本 数	携 帯 電 話 ・ ス マ ー ト フ ォ ン	光 回 線	モ バ イ ル ・ イ ン タ ー ネ ッ ト 接 続 機 器 （ モ バ イ ル W i - F i 等 ）	イ ン タ ー ネ ッ ト 接 続 環 境 が な い	そ の 他	無 回 答
全 体		574	85.9	61.8	30.0	3.8	1.4	6.6
性 別	男	266	85.7	65.4	26.7	3.8	1.1	6.4
	女	245	86.5	60.4	32.7	3.7	1.6	5.7
年 齢 別	18歳～19歳	9	88.9	66.7	22.2	11.1	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	88.2	82.4	44.1	2.9	2.9	2.9
	30歳～39歳	47	95.7	83.0	21.3	2.1	0.0	2.1
	40歳～49歳	52	94.2	76.9	32.7	0.0	0.0	1.9
	50歳～59歳	110	94.5	72.7	41.8	0.9	0.0	1.8
	60歳～69歳	121	90.9	66.1	33.9	3.3	0.8	3.3
	70歳以上	198	73.7	40.4	20.2	7.1	3.0	14.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	77.3	40.9	19.7	12.1	4.5	9.1
	夫婦	199	85.4	58.3	28.1	4.5	1.0	7.0
	二世帯（親・子）	236	90.3	75.0	34.3	1.3	0.8	3.4
	三世帯（親・子・孫）	46	82.6	52.2	28.3	2.2	0.0	13.0
	その他	23	78.3	39.1	30.4	4.3	4.3	13.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	89.1	62.8	29.4	3.8	0.3	5.5
	青柳小学校区	175	83.4	65.7	30.3	2.9	2.3	6.9
	渡瀬小学校区	60	81.7	56.7	28.3	8.3	1.7	6.7
	神泉小学校区	37	89.2	56.8	37.8	0.0	2.7	5.4

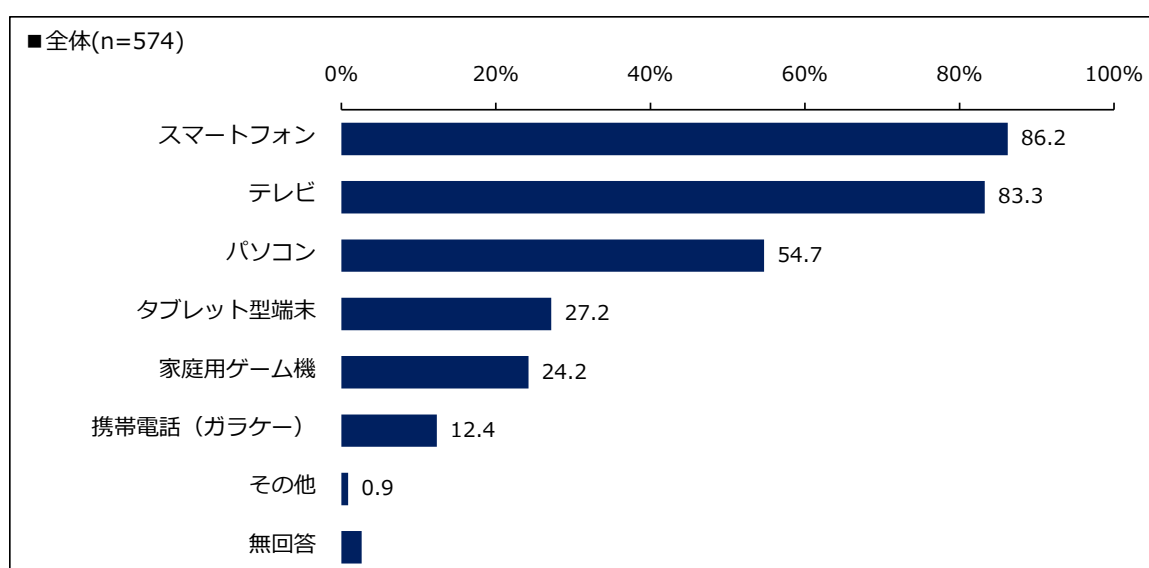
(2) 所有している通信機器について

問21. 現在、所有している通信機器を教えてください。（あてはまるもの全てを選択してください）

◆「スマートフォン」（86.2%）、「テレビ」（83.3%）が8割超え。

現在所有している通信機器について尋ねたところ、「スマートフォン」（86.2%）、「テレビ」（83.3%）が8割を超える結果となりました。以下「パソコン」（54.7%）、「タブレット端末」（27.2%）、「家庭用ゲーム機」（24.2%）「携帯電話（ガラケー）」（12.4%）の順となっています。

所有している通信機器について／全体



全ての層において、上位2つは「スマートフォン」、「テレビ」となっており、割合の違いはありますが、概ね全体と大きな違いは見られません。

年齢別で70歳以上において、「スマートフォン」の割合が67.2%とやや小さくなっています。

所有している通信機器について／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：%)

		標 本 数	ス マ ー ト フ ォ ン	テ レ ビ	パ ソ コ ン	タ ブ レ ッ ト 型 端 末	家 庭 用 ゲ ー ム 機	携 帯 電 話 (ガラケー)	そ の 他	無 回 答
全 体		574	86.2	83.3	54.7	27.2	24.2	12.4	0.9	2.6
性 別	男	266	87.6	79.7	58.6	29.7	24.1	15.0	1.5	2.6
	女	245	85.3	87.3	52.2	26.5	27.3	8.6	0.0	3.3
年 齢 別	18歳～19歳	9	100.0	88.9	77.8	55.6	77.8	11.1	0.0	0.0
	20歳～29歳	34	94.1	94.1	85.3	44.1	70.6	5.9	0.0	2.9
	30歳～39歳	47	97.9	83.0	68.1	44.7	63.8	4.3	0.0	2.1
	40歳～49歳	52	96.2	80.8	53.8	44.2	50.0	9.6	1.9	3.8
	50歳～59歳	110	97.3	87.3	63.6	40.0	30.9	7.3	0.9	0.0
	60歳～69歳	121	95.0	83.5	61.2	19.0	9.1	4.1	0.8	0.8
	70歳以上	198	67.2	80.3	35.9	12.1	3.5	24.2	1.0	5.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	74.2	74.2	43.9	16.7	4.5	16.7	1.5	6.1
	夫婦	199	87.4	86.4	51.8	17.6	9.0	10.6	1.0	2.0
	二世帯（親・子）	236	91.5	84.7	62.7	37.7	42.4	11.0	0.4	1.3
	三世帯（親・子・孫）	46	73.9	73.9	56.5	30.4	28.3	15.2	2.2	8.7
	その他	23	78.3	87.0	26.1	21.7	13.0	21.7	0.0	0.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	89.8	82.9	57.3	28.7	28.0	10.6	1.0	2.4
	青柳小学校区	175	83.4	85.1	52.6	25.7	23.4	12.6	0.6	1.7
	渡瀬小学校区	60	81.7	78.3	48.3	25.0	13.3	16.7	0.0	5.0
	神泉小学校区	37	86.5	83.8	56.8	29.7	18.9	10.8	2.7	2.7

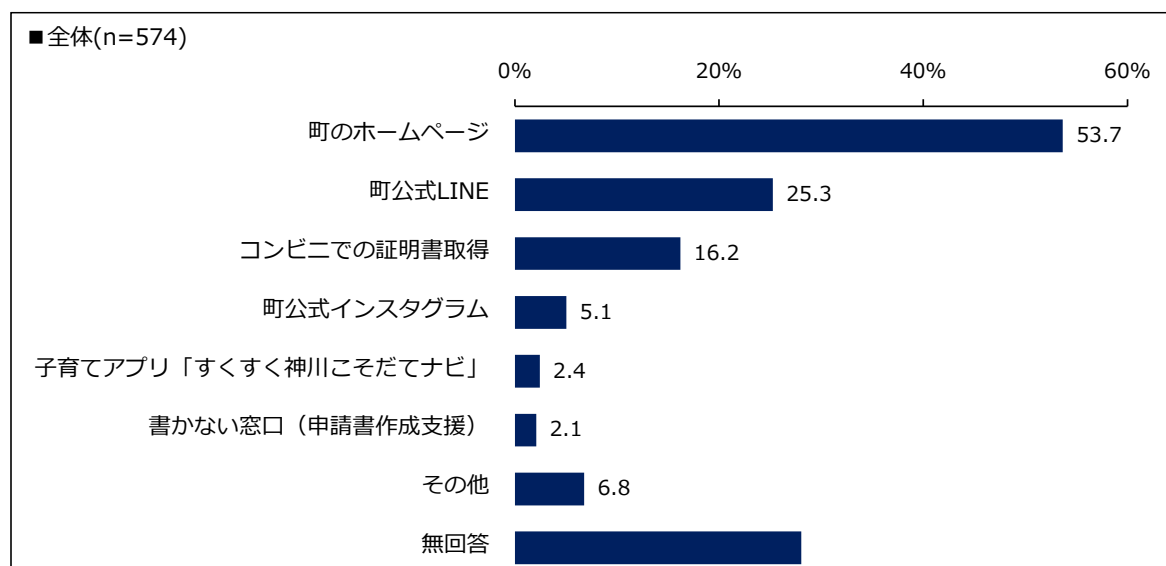
(3) デジタル行政サービスについて

問22. 神川町で提供しているデジタル行政サービス（インターネットで接続しているサービス）で利用したことがあるものをすべてお答えください。（あてはまるもの全てを選択してください）

◆「町のホームページ」53.7%が利用したことがある。

町が提供しているデジタル行政サービスの利用について尋ねたところ、「町のホームページ」が53.7%で最も多く、次いで「町の公式LINE」(25.3%)、「コンビニでの証明書取得」(16.2%)となっています。

利用したことのあるデジタル行政サービスについて／全体



「町のホームページ」がすべての層で最も大きくなっていますが、年齢別でみると、年代により割合に差がみられ、特に70歳以上は33.3%と小さくなっています。

利用したことのあるデジタル行政サービスについて
／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：%)

		標 本 数	町 の ホ ー ム ペ ー ジ	町 公 式 L I N E	コ ン ビ ニ で の 証 明 書 取 得	町 公 式 イ ン ス タ グ ラ ム	「すくすく 子育てアプリ 神川こそだてナビ」	(申請書作成支援) 書かない窓口	その他	無 回 答
全 体		574	53.7	25.3	16.2	5.1	2.4	2.1	6.8	28.0
性 別	男	266	57.1	22.2	18.8	4.5	1.1	2.3	5.6	28.2
	女	245	52.7	28.6	13.1	6.1	4.1	2.0	8.2	26.1
年 齢 別	18歳～19歳	9	66.7	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1
	20歳～29歳	34	55.9	26.5	20.6	2.9	11.8	2.9	11.8	17.6
	30歳～39歳	47	70.2	29.8	36.2	10.6	8.5	0.0	8.5	12.8
	40歳～49歳	52	65.4	28.8	26.9	9.6	3.8	1.9	5.8	17.3
	50歳～59歳	110	66.4	40.0	18.2	4.5	1.8	2.7	5.5	14.5
	60歳～69歳	121	62.8	31.4	12.4	3.3	0.0	0.8	7.4	20.7
	70歳以上	198	33.3	11.6	8.6	4.0	0.5	2.0	6.1	49.5
世 帯 別	ひとり暮らし	66	53.0	10.6	15.2	3.0	1.5	3.0	10.6	34.8
	夫婦	199	51.8	28.1	15.1	3.0	0.0	1.5	3.5	29.6
	二世帯（親・子）	236	58.9	29.2	18.6	6.4	3.4	2.1	8.1	22.9
	三世帯（親・子・孫）	46	43.5	21.7	8.7	10.9	8.7	0.0	6.5	39.1
	その他	23	39.1	13.0	13.0	4.3	4.3	4.3	13.0	26.1
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	55.3	28.3	13.3	5.1	3.4	2.0	7.8	25.9
	青柳小学校区	175	49.1	22.9	18.9	5.1	1.1	1.7	6.3	31.4
	渡瀬小学校区	60	50.0	15.0	25.0	0.0	0.0	3.3	3.3	30.0
	神泉小学校区	37	73.0	32.4	13.5	13.5	5.4	2.7	8.1	18.9

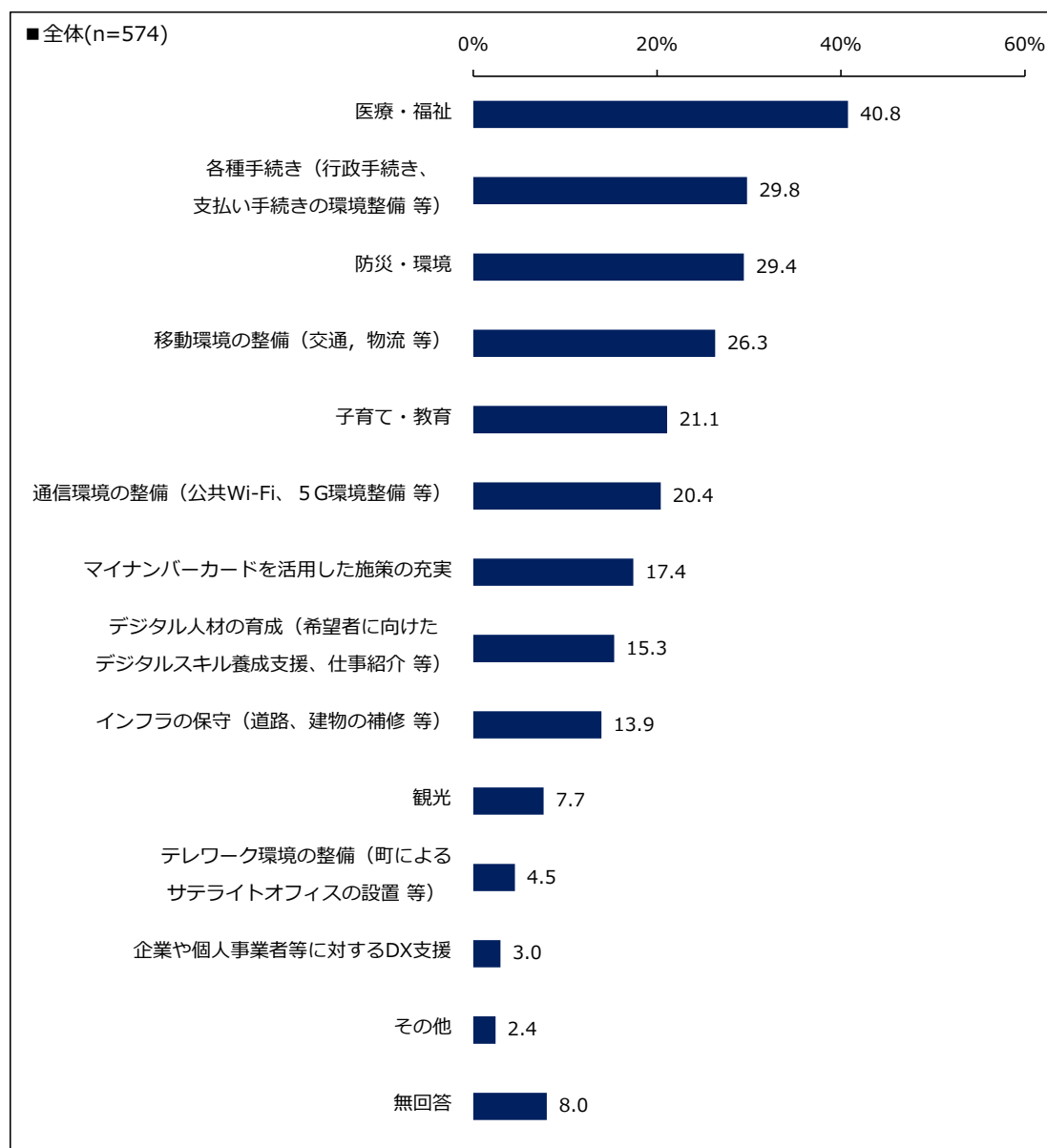
(4) デジタル化促進の取り組みについて

問23. 神川町が今後実施するデジタル化促進の取り組みとして、どのようなものに力を入れてほしいと思いますか。（3つまで○）

◆「医療・福祉」（40.8%）が4割で最も多い。

今後実施するデジタル化促進の取り組みについて尋ねたところ、「医療・福祉」が40.8%で最も多く、次いで各種手続き（行政手続き、支払い手続きの環境整備 等）（29.8%）、「防災・環境」（29.4%）、「移動環境の整備（交通、物流等）」（26.3%）となっています。

デジタル化促進の取り組みについて／全体



年齢別で見ると、50歳以上では、全体と同様「医療・福祉」が最も多くなっていますが、18歳～19歳では「移動環境の整備」(77.8%)、20歳～29歳では「子育て・教育」(47.1%)、30歳～39歳では「各種手続き」(46.8%)、40歳～49歳では「通信環境の整備」(38.5%)と年代によって違いがみられます。

デジタル化促進の取り組みについて／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標本数	医療・福祉	各種手続き（行政手続き、支払い手続きの環境整備等）	防災・環境	移動環境の整備（交通、物流等）	子育て・教育	（公共Wi-Fi、5G環境整備等）	マイナンバーカードを活用した施策の充実	デジタル人材の育成（希望者に向けたデジタルスキル養成支援、仕事紹介等）	インフラの保守（道路、建物の補修等）	観光	（町によるサテライトオフィスの設置等）	企業や個人事業者等に対するDX支援	その他	無回答
全 体		574	40.8	29.8	29.4	26.3	21.1	20.4	17.4	15.3	13.9	7.7	4.5	3.0	2.4	8.0
性 別	男	266	37.2	35.3	27.8	23.7	18.8	21.4	21.4	15.8	16.2	6.8	5.6	2.6	1.5	8.3
	女	245	45.7	23.7	31.4	30.2	24.5	22.0	13.5	15.9	10.6	9.0	4.1	3.3	2.9	6.1
年 齢 別	18歳～19歳	9	0.0	44.4	0.0	77.8	22.2	33.3	22.2	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	20歳～29歳	34	38.2	29.4	8.8	20.6	47.1	29.4	14.7	14.7	17.6	11.8	11.8	2.9	5.9	0.0
	30歳～39歳	47	27.7	46.8	29.8	42.6	44.7	17.0	21.3	6.4	10.6	4.3	6.4	2.1	2.1	4.3
	40歳～49歳	52	36.5	36.5	21.2	19.2	32.7	38.5	9.6	11.5	11.5	9.6	3.8	1.9	0.0	5.8
	50歳～59歳	110	38.2	28.2	25.5	24.5	17.3	29.1	20.0	14.5	14.5	11.8	7.3	5.5	5.5	3.6
	60歳～69歳	121	52.9	31.4	37.2	28.9	19.0	19.0	18.2	14.9	9.9	9.9	2.5	0.8	1.7	3.3
	70歳以上	198	41.9	23.7	33.8	22.7	11.6	10.6	17.2	18.7	15.2	4.0	3.0	3.5	1.5	16.2
世 帯 別	ひとり暮らし	66	43.9	21.2	27.3	28.8	7.6	18.2	24.2	19.7	18.2	4.5	3.0	6.1	6.1	7.6
	夫婦	199	49.2	30.7	32.2	26.1	18.1	15.6	16.6	16.6	11.6	9.0	4.0	2.0	1.5	8.0
	二世帯（親・子）	236	33.5	32.2	28.0	27.5	25.8	28.4	15.3	13.6	14.8	8.1	4.7	2.5	2.1	6.4
	三世帯（親・子・孫）	46	39.1	30.4	21.7	23.9	32.6	10.9	21.7	17.4	8.7	4.3	2.2	4.3	4.3	15.2
	その他	23	43.5	21.7	43.5	13.0	13.0	8.7	21.7	4.3	21.7	4.3	17.4	4.3	0.0	8.7
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	43.0	30.7	29.7	25.3	23.9	20.1	15.0	17.4	14.0	7.2	3.8	2.0	3.1	6.8
	青柳小学校区	175	38.3	29.1	26.9	24.0	19.4	21.1	19.4	13.1	16.0	7.4	5.7	5.1	1.1	10.3
	渡瀬小学校区	60	40.0	28.3	35.0	38.3	15.0	13.3	25.0	13.3	13.3	5.0	3.3	1.7	0.0	8.3
	神泉小学校区	37	37.8	29.7	32.4	27.0	10.8	32.4	16.2	10.8	5.4	16.2	8.1	2.7	8.1	2.7

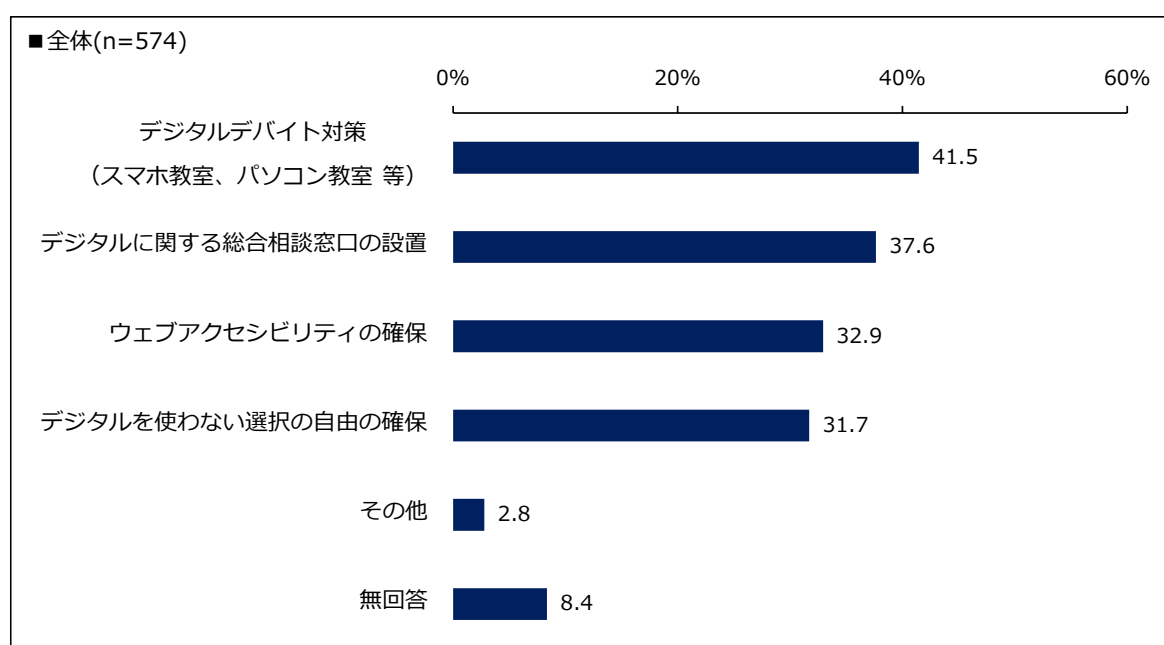
(5) デジタル化の恩恵を受けるために

問24. 誰もがデジタル化の恩恵を受けることができるようになるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(2つまでに○)

◆「デジタルデバイト対策」(41.5%)が4割超えで最も多い。

デジタル化の恩恵を受けるための取り組みについて尋ねたところ、「デジタルデバイト対策」が41.5%で最も多く、次いで、「デジタルに関する総合相談窓口の設置」(37.6%)、「ウェブアクセシビリティの確保」(32.9%)となっています。

デジタル化の恩恵を受けるための取り組みについて／全体



性別でみると、男性が「デジタルデバイト対策」(48.1%)、女性が「デジタルを使わない選択の自由の確保」(37.6%)が最も高くなっています。

年齢別でみると、30歳～39歳で「デジタルに関する総合相談窓口の設置」(53.2%)、40歳～49歳で「ウェブアクセシビリティの確保」(42.3%)がそれぞれ最も高くなっています。

世帯別でみると、ひとり暮らしで「デジタルに関する総合相談窓口の設置」(47.0%)、三世帯で「ウェブアクセシビリティの確保」(39.1%)がそれぞれ最も高くなっています。

居住地区別では、神泉小学校区で「デジタルに関する総合相談窓口の設置」(51.4%)と最も高くなっています。

所有している通信機器について／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：%)

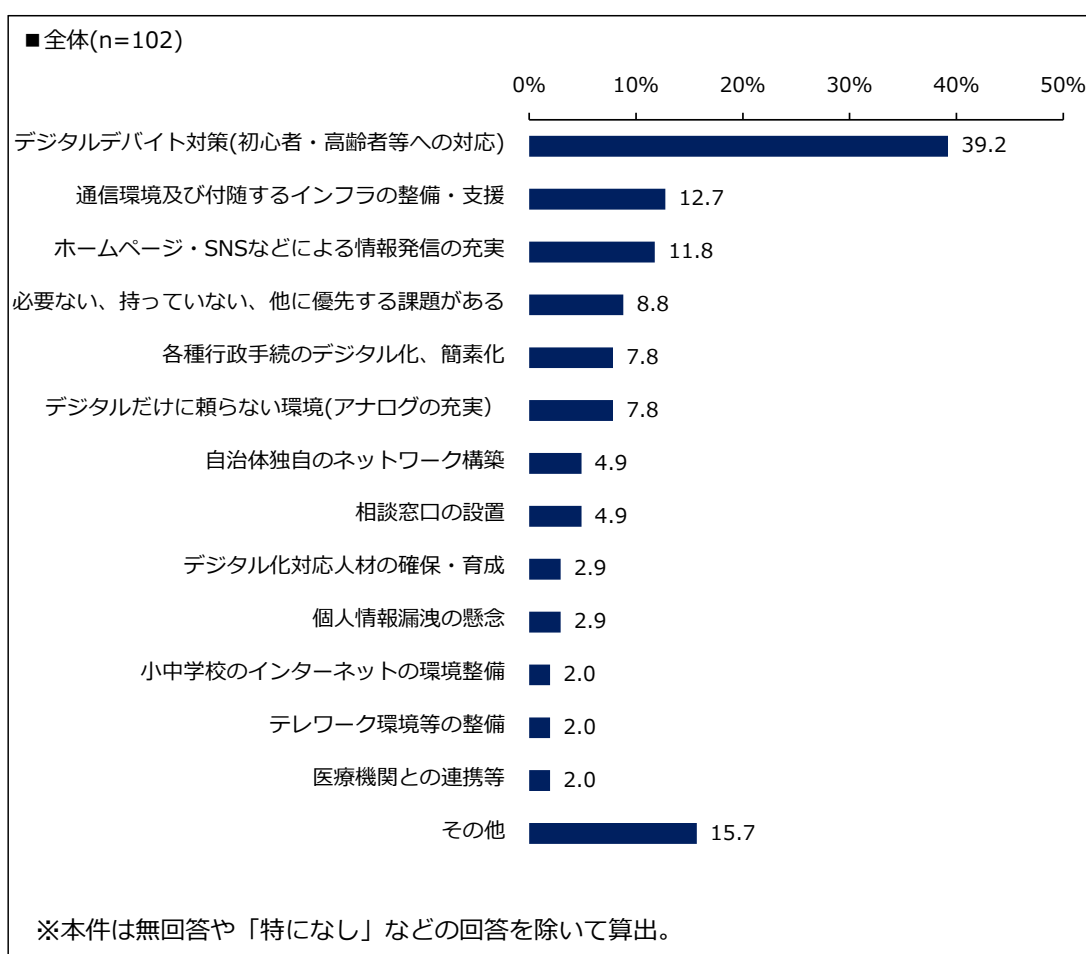
		標本数	(スマートフォン教室、パソコン教室等)	デジタルに関する総合相談窓口の設置	ウェブアクセシビリティの確保	デジタルを使わない選択の自由の確保	その他	無回答
全 体		574	41.5	37.6	32.9	31.7	2.8	8.4
性 別	男	266	48.1	39.5	33.1	27.4	3.4	7.9
	女	245	35.5	35.9	35.9	37.6	1.6	7.3
年 齢 別	18歳～19歳	9	55.6	44.4	22.2	33.3	0.0	11.1
	20歳～29歳	34	52.9	17.6	41.2	38.2	0.0	2.9
	30歳～39歳	47	36.2	53.2	44.7	27.7	4.3	2.1
	40歳～49歳	52	34.6	40.4	42.3	26.9	1.9	3.8
	50歳～59歳	110	47.3	37.3	34.5	29.1	7.3	3.6
	60歳～69歳	121	44.6	41.3	39.7	28.9	0.8	3.3
	70歳以上	198	36.9	34.3	21.7	36.4	2.0	17.7
世 帯 別	ひとり暮らし	66	40.9	47.0	33.3	28.8	3.0	7.6
	夫婦	199	41.7	35.7	28.1	33.7	2.5	10.6
	二世帯（親・子）	236	42.8	39.0	37.3	31.4	3.0	4.2
	三世帯（親・子・孫）	46	37.0	30.4	39.1	26.1	2.2	15.2
	その他	23	39.1	30.4	17.4	34.8	4.3	17.4
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	41.0	36.9	33.8	32.1	2.7	7.2
	青柳小学校区	175	41.7	36.0	32.6	32.6	2.3	9.1
	渡瀬小学校区	60	43.3	36.7	28.3	36.7	3.3	8.3
	神泉小学校区	37	40.5	51.4	37.8	21.6	5.4	8.1

(6) デジタル化推進施策について

問25. 町のデジタル化推進施策についてご要望・ご意見（具体的に実施してほしい施策など）がありましたらご記入ください。（自由記述）

◆「デジタルバイト対策（初心者・高齢者への対応）」が39.2%で最多。

デジタル化推進施策についてご要望・ご意見を尋ねたところ、「デジタルデバイト対策（初心者・高齢者への対応）」が39.2%で最も高く、次いで、「通信環境及び付随するインフラの整備・支援」（12.7%）、「ホームページ・SNSなどによる情報発信の充実」（11.8%）となっています。



性別でみると、傾向は全体とかわらないものの、「デジタルデバイト対策（初心者、高齢者等への対応）」が男性（29.1%）より女性（51.2%）の方が高くなっています。

年齢別でみると、20歳～29歳で「ホームページ・SNSなどの情報発信の充実」（42.9%）が最も高くなっています。

居住地区別では、渡瀬小学校区で「必要ない、持っていない、他に優先する課題がある」（42.9%）が最も高くなっています。

デジタル化推進施策についてのご要望・ご意見 ／全体、性別、年齢別、世帯別、居住地区別

（単位：％）

		標本数	デジタルデバイト対策（初心者・高齢者等への対応）	通信環境及び付随するインフラの整備・支援	ホームページ・SNSなどによる情報発信の充実	必要ない、持っていない、他に優先する課題がある	各種行政手続のデジタル化、簡素化	デジタルだけに頼らない環境（アナログの充実）	自治体独自のネットワーク構築	相談窓口の設置	デジタル化対応人材の確保・育成	個人情報漏洩の懸念	小中学校のインターネットの環境整備	テレワーク環境等の整備	医療機関との連携等	その他
全 体		102	39.2	12.7	11.8	8.8	7.8	7.8	4.9	4.9	2.9	2.9	2.0	2.0	2.0	15.7
性 別	男	55	29.1	18.2	12.7	7.3	9.1	9.1	9.1	5.5	1.8	5.5	3.6	3.6	1.8	12.7
	女	41	51.2	7.3	12.2	12.2	4.9	4.9	0.0	4.9	2.4	0.0	0.0	0.0	2.4	19.5
年 齢 別	18歳～19歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	20歳～29歳	7	28.6	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3
	30歳～39歳	8	25.0	12.5	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	40歳～49歳	6	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0
	50歳～59歳	29	27.6	24.1	13.8	10.3	6.9	3.4	10.3	10.3	3.4	6.9	0.0	3.4	3.4	10.3
	60歳～69歳	121	25.0	10.0	10.0	5.0	5.0	20.0	5.0	10.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	15.0
	70歳以上	29	69.0	3.4	6.9	6.9	3.4	3.4	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	3.4	0.0	10.3
世 帯 別	ひとり暮らし	16	31.3	18.8	0.0	6.3	6.3	12.5	12.5	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	18.8
	夫婦	32	46.9	9.4	9.4	9.4	6.3	12.5	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0	12.5
	二世帯（親・子）	44	31.8	13.6	20.5	6.8	11.4	4.5	6.8	4.5	4.5	4.5	0.0	2.3	0.0	20.5
	三世帯（親・子・孫）	7	57.1	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
	その他	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	60	33.3	10.0	16.7	6.7	8.3	8.3	5.0	3.3	1.7	3.3	1.7	1.7	1.7	21.7
	青柳小学校区	25	56.0	20.0	0.0	8.0	8.0	4.0	4.0	8.0	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0
	渡瀬小学校区	7	14.3	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	神泉小学校区	9	44.4	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2

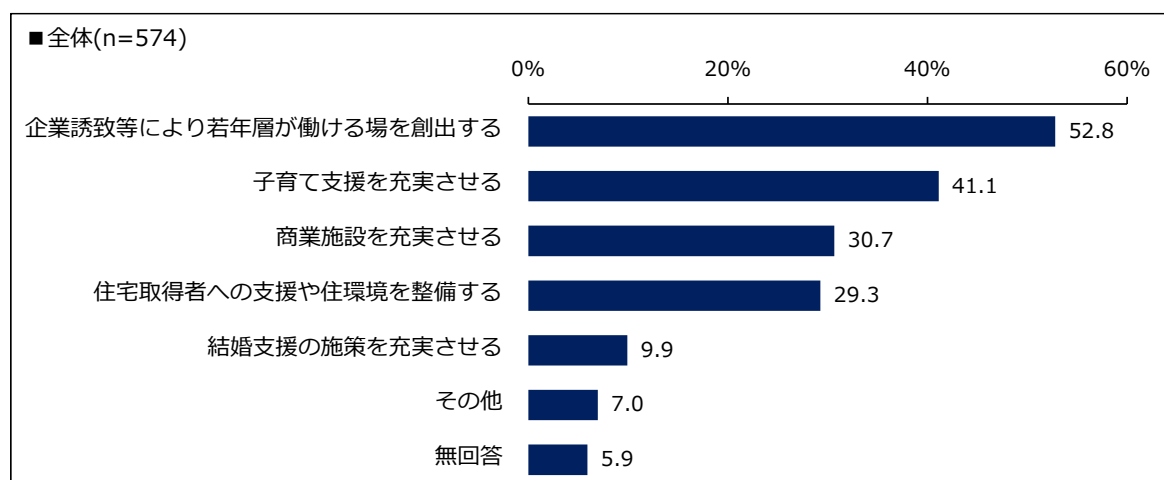
（７）消滅可能性自治体から脱却するために

問26. 神川町が消滅可能性自治体から脱却するためには何が重要だと思いますか。（最もイメージに近い2つに○）

◆「企業誘致等により若年層が働ける場を創出する」が52.8%で最も多く、次いで「子育て支援を充実させる」が41.1%。

消滅可能性自治体から脱却するために何が重要かを尋ねたところ、「企業誘致等により若年層が働ける場を創出する」が52.8%で最も多く5割超となった。次いで「子育て支援を充実させる」（41.1%）、「商業施設を充実させる」（30.7%）、「住宅取得者への支援や住環境を整備する」（29.3%）となっています。

消滅可能性自治体から脱却するために／全体



性別で見ると、男性、女性とも「企業誘致等により若年層が働ける場を創出する」が最も多く、全体の比へても大きな差はみられません。

年齢別では、50歳未満と50歳以上で差がみられます。50歳未満では「子育て支援を充実させる」が最も多いのに対し、50歳以上では「企業誘致等により若年層が働ける場を創出する」となっています。

世帯別、居住地区別では、すべての層で全体同様「企業誘致等により若年層が働ける場を創出する」が最も多くなっています。また、居住地区別の渡瀬小学校区では「子育て支援を充実させる」(26.7%)が他の地区より低く、一方で「商業施設を充実させる」(41.7%)、が他の地区により高くなっています。

消滅可能性自治体から脱却するために／性別、年齢別、世帯別、居住地区別

(単位：％)

		標本数	子育て支援を充実させる	商業施設を充実させる	住宅取得者への支援や住環境を整備する	企業誘致等により若年層が働ける場を創出する	結婚支援の施策を充実させる	その他	無回答
全 体		574	41.1	30.7	29.3	52.8	9.9	7.0	5.9
性 別	男	266	41.7	25.9	33.5	52.3	13.2	7.1	4.9
	女	245	40.0	36.7	25.3	52.7	7.8	7.3	5.7
年 齢 別	18歳～19歳	9	66.7	44.4	0.0	55.6	11.1	0.0	11.1
	20歳～29歳	34	52.9	29.4	29.4	47.1	17.6	8.8	2.9
	30歳～39歳	47	51.1	38.3	36.2	38.3	12.8	6.4	2.1
	40歳～49歳	52	44.2	38.5	26.9	40.4	3.8	11.5	3.8
	50歳～59歳	110	40.9	34.5	39.1	47.3	3.6	10.0	3.6
	60歳～69歳	121	40.5	30.6	24.0	59.5	10.7	7.4	4.1
	70歳以上	198	35.9	24.7	26.8	59.6	12.1	4.0	10.1
世 帯 別	ひとり暮らし	66	36.4	28.8	30.3	56.1	13.6	4.5	7.6
	夫婦	199	37.2	31.2	28.6	57.8	10.6	5.5	5.0
	二世帯（親・子）	236	45.8	32.6	29.2	49.6	8.5	9.3	3.4
	三世帯（親・子・孫）	46	39.1	19.6	32.6	47.8	10.9	6.5	17.4
	その他	23	47.8	30.4	26.1	47.8	8.7	4.3	8.7
居 住 地 区 別	丹荘小学校区	293	44.4	31.7	27.3	49.5	9.6	8.9	5.8
	青柳小学校区	175	39.4	28.0	31.4	54.3	10.3	4.6	6.3
	渡瀬小学校区	60	26.7	41.7	30.0	68.3	8.3	0.0	5.0
	神泉小学校区	37	43.2	21.6	40.5	48.6	10.8	13.5	2.7

5 自由回答

問27. 問26で○をつけた内容について具体的に実施してほしい施策がありましたら下の欄にご記入ください。その他、これからの神川町の人口減少対策について、ご意見やご要望がありましたらご自由にご記入ください。

回答者の記載内容を尊重し、極力原文のまま掲載していますが、個人が特定できるような内容に関しましては掲載しておりません。

【1. 子育て支援を充実させる】

- ・子育ての経済的支援が充実すれば2人目、3人目を考える人も増えるのではないのでしょうか。また、支援が充実していると転入してくる人もいると思います。シングルマザー（ファーマザー）の受け入れの場合は、仕事や保育にも力を入れる必要はあると思います。（同様9件）
- ・教育は質の担保と同時に、給食を含めたハード面のさらなる整備を希望します。
- ・保育園0才からの無償化や子どもの数に応じた手当などがあると良い。他の町では実施されているような支援が神川町では実施されておらず残念に思う。新たな移住者が来るためには子育て世代への支援が必要不可欠だと思います。
- ・はにぼんプラザ（本庄市）のような施設を作してほしい。図書館を大きく充実した場にしてほしい（本を増やしたり、勉強するスペースの確保）。多くの子供が遊べる公園を作してほしい。（同様2件）
- ・子供の数があまりにも減っていて、育成会・スポ少など活動が難しくなっています。子供の数が増え、ママ達が仲良く話せる場などあったらと思います。（同様1件）
- ・子供がいる世帯に住宅補助金や、医療費無料（子供）など、所得の低い子育て家庭には色々な手当が必要だと思います。子供達が、お腹をすかせたりしない世の中になってほしいです。
- ・中学生・高校生が勉強できるフリースペースが全くないので、本庄市へ行って勉強している状況です。友達と勉強したくてもする場所が無いのが現状です。そういう場所があれば学生も来ると思います。
- ・子供を預けられる時間を長くし働きやすい環境づくり、病院（小児科）の増加。
- ・低所得者家庭等に対する子ども食堂や、食料バンクの設置。
- ・出産費用や不妊治療への補助金（縛りがなく誰でも受けられる）。
- ・小さい子供さんが安心して通学できる施策をしてほしいものです。
- ・子育て支援を充実していただくのはとても魅力的です。他の自治体と差をつけていただくと、神川に住んでいるメリットを感じられると思います。また、一時的なものより持続的な子育て支援があると、神川に住み続けるメリットになるのかなと思います。
- ・保育料0～2歳は無料にしてほしい。深谷市・上里町は無料になっています。
- ・共働きが多いので、PTAの負担が大きい（PTA廃止）。
- ・住宅取得前に土地の無償提供や子育て支援に野菜や果物、B級品の無料配布（農家の方に補助金）、子育て環境改善、保育園・保育所の整備（プール施設とか）など。
- ・子供と遊ぶ触れ合うイベントを午前だけでなく午後も参加できる様にする。
- ・若い世代の人が移住できるよう、保育園、小中学校生は町内のどこからでも無料で送迎できるようにしてもらいたい。
- ・子育て支援が神川町はとても充実していると感じています。私自身現在子育てをしています、助かることがたくさんあるので（ランドセルや給付金等）、このまま継続或いは向上していけたら若い世代が住みやすい町になるのではないかと思います。

【2. 商業施設を充実させる】

- ・ 商業施設誘致や小中型スーパーの建設。（同様3件）
- ・ 神川町の自然を生かして、群馬県にある道の駅川場のような大型農産物販売所もいいのではないのでしょうか。今の時代、農産物も良いものを置かなくては人が来ないと思います。
- ・ カフェや気軽に利用出来るスペースなどがある商業施設を作ることによって若年層にも町に来てもらえるきっかけを作ること出来ると思います。（同様1件）
- ・ 買い物は、ほとんど町外でしています。神川町にも大きいスーパーが出来れば良いと思います。（同様3件）
- ・ 丹荘駅周辺に商業施設を集中させスモールタウン化すべき。空き農地の活用（商業施設・住宅）等。役場周辺も未使用地多い。（同様1件）
- ・ 商業施設については、地域に合った施設が必要。高齢者が多い地域に都会で流行しているようなものは合わないと思う。反面、若者に好まれる様なものかと言うと中途半端。
- ・ 出前が出来る店を増やす。店が出店できるように金銭的支援をする。
- ・ 自家用車の利用が出来なくなると、買い物等に不便になるため食料等が確保できる店や、薬品などが変える店が近くにほしい。
- ・ 青柳地区には商業施設がコンビニ位しかないので、コンビニ以外で買い物出来る所があれば良いと思うし、高齢者にとって買い物は切実な問題だと思う。
- ・ プレミアム商品券があった時、上里町・本庄・児玉だったらなあと思った自分がいた。神川町には自分が使いたい・使えるところが1、2件くらいしかなかった。
- ・ 町が活性化する為には、神川町に足を運び色々な方々に見てもらう事がまず重要なのではないかと思います。神川町の古き良き文化を時代のニーズに合わせて、魅力にあふれた商業施設や道の駅など構築等、やり方次第で変わる町だと信じています。感性を持った方を集め施策等、応援しています。

【3. 住宅取得者への支援や住環境を整備する】

- ・ 若い人へ土地の斡旋を行い、多くの人を神川町に呼び込む。持ち家を増やす事でこの地に留まる人も多くいると考えます。
- ・ 移住支援金など、他自治体の成果を参考にしようでしょうか。結局はそういう施策に頼らざるを得ないのかなと感じます。（同様2件）
- ・ 住宅を建てる際の補助金があるといい。（同様3件）
- ・ 町で働く若い人達が、神川町以外で住居を持っていることは、町のPRにならないと思う。より多くの人々に住んでもらいたいなら、先ず自分自身で住み町の良さをアピールしなければ机上の空論である。特に町役場の若い職員に神川町に住んでもらうこと。この町の良さを多く発信してもらうこと。
- ・ 自然災害が少なく住みよい環境をもっとアピール。
- ・ 神川町への転入転出者の意向調査をしてみたいかですか？
- ・ 高齢者が多くなり、農業の後継者がどんどん少なくなり、耕作放棄地が増え手に負えない状況。農地を利用し宅地に移行出来る様にすれば、若者が緑豊かな神川町に来てくれるのではないのでしょうか。
- ・ 空き家や使用してない畑など、間に役所が入って頂いて賃借できる仕組みがあるとお互い安心かと思います。（同様3件）
- ・ 空き家が古くなり今にも崩れそうな一軒家が目に付きます。このような建物が少しでも減り、土地の確保や新住居が建てられるようになれば良いと感じています。森林地帯を開拓して居住地を増やすことは減らしてほしい。所有者が不明、連絡が取れない場合も、条件で撤去できるようにして欲しい。
- ・ 住宅用の土地を探している方に土地を譲りたいのですが、不利用の農地を簡単に宅地に変えられないので、困っています。（同様5件）

- 空き家のまま放置されている住宅がかなりあり、獣の住処になっている所が多い。解体やリユースなどの補助金の対策をお願いしたい。（同様5件）
- 他の市町で行っている制度で、新しく移住してきた若い夫婦にリノベーションをした空き家を提供し、何年間かは町民税無料で家賃も安く、何年間か住続けると家をもらえとか、都心に出て働く人や学生の交通費を何割か援助するなどを検討してはどうでしょうか。
- 中山間地へ若者の入居希望者を何人か知っているが、空き家等の取得や借家などの難しさがあり、実現出来ない現状を何とかしてもらいたい。
- 農業の後継者が少なくなっているの、農地が荒れ放題になっている。荒れた土地を何らか開拓を考えてもらいたい。（同様1件）
- 幼保・小・中学校の運営効率化を優先して合併など縮小するとますますその町に住みにくくなる。少々うるさくても子供の声と遊ぶ姿をいつでもどこでも見られることが地域の活性化に繋がると思う。親子・地区男女誰でもいつでも気軽に堅苦しくなく遊べて参加できる地域のコミュニティ施設とソフト開発で住みやすく魅力ある街づくりを進めてほしい。
- 交通整備・公園整備・道路整備が今後必要だと思います。中学生が通っている旧道路が荒れている。水辺公園も荒れています。（同様6件）
- 神川町には無料の循環バスはありますか。これからはお年寄りに足をせめて無料バスはたくさん出てほしいものです。（同様2件）
- 神川町内で買い物や食事をする施設が少ないので、隣町くらいまで行きやすくなるような移動手段があればいいと思います。
- 町内バス・送迎バス等の充実。神保原駅までの交通機関の充実。公共交通の充実（同様6件）
- ゴミ収集場に大型ゴミステーション設置（共働き・不規則勤務・マナー違反・カラス対策）。
- 家庭内から出たごみや草等ごみ燃やしが多く、洗濯物や干した布団等が臭くなる為、環境に悪く住みやすい町とは思えない。若い人は子供を育てる中で臭いと住みにくい。
- 野焼きや薪ストーブ排煙など、近隣住民の迷惑を考えない高齢者が消えない限り神川町が良くなることは無い。
- 神川町内の小中学校にもアンケートを取り、神川町に今後もずっと住みたいか？他へ移住したいかの調査もしてみたらいかがでしょうか。
- 近隣地区より水道料が高く、住環境を下げている。小さな事ですが、ずっと住み続けるには大きな事柄になる。
- 住みたいと思える町造りが急務だと思います。文化風習を強制的に押し付ける様な事が、いまだに行われている事を良く聞きます。その様な事が有る場所に住みたいと思わないでしょう。今は、その時代に合った行政が大事だと思います。

【4. 企業誘致等により若年層が働ける場を創出する】

- 若者が働きたいと感じる魅力的な企業や職場が少ない。学校を卒業した若者が、働き場を求めて町外に出ていってしまう。都会から転職できない。（同様8件）
- 就活用のアプリで、神川町付近の就職先がとても少なかったの、もっと神川町付近の職場が出てくるようになってほしいです。人口減少には女性が神川町から流出していかないようにすることが必要だと思います。女性が働きたいと思える職場が増えることが重要だと思います。
- 一生懸命勉強して大学でスキルを得ても、神川町や近くにそれを活かせる場、企業がない。東京の大学へ進学、そのまま都内で働き、居を構える若者が多い。「地域を捨てる高学力」となっている。地元に戻って働き、生活したいと思わせる町とならないか。

- ・大学や企業へのアクセスを考えると、ここに若者が住み続けるのは難しいと思います。もう少しリモートワークが増えてくれば、違ってくるかもしれませんが。学生への就活斡旋など、町でも積極的にやってみても良いかもしれません。魅力的な就職先がもっと増えると良いですね。
- ・全国的に不足している各種老人介護施設を大規模に展開し、職員寮を完備、それに伴い保育、学校の時間外受入対応等々、働く環境を手厚く整えて行くというのはどうだろうか。他と同じようなことをしては消滅を阻止できないと思います。
- ・企業誘致では例えばデータセンターを作る、他には地元で作った作物と水を利用してブルワリーを開業する、山で海の魚の養殖などなど、空いている土地を利用して出来ることのあるのではないのでしょうか。
- ・国内で災害の少ない町であることを国内外にPRし、企業誘致や農地の休耕地を畜産等の飼料作等有効利用をすべきである。
- ・人口減少対策のひとつとして、多くの企業の誘致が欠かせません。空いている土地の利用を積極的に行い、中企業あるいは大企業を神川町に誘致し、地域住民を仕事に就かせることにより人口の減少はかなり防げると思う。あとは行政がどのように動くかにかかっていると思います。
- ・地代の安さを前面に出して企業誘致を積極的に進めると良いと思います。どのような企業を誘致するのが町のために良いかを協議できるプロジェクトを作れるかどうかが鍵となると思います。必ずしも最先端に行く大企業が良いとは限らないでしょう。
- ・とにかく大企業誘致です。熊本を手本に大規模な開発をして下さい。（同様2件）
- ・他市町村は企業誘致等で企業を訪問していると聞いています。神川町はどうでしょうか。企業誘致等により若者の働く場を創出し、住環境を整備し住んでもらう流れを作るのは難しいと思いますがぜひ実践してください。
- ・町の特産品で作る食品工場の設置とかどうでしょうか。
- ・企業誘致をするための建設用地の確保。
- ・賃金が高い高度人材の育成や起業しやすい環境（アドバイス機関等起業支援の充実）を整え、魅力ある地域として発展を目指してもらいたい。
- ・企業誘致をしてほしいというよりも、安心安全な環境にやさしい企業を誘致して下さい！あるいは大学などを持ってくるのもよいかと…。今でいうなら日本語学校を建てるとか。

【5. 結婚支援の施策を充実させる】

- ・結婚祝い金の充実。
- ・子育て支援を考える前になぜ今の若者が結婚しないのか、できないのか個々に理由はあると思いますが、そのことを考えてほしいと思います。
- ・若者が結婚出来ない人が多いのは、給料が安く物価が高いため生活が出来無いとのことをよく耳にします。
- ・男女交流ができるような「イベント」「サークル活動」を作してほしい。
- ・独身者に向けてのイベントを毎年開催し、出産から子育てへの支援の充実を説明する。

【6. その他】

- ・観光に力を入れてほしい。廃校を利用する千葉にある道の駅みたいに、もっと特産品を活かしてほしい。
- ・もっと他の行政を参考にする。子育てしてもみんな都会に行ってしまう。
- ・合併による規模の確保、コンパクトシティ化を見越した行政運営。神川町の経済規模では、しっかりできることは限られていると思う。町の価値向上のために様々な側面で力が分散するよりも、選択と集中を考えた方が良い。

- ・土地そのものは悪くない。ただ商業・観光・医療・子育てを地元だけで充実させるのは困難なので、他の場所への行きやすさを充実させ広い地域で質を上げていくことが一つの道と考える。
- ・神川町の知名度を上げるために、神泉の自然を文化を活かした行政を望みます。（同様1件）
- ・農業や産業に関しては新しい技術などを採用して稼げる方法を探り収入面での安定をアピールしなければ、新たに就農する人や農家を継ごうと言う人は出てきません。農業大学などで就農者を募集してみても良いのではないかと考えています。
- ・神川町の名前が消滅しても人々がそこに住み続けられるのであれば、早めに周辺の市町に吸収合併されても良いのではないかと考えています。
- ・困ったときに相談できてアドバイスしてくれる課があると、安心して暮らせると 생각합니다。気軽に行って相談できると良いと思います。
- ・神川町にも自慢できる観光地もたくさんあります。メディアを利用しPRができると良いのではないかと考えています。小中一貫校も魅力なのでぜひ活かしてほしいです。
- ・東京に近い田舎なので、東京に疲れた人々の受け皿になれると思います。せっかくの八高線もあるので、観光に活用出来たら良いですね。
- ・広域的な合併を検討する必要があるのでは。これだけ結婚しない若者が増え、人口減少が顕著なのだから消滅可能性自治体からの脱却は難しいだと思います。有識者にも聞いてみるのもいいと思います。
- ・神川町に企業を誘致して目玉となる観光ビジネスを支援する（たとえば工場見学など）。

【その他、人口減少対策について】

- ・定住人口の増加のため、現在策定中である立地適正化計画の居住誘導区域への移住、住宅建築、空き家対策に対する補助金など。
- ・都市機能誘導区域への都市機能誘導施設(特に医療施設)に対する補助金など。
- ・交通弱者である子どもに対する路線バスやデマンドバスを含む公共交通の補助。
- ・生活圏である近隣市町へのアクセスを容易にすること。
- ・子育て支援策や住宅取得支援などの施策を外部にアピールする広報展開と実施状況に於ける効果など我々町民にも情報共有していただきたい。
- ・あれもこれもと実施するより、何かに特化した施策を打って実績を積み上げた方がいいと思います。結局他の自治体と人の取り合いになってしまうのでは無いでしょうか。人口減少は神川町だけの話では無いので、維持又は緩やかな減少で、無理のない施策での対応が望ましいかと思っています。
- ・首都機能の一部を自然災害に強い神川町に誘致・移転させる計画が有っても良いのではないかと考えます。そうすれば必然的に人口も増え雇用も創出し消滅可能性自治体から脱却出来るのではないかと考えます。
- ・ふるさと納税の返礼品を充実させるのも良いのではないかと考えました。
- ・町民の意見を聞くことは良い事だと思います。但し統計的に処理して方向性を出すのは参考にする程度でしょう。町政に直接携わる町の職員の考えや意向はどうでしょうか。専門的な知識の中から良い意見がでると思います。町民の意見を尊重するのは良い事ですが、もっと町議会や役場内で具体的な施策を熟考して展開してほしい。もっと強いリーダーシップを望みます。
- ・発展ではなく神川町の田舎・不便さ・人の好きさをアピールするなど、田舎を活かした政策をお願いします。都会を真似しても勝てないと思います。
- ・人口減少対策も必要ですが、外国人のモラルの問題が大きな事故になることが心配です。外国人が増えて、子供達が危険にまきこまれることのないよう対策してもらいたいです。

- 若い人たちが住みやすい町にしてほしいと思いますが、なかなか難しいと思いますが神川中学校をこれから卒業していく人たちに聞いてみることも良い事だと思います。これから成人式に出る方にも聞いてみてはどうでしょうか？よいアイデアが出るかもしれません。（同様2件）
- 30余年神川町に住んでいますが、何も発展せず住んでいてもメリットがありません。働く場所もない、商業施設はない、老後不安で仕方ありません。正直子供達・孫達には神川から出た方が良いと話しています。大きな決断をしなければ、消滅してしまうと思います。どうか頑張ってください。
- 財源を確保する取り組みとして、観光事業に力を入れることはできないのかなと思ってしまいます。せっかく自然に恵まれているのだから、それを活かし外国や都内の方に神川に来てもらえないかなと思います。SNSを活用したり、交通の不安を解消したり、魅力的なイベントがあれば神川に観光に来ていただけるのではと思います。神川が潤い住民が安心して暮らせることを期待しています。
- デジタル化に逆行してもよいのかとも思います（神川町の良い所が失われてしまう不安があります）。本当に便利な生活になるのか疑問です。必要なデジタル化と不必要なデジタル化を見極めて頂きたいです。
- 神川町に限らず、日本人だけでは人口は減少する一方、外国人を受け入れる体制を整え、偏見や差別をせず仲良く共存できる社会を作る必要があると思う。
- 全国的に対策が難しく効果が出ていない（対策実施結果を見ても）。したがって人口減少対策は必要であるが、減少を見込んだ町の対応策を検討し実施すべきであると考えます。

神川町まちづくりアンケート 調査報告書

編集・発行：神川町役場 総合政策課
〒367-0292 埼玉県児玉郡神川町大字植竹 909
電話：0495-77-0701
F A X：0495-77-3915